

鳥栖市文化財調査報告書第70集

フケ遺跡  
神山遺跡  
内畑遺跡

市内遺跡関係埋蔵文化財調査報告書

2003

鳥栖市教育委員会

鳥栖市文化財調査報告書第70集  
市内遺跡関係埋蔵文化財調査報告書

# フケ遺跡2・3区

かみ 神 やま 山 遺 跡  
うち 内 はた 畑 遺 跡

2003

鳥栖市教育委員会



## 序

本書は、平成 8・10・11・12・13年度に実施したフケ遺跡 2 区・フケ遺跡 3 区・神山遺跡・内畑遺跡の市内遺跡関係埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査の結果、弥生時代の甕棺墓が多数確認され、貴重な資料を多く得ることが出来ました。

フケ遺跡 3 区では、甕棺を取り囲むよう並べられた石組をもつ甕棺墓を確認し、内畑遺跡では、水晶製丸玉及びガラス小玉、鞘入鉄刀子が出土しています。

本報告書は、発掘調査の記録としては十分満足のゆくものではありませんが、本書を通して地域の文化財に対して一層のご理解をいただき、また学術文化の向上に幾分か寄与するものであれば幸いに存じます。

最後に発刊にあたり、文化財保護との調整にご理解とご協力をいただきました、調査対象地の地権者ならびに地元の皆様、また発掘作業や整理作業に従事された方々に厚く御礼を申し上げます。

平成15年 3月31日

鳥栖市教育委員会

教育長 中尾 勇二

## 例 言

1. 本書は、田代本町（フケ遺跡2区・フケ遺跡3区）、柚比町（神山遺跡）、元町（内畑遺跡）の計3遺跡、4地区に所在する埋蔵文化財調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成8・10・11・13年度、整理報告は、平成12・13・14年度に、文化庁国宝重要文化財整備費補助金および佐賀県文化財保存事業補助金をうけて、鳥栖市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査にあたっては、江内田敏昭氏・岩崎昭氏・土居田悟氏・長ヒデ子氏・有限会社東光園・佐賀県教育委員会ならびに地元の方々の協力を得た。
4. 報告書作成作業は下記の分担で行い、出土遺物の整理を含む報告書作成は鳥栖市藤木町文化財整理室で行った。
  - ・遺構実測 尼寺征子・上村富士子・岡本光子・久保田弘美・古賀小代子・権藤トミ子・佐藤久枝・杉岡俊昭・武廣美佐子・中島貞子・長田和美・中村光子・西口君代・平田博子・藤尾静子・溝上直子・毛利美代子・山本美代子・龍尾えみ子・向田雅彦・久山高史・内野武史
  - ・遺構写真 向田雅彦・久山高史・内野武史
  - ・遺物写真 大庭敏男・久山高史
  - ・遺物実測 中島貞子・権藤イツヨ・松崎友子・谷川久美子・溝上直子・久山高史
  - ・図面トレース 権藤イツヨ・松崎友子
5. 本書の執筆の主な分担は下記のとおりである。
  - 第1・2・4・7章 島 孝寿
  - 第3章 向田雅彦
  - 第5章 内野武史
  - 第6章 久山高史本書の編集は島 孝寿が担当した。
6. 神山遺跡・内畑遺跡の報告書作成に際し、下記の方々からご指導・ご助言をいただいた。
  - 小田富士雄（福岡大学人文学部教授） 溝口孝司（九州大学院比較社会文化研究院助教授）
  - 分部哲秋・佐伯和信（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）

## 凡 例

1. 遺跡の略号はフケ遺跡（YFK）・神山遺跡（YKA）・内畑遺跡（MUC）である。
2. 遺跡の種別はSJ：甕棺墓、SC：石棺墓、SK：土壇墓、SS：祭祀遺構、SX：その他の遺構の分類番号で標記している。
3. 遺構図に用いた方位は、神山遺跡については座標北である。なお座標については日本座標を使用している。他については磁北である。
4. 遺構・遺物の寸法数字はcm単位を原則としている。
5. 各章の表で示した計測値は、( )は復原値・推定値、  
は残存値を表記するものとする。また凸帯の標記については一部数字を記載しているが、口縁下凸帯については、口縁部からの距離、胴部凸帯については底部からの距離を示している。

# 本文目次

第1章 調査の概要 .....	1
. 調査に至る経過 .....	1
. 調査の組織 .....	1
第2章 地理的・歴史的環境 .....	3
. 地理的環境 .....	3
. 歴史的環境 .....	3
第3章 フケ遺跡2区 .....	7
第4章 フケ遺跡3区 .....	25
第5章 神山遺跡 .....	43
第6章 内畑遺跡 .....	91
第7章 鳥栖市域に所在する甕棺墓地及び出土遺物 .....	109

# 挿図目次

図2 - 1 位置図(1/200,000) .....	4	図5 - 2 神山遺跡甕棺墓 1 (1/30) .....	47
図2 - 2 遺跡分布図(1/30,000) .....	6	図5 - 3 神山遺跡甕棺墓 2 (1/30) .....	48
図3 - 1 フケ遺跡2区調査区位置図(1/5,000)・ 遺構配置図(1/100) ...	10	図5 - 4 神山遺跡甕棺墓 3 (1/30) .....	49
図3 - 2 フケ遺跡2区土墳墓(1/30) .....	11	図5 - 5 神山遺跡甕棺墓 4 (1/30) .....	50
図3 - 3 フケ遺跡2区甕棺墓 1 (1/30) .....	12	図5 - 6 神山遺跡甕棺墓 5 (1/30) .....	51
図3 - 4 フケ遺跡2区甕棺墓 2 (1/30) .....	13	図5 - 7 神山遺跡甕棺墓 6 (1/30) .....	52
図3 - 5 フケ遺跡2区甕棺墓 3 (1/30) .....	14	図5 - 8 神山遺跡甕棺墓 7 (1/30) .....	53
図3 - 6 フケ遺跡2区石棺墓(1/30) .....	15	図5 - 9 神山遺跡甕棺墓 8 (1/30) .....	54
図3 - 7 フケ遺跡2区出土甕棺 1 (1/12) .....	17	図5 - 10 神山遺跡甕棺墓 9 (1/30) .....	55
図3 - 8 フケ遺跡2区出土甕棺 2 (1/12) .....	18	図5 - 11 神山遺跡甕棺墓10(1/30) .....	56
図4 - 1 フケ遺跡3区調査区位置図(1/5,000)・ 遺構配置図(1/100) ...	28	図5 - 12 神山遺跡甕棺墓11(1/30) .....	57
図4 - 2 フケ遺跡3区土墳墓(1/30) .....	29	図5 - 13 神山遺跡甕棺墓12(1/30) .....	58
図4 - 3 フケ遺跡3区甕棺墓 1 (1/30) .....	30	図5 - 14 神山遺跡甕棺墓13(1/30) .....	59
図4 - 4 フケ遺跡3区甕棺墓 2 (1/30) .....	31	図5 - 15 神山遺跡甕棺墓14(1/30) .....	60
図4 - 5 フケ遺跡3区甕棺墓 3 (1/30) .....	32	図5 - 16 神山遺跡甕棺墓15(1/30) .....	61
図4 - 6 フケ遺跡3区甕棺墓 4 (1/30) .....	33	図5 - 17 神山遺跡出土甕棺 1 (1/12) .....	65
図4 - 7 フケ遺跡3区出土甕棺 1 (1/12) .....	35	図5 - 18 神山遺跡出土甕棺 2 (1/12) .....	66
図4 - 8 フケ遺跡3区出土甕棺 2 (1/12) .....	36	図5 - 19 神山遺跡出土甕棺 3 (1/12) .....	67
図5 - 1 神山遺跡調査区位置図(1/5,000)・ 遺構配置図(1/100) .....	46	図5 - 20 神山遺跡出土甕棺 4 (1/12) .....	68
		図5 - 21 神山遺跡出土甕棺 5 (1/12) .....	69
		図5 - 22 神山遺跡出土甕棺 6 (1/12) .....	70
		図5 - 23 神山遺跡出土甕棺 7 (1/12) .....	71

図5 - 24  神山遺跡出土甕棺 8 (1/12) .....	72	図6 - 4  内畑遺跡甕棺墓 3 (1/30) .....	98
図5 - 25  神山遺跡出土甕棺 9 (1/12) .....	73	図6 - 5  内畑遺跡出土甕棺 1 (1/12) .....	99
図5 - 26  神山遺跡出土甕棺10(1/12) .....	74	図6 - 6  内畑遺跡出土甕棺 2 (1/12) ・	
図5 - 27  神山遺跡出土甕棺11(1/12) .....	75	SJ07棺内副葬品(玉類1/1，鞘入鉄	
図6 - 1  内畑遺跡調査区位置図(1/5000) ・		刀子1/2).....	100
遺構配置図(1/100) .....	95	図6 - 7  内畑遺跡出土甕棺 3 (1/12) .....	101
図6 - 2  内畑遺跡甕棺墓 1 (1/30) .....	96	図6 - 8  内畑遺跡出土甕棺 4 (1/12) .....	102
図6 - 3  内畑遺跡甕棺墓 2 (1/30) .....	97	図7 - 1  鳥栖地域甕棺墓出土地点(1/50,000) ...	110

## 表 目 次

表3 - 1  フケ遺跡 2 区土墳墓一覧表 .....	16	表5 - 2  神山遺跡出土人骨の分析調査一覧表 ...	64
表3 - 2  フケ遺跡 2 区甕棺墓一覧表 .....	16	表5 - 3  神山遺跡出土人骨の性別・年齢構成(体	
表3 - 3  フケ遺跡 2 区石棺墓一覧表 .....	16	一覧表 .....	64
表3 - 4  フケ遺跡 2 区甕棺観察表 .....	19	表5 - 4  神山遺跡甕棺観察表 .....	76
表4 - 1  フケ遺跡 3 区甕棺墓一覧表 .....	34	表6 - 1  内畑遺跡甕棺墓一覧表 .....	94
表4 - 2  フケ遺跡 3 区土墳墓一覧表 .....	34	表6 - 2  内畑遺跡甕棺観察表 .....	103
表4 - 3  フケ遺跡3区甕棺観察表 .....	37	表7 - 1  鳥栖市域における甕棺墓出土地点 ...	111
表5 - 1  神山遺跡甕棺墓一覧表 .....	62		

## 写真図版目次

図版 3 - 1	1.フケ遺跡 2 区全景(東から) 2.SJ01甕棺墓(西から) 3.SJ02甕棺墓(北から)
	4.SJ03甕棺墓(北から) 5.SJ04甕棺墓(東から)
図版 3 - 2	1.SJ05甕棺墓(東から) 2.SJ06甕棺墓(北から) 3.SJ07甕棺墓(北から) 4.SJ08甕棺墓(北から)
	5.SJ09甕棺墓(北から) 6.SJ10甕棺墓(南から) 7.SJ11甕棺墓(東から) 8.SJ12甕棺墓(西から)
図版 3 - 3	1.SJ13甕棺墓(北から) 2.SJ15甕棺墓(北から) 3.SJ16甕棺墓(東から)
	4.SS01祭祀遺構(西から) 5.SC01石棺墓(東から) 6.SC02石棺墓(北から)
	7.SP01土墳墓(北から) 8.SP02土墳墓(北から)
図版 3 - 4	1.SJ03甕棺上甕 2.SJ03甕棺下甕 3.SJ12甕棺上甕 4.SJ12甕棺上甕 5.SJ12甕棺下甕
	6.SJ13甕棺上甕 7.SJ13甕棺下甕 8.SJ16甕棺上甕 9.SJ16甕棺下甕
図版 4 - 1	1.フケ遺跡3区全景(北から) 2.SJ01甕棺墓(北から) 3.SJ03甕棺墓(東から)
	4.SJ04甕棺墓(上)・SJ05甕棺墓(下)(東から) 5.SJ06甕棺墓(北から)
図版 4 - 2	1.SJ09甕棺墓(東から) 2.SJ10甕棺墓(西から) 3.SJ10甕棺墓(北から) 4.SJ13甕棺墓(東から)
	5.SJ14甕棺墓(左)・SJ15甕棺墓(右)(南から) 6.SJ12甕棺墓(上)・SJ16甕棺墓(下)(西から)
	7.SJ18甕棺墓(西から) 8.SP01土墳墓(北から)
図版 4 - 3	1.SJ01甕棺上甕 2.SJ01甕棺上甕口縁部 3.SJ01甕棺下甕 4.SJ03甕棺上甕

- 5.SJ03甕棺下甕 6.SJ04甕棺上甕 7.SJ04甕棺下甕 8.SJ06甕棺上甕 9.SJ06甕棺下甕
- 図版 4 - 4 1.SJ06甕棺下甕穿孔 2.SJ07甕棺上甕 3.SJ07甕棺下甕 4.SJ10甕棺上甕  
5.SJ10甕棺下甕 6.SJ13甕棺下甕 7.SJ13甕棺中甕 8.SJ15甕棺上甕 9.SJ15甕棺下甕
- 図版 5 - 1 1.神山遺跡全景(西から) 2.神山遺跡全景(南から)
- 図版 5 - 2 1.SJ04甕棺墓(南から) 2.SJ09甕棺墓(東から) 3.SJ14甕棺墓出土人骨(南から)  
4.SJ18甕棺墓(東から) 5.SJ18甕棺墓出土人骨(東から)  
6.SJ20甕棺墓(左)・SJ26甕棺墓(右)(西から) 7.SJ21甕棺墓(右)・SJ22甕棺墓(左)(西から)  
8.SJ26甕棺墓(西から)
- 図版 5 - 3 1.SJ33甕棺墓(北から) 2.SJ35甕棺墓(南から)  
3.SJ18甕棺墓(左)・SJ34甕棺墓(右下)出土人骨・SJ35甕棺墓(右上)(北から)  
4.SJ20甕棺墓(右)・SJ36甕棺墓(左)出土人骨(西から) 5.SJ40甕棺墓(北から)  
6.SJ41甕棺墓(南から) 7.SJ42甕棺墓(北から) 8.SJ43甕棺墓(東から)
- 図版 5 - 4 1.SJ45甕棺墓(北から) 2.SJ51甕棺墓(右上)・SJ54甕棺墓(右下)・SJ55甕棺墓(左)(南から)  
3.SJ54甕棺墓(東から) 4.SJ55甕棺墓(南から) 5.SJ65甕棺墓(下)・SJ68甕棺墓(上)(北から)  
6.SJ74甕棺墓(南から) 7.SJ75甕棺墓(南から) 8.SJ82甕棺墓(西から)
- 図版 5 - 5 1.SJ85甕棺墓(右)・SJ86甕棺墓(左)(南から) 2.SJ88甕棺墓(北から) 3.SJ89甕棺墓(南から)  
4.SJ90甕棺墓(西から) 5.SJ95甕棺墓(東から) 6.SJ98甕棺墓(北から) 7.SJ100甕棺墓(西から)  
8.SJ100甕棺墓出土人骨(北から)
- 図版 5 - 6 1.SJ09甕棺上甕 2.SJ09甕棺下甕 3.SJ10甕棺上甕 4.SJ10甕棺下甕 5.SJ17甕棺上甕  
6.SJ17甕棺下甕 7.SJ18甕棺上甕 8.SJ18甕棺下甕 9.SJ20甕棺上甕
- 図版 5 - 7 1.SJ20甕棺下甕 2.SJ21甕棺上甕 3.SJ21甕棺下甕 4.SJ26甕棺上甕 5.SJ26甕棺下甕  
6.SJ29甕棺上甕 7.SJ29甕棺下甕 8.SJ34甕棺上甕 9.SJ34甕棺下甕
- 図版 5 - 8 1.SJ35甕棺上甕 2.SJ35甕棺下甕 3.SJ36甕棺上甕 4.SJ36甕棺下甕 5.SJ54甕棺上甕  
6.SJ54甕棺下甕 7.SJ60甕棺上甕 8.SJ62甕棺上甕 9.SJ62甕棺下甕
- 図版 5 - 9 1.SJ71甕棺上甕 2.SJ71甕棺下甕 3.SJ75甕棺上甕 4.SJ75甕棺下甕 5.SJ81甕棺上甕  
6.SJ81甕棺下甕 7.SJ90甕棺上甕 8.SJ90甕棺下甕 9.SJ93甕棺上甕
- 図版 5 - 10 1.SJ93甕棺下甕 2.SJ94甕棺上甕 3.SJ94甕棺下甕 4.SJ98甕棺上甕 5.SJ98甕棺下甕  
6.SJ100甕棺上甕 7.SJ100甕棺下甕 8.SJ102甕棺上甕 9.SJ102甕棺下甕
- 図版 6 - 1 1.SJ01甕棺墓(西から) 2.SJ02甕棺墓(北から) 3.SJ03甕棺墓(東から)  
4.SJ04甕棺墓(南から、背後SJ07甕棺墓) 5.SJ05甕棺墓(南から) 6.SJ06甕棺墓(東から)  
7.SJ07甕棺墓(南から) 8.SJ07甕棺墓出土鉄器(南から)
- 図版 6 - 2 1.SJ08甕棺墓(西から) 2.SJ09甕棺墓(西から) 3.SJ11甕棺墓(下)・SJ12甕棺墓(上)(東から)  
4.SJ13甕棺墓(西から) 5.SJ14甕棺墓(北から) 6.SJ15甕棺墓(上)・SJ16甕棺墓(下)(北から)  
7.SJ16甕棺墓(北から) 8.作業風景(南から)
- 図版 6 - 3 1.SJ02甕棺下甕 2.SJ04甕棺上甕 3.SJ04甕棺下甕 4.SJ06甕棺下甕 5.SJ07甕棺下甕  
6.SJ08甕棺下甕
- 図版 6 - 4 1.SJ16甕棺上甕 2.SJ16甕棺下甕 3.SJ14甕棺上甕 4.SJ15甕棺上甕  
5.SJ07甕棺出土玉類 6.SJ07甕棺出土鞘入鉄刀子



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	ふけいせき かみやまいせき うちはたいせき							
書名	フケ遺跡 神山遺跡 内畑遺跡							
副書名	市内遺跡関係埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第70集							
編著者名	島孝寿 向田雅彦 久山高史 内野武史							
編集期間	鳥栖市教育委員会							
所在地	〒841 - 8511 佐賀県鳥栖市宿町1118番地 0942 ( 85 ) 3695							
発行年月日	西暦2003年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
フケ遺跡2区	佐賀県鳥栖市 田代本町 1270-6・9	410213	-	33° 23' 52"	130° 31' 11"	19961014 ~ 19961022	125m <sup>2</sup>	個人住宅
フケ遺跡3区	佐賀県鳥栖市 田代本町 1281-1	410213	-	33° 23' 51"	130° 31' 12"	19990309 ~ 19990416	100m <sup>2</sup>	個人住宅
かみやま 神山遺跡	佐賀県鳥栖市 柚比町 あざほんじん 字本陣1611-2	410213	-	33° 23' 58"	130° 30' 34"	19990525 ~ 19990910	300m <sup>2</sup>	土取工事
うち 内畑遺跡	佐賀県鳥栖市 もとまち 元町1160	410213	-	33° 22' 03"	130° 30' 39"	20010823 ~ 20010830	200m <sup>2</sup>	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
フケ遺跡2区	墳墓	弥生	甕棺墓 土壇墓 石棺墓 祭祀遺構	甕棺		金海～須玖式時代の甕棺墓地。		
フケ遺跡3区	墳墓	弥生	甕棺墓 土壇墓 溝	甕棺		金海～須玖式時代の甕棺墓地。 SJ10甕棺墓は石組をもつ。		
神山遺跡	墳墓	弥生	甕棺墓	甕棺		汲田～立岩式時代の甕棺墓地。 21体の人骨を検出。		
内畑遺跡	墳墓	弥生	甕棺墓	甕棺・刀子 ガラス玉 水晶		汲田～桜馬場式時代の甕棺墓地。 SJ07甕棺墓から刀子・ガラス玉が出土。		

# 第1章 調査の概要

## I. 調査に至る経過

鳥栖地域は九州の交通の要所として、また内陸工業地帯として開発行為が多岐にわたり実施されている。特に近年にかけ、鳥栖北部丘陵新都市開発事業・蔵上土地区画整理事業・鳥栖駅東土地区画整理事業・圃場整備事業などの大規模な開発に伴い埋蔵文化財調査も急増している。また、中小の開発も数多く行われており、これらの開発行為に対しては、事前の埋蔵文化財確認調査および本調査で随時対応してきたが、経済的理由等のため調査ができない状況の開発も存在する。そのため鳥栖市では、国・県の補助を受けこれらの調査を実施してきた。当地域は甕棺墓地群が多数存在しているが、これまで調査を行ってきた甕棺墓出土遺跡である3遺跡4地点（フケ遺跡2区・フケ遺跡3区・神山遺跡・内畑遺跡）についての調査報告書の作成にあたった。フケ遺跡・内畑遺跡については個人住宅建設、神山遺跡については土取り工事に伴う調査である。

本調査の期間は、フケ遺跡2区は平成8年10月14日～平成8年10月22日、フケ遺跡3区は平成11年3月9日～平成11年4月16日、神山遺跡は平成11年5月25日～平成11年9月10日、内畑遺跡は平成13年8月23日～平成13年8月30日の期間で実施した。なお出土遺物・調査記録類の整理ならびに調査報告書作成業務は、平成12・13・14年度事業として平成12年4月12日～平成15年3月31日の期間、鳥栖市藤木町文化財整理室において実施した。

## II. 調査の組織

鳥栖市教育委員会が主体となって実施した。組織は以下のとおりである。なお社会教育課は平成12年度、生涯学習課に名称変更がおこなわれている。

調査主体	鳥栖市教育委員会		
教 育 長	柴田正雄	( ~平成12年9月)	
	中尾勇二	(平成12年10月~)	
教 育 次 長	小林成臣	( ~平成9年3月)	
教 育 部 長	井上彦人	(平成9年4月~平成12年3月)	平成9年4月より部制施行
	原 正弘	(平成12年4月~平成13年3月)	
	水田孝則	(平成13年4月~)	
教 育 部 次 長	木塚輝嘉	(平成10年4月~)	
社会教育課長	水田孝則	( ~平成10年3月)	
生涯学習課長	松永定利	(平成10年4月~平成14年3月)	平成12年4月名称変更
	西川和彦	(平成14年4月~)	
生涯学習課参事	高尾泰明	(平成13年4月~)	
社会教育課長補佐	桑原日出雄	(平成8年4月~平成10年3月)	
生涯学習課長補佐	高尾泰明	(平成10年4月~平成13年3月)	平成12年4月名称変更

## 第1章 調査の概要

生涯学習課長補佐	藤瀬禎博	(平成9年4月～)	平成12年4月名称変更
文化財係長	藤瀬禎博	(～平成13年3月、課長補佐兼務)	
	石橋新次	(平成13年4月～)	
生涯学習係	古澤哲也	(平成8年4月～平成11年3月)	
生涯学習推進係	田中啓子	(平成11年4月～)	
文化財係主査	向田雅彦	フケ遺跡2区調査担当、報告書担当	
	湯浅満暢		
文化財係	鹿田昌宏	(～平成13年3月)	
	久山高史	内畑遺跡調査担当、報告書担当	
	内野武史	フケ遺跡3区・神山遺跡調査担当、報告書担当	
	石田玲子	(～平成9年3月)	
	島孝寿	報告書担当	
	大庭敏男	基礎整理担当	
	田中大介	(平成9年4月～平成13年3月)	

調査協力 佐賀県教育委員会文化課・地元各位

### 発掘作業従事者

#### 【フケ遺跡2区】

秋山正巳・伊藤篤世・岩本照夫・上村富士子・内田春美・久保田弘美・古賀小代子・権藤義明・  
武廣美佐子・長田和美・中島貞子・西口君代・西田幸信・仁田利宣・野下浩代・毛利美代子・  
横枕貫治・山本美代子・山本ヨシ子・山岸元二・龍尾えみ子

#### 【フケ遺跡3区】

入江勝義・大野勝子・岡本光子・久保山隆弘・権藤義明・斎藤雅子・重松義丸・陣内義美・中島貞子・  
永松昭彦・西田幸信・久富義治・久富初子・古沢大蔵・古沢春代・松隈マチ子・諸永正利・諸永幸子

#### 【神山遺跡】

尼寺征子・岩橋良年・上村富士子・大野勝子・岡本光子・久保山隆弘・権藤トミ子・権藤義明・  
佐藤久枝・下田泰巳・陣内三十三・陣内義美・未安志津子・中島貞子・中村光子・西田幸信・  
仁田利宣・平田博子・藤尾静子・松隈敏子・溝上直子・山本美代子

#### 【内畑遺跡】

岡本光子・久保山隆弘・権藤トミ子・権藤義明・中島貞子・中村光子・仁田利宣・野下浩代・平田博子・  
松崎友子・毛利美代子・山本美代子・龍頭啓一

#### 【室内整理作業従事者】

岡本光子・中村光子・平田博子・野口勝恵・横尾順子・権藤イツヨ・権藤由美子・谷川久美子・  
中島貞子・溝上直子・毛利よし子・松崎友子

## 第2章 地理的・歴史的環境

### I. 地理的環境

佐賀県東部に位置する鳥栖市は、福岡県久留米市・小都市・筑紫郡那珂川町と県境を接し、南には筑後川が流れ、北は背振山地の東端に有し、東西に筑紫平野・佐賀平野を持つ地域である。現在では九州縦貫道と九州横断道、JR鹿児島本線と長崎本線及び久大本線、国道3号線・34号線等、また古代には大宰府・筑後国府・肥前国府を結ぶ官道（城の山道・筑後路・肥前路）近世には長崎街道が通過する場所であり、長い間九州の大動脈を結ぶ交通の要衝の地である。

地勢は北から北西にかけて九千部山（847.5m）を主峰として東に杓子ヶ峰（312.1m）、西に石谷山（754.4m）が連なり、それぞれ南東ないしは南方向に丘陵地に伸び、平坦部になって筑後川に至る。山々は幾重にも重なり合い、各支嶺間は断層によって生じた裂け目（構造谷）を流下する河川が山地を侵食して、山麓に扇状の堆積地を形成している。

地形は杓子ヶ峰に連なる柚比・今町の高位段丘（本書で報告するフケ遺跡・神山遺跡も同地区に含まれる）と九千部山の南から城山（501.3m）・群石山（201.1m）に至る支嶺の間の断層線に沿って大木川が流れ、山麓には神辺扇状地を形成する。大木川左岸は柚比丘陵群から曽根崎方面へ連続する標高15～80mの低～高位洪積段丘となり、右岸は現市街地を載せて広がる標高15～25mの独立低位段丘（内畑遺跡を含む）となる。一方、九千部山の南西側より起った支嶺は、石谷山・雲野尾峠・笛吹山の丘陵地へと低下し、支嶺の間には安良川が流れ、山麓には養父扇状地を形成する。石谷山を水源とする沼川の間は、標高15～80mの低～高位の洪積段丘となり、朝日山（133m）によって北の麓地区・南の旭地区に二分される。河川はいずれも南流し、筑後川へ注ぐが、下流域は標高10m以下の沖積低地の広大な平坦部となっている。

### II. 歴史的環境

市内には現在約180遺跡が所在し、旧石器時代～近世に至る様々な遺構・遺物が出土している。

旧石器時代では、長ノ原遺跡・本川原遺跡・平原遺跡・牛原原田遺跡等で、ナイフ形石器や細石器類がみられるが、明確な遺構からの出土ではなく、詳細については不明である。

縄文時代になると、今町共同山遺跡から草創期～早期にかけての刺突文土器、早期では西田遺跡から多量の押型文土器に伴い、多数の集石遺構が検出している。前期では牛原原田遺跡から曽畑式土器が出土し、中期では平原遺跡から集石遺構とともに並木式土器が出土している。後期に入ると蔵上遺跡から土器棺墓・住居跡を検出している。晩期に入ると村田三本松遺跡では甕棺墓地群が形成されている。

遺跡数が急増するのは弥生時代前期末以降である。北部地区丘陵群（通称：柚比遺跡群）を中心に八ツ並金丸遺跡・今町岸田遺跡、中期には平原遺跡・安永田遺跡・前田遺跡等の集落跡が確認されている。中期後半～末にかけて、安永田遺跡から青銅器鑄造関連の遺構、銅鐸・銅矛の鑄型が出土している。また、南西部丘陵群に位置する本行遺跡からも青銅器、鑄型類が出土しており、安永田遺跡に匹敵する青銅器生産の拠点的な集落の存在が明らかになっている。墓域は、全市内に分布するが多くは北部地区に集中しており、柚比梅坂遺跡・柚比本村遺跡・フケ遺跡・安永田遺跡等を挙げる事ができる。特に柚比本村遺

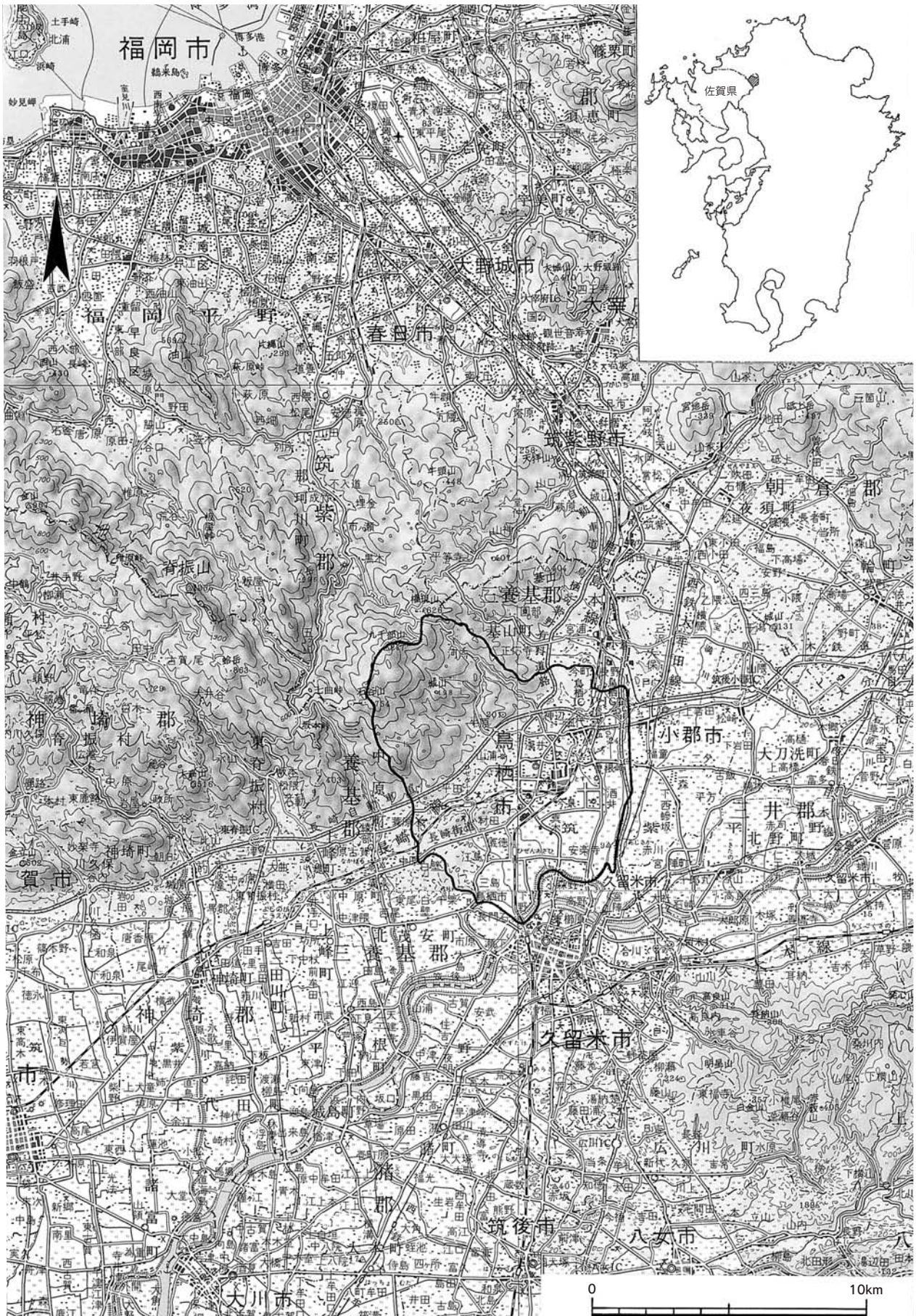


图2-1 位置图 (1/200,000)

跡からは赤漆玉鈿装鞘銅剣を含む7本の銅剣が甕棺墓及び木棺墓より出土し、また祖霊祭祀に使用されたと思われる弥生時代最大級の大型建物跡、多数の丹塗磨研土器を含む祭祀土坑を検出している。

後期に入ると丘陵部から現在の鳥栖市街地及び中低位段丘上に集落が移動する。本原遺跡・牛原原田遺跡・内精遺跡がこれにあたる。内精遺跡からは住居跡が200軒以上検出され、後期前半から古墳時代初頭まで継続して集落が営まれていた模様である。また藤木遺跡からは環濠の一部を確認している。

古墳時代前期には赤坂前方後方墳、日岸田遺跡・今泉遺跡等から方形周溝墓が出土しているが、この後明確な遺構の確認はされていない。5世紀になると平原古墳・山浦古墳群・薄尾古墳群・田代東方古墳等の墳墓をみることはできるが、集落関連遺構については皆無である。しかし、6世紀代に入ると状況は一変し、前半には剣塚前方後円墳、後期は東田前方後円墳・岡寺前方後円墳・庚申堂塚前方後円墳・牛原原田5号墳の5基の前方後円墳、田代太田古墳・ヒャーガンサン古墳の2つの彩色系装飾古墳が築造される。中型古墳としては神山古墳・塩塚古墳・稲塚古墳等がみられ、またこの時期には背振山系の山麓部を中心に東十郎・杓子ヶ峰・深底・都谷・永田古墳群等の群集墳が数多く築かれる。現在把握している古墳数は600基を超える様相である。集落は元古賀遺跡・蔵上遺跡・内精遺跡・梅坂炭化米遺跡等が確認できる。

飛鳥～平安時代にかけては肥前国東端で筑前・筑後国と接する三国国境にあたり、大木川を境に北東部は基肄郡、南東部は養父郡に属する。「肥前風土記」によると、基肄郡は「郷陸(六)所、里十七」とあり、養父郡は「郷肆(四)所、里十二」とある。基肄郡家の位置は現在のところ不明であるが、八ツ並金丸遺跡では大型掘立柱建物跡から8世紀後半代の瓦が出土している。また、大久保遺跡からも同時期と推定される建物跡が多数確認されており、関連が注目される。養父郡家については、蔵上町の老松神社西周辺を推定地として考えていたが、これを裏付けるように蔵上遺跡から掘立柱建物跡を多数検出し、「厨番」と記した墨書土器が出土している。古代の集落跡は基肄郡域では八ツ並金丸遺跡・今町岸田遺跡・本川原遺跡・本原遺跡、養父郡域では牛原前田遺跡・立石惣楽遺跡・柳の元遺跡・蔵上遺跡などで確認されている。なお風土記の養父郡「烽壺所」は、朝日山に比定されている。

律令体制が衰退する平安時代後期以降、鳥栖地域においても荘園が形成されるようになり、13世紀末には基肄・養父両郡のほぼ半数の耕地を荘園が占めるに至る。この大部分は大宰府天満宮安楽寺領で、あとは宇佐八幡宮弥勒寺領だが実質的には土々呂木・曾禰崎氏等の御家人地頭によって荘園が支配されていた。今泉遺跡では濠を巡らした館跡と見られる13世紀前半頃の遺構が確認されている。

南北朝時代から戦国時代にかけての戦乱期、この地域は支配者の交代が頻繁にみられるが、この時期、山浦町や牛原町周辺には山城が築かれるようになる。この一帯は明応6年(1497)に筑紫氏が鳥栖地域を押さえて以降、天正14年(1586)に島津氏に攻略されるまでの約90年間、勝尾城を本城に、多くの支城群が構成され、山麓には武家屋敷や町屋など城下町も形成されている。

近世以降、基肄郡と養父郡の東半分は対馬藩領に、養父西半分は佐賀藩領となる。また長崎街道が整備されるとともに両藩領域にはそれぞれ田代宿、轟木宿が設けられた。田代宿には対馬藩肥前田代領(1万6千余石)の統治機関として代官所が設置され、轟木宿では佐賀藩の番所が設置されていた。

明治時代になると麓原県・伊万里県・三潁県・長崎県を経て明治16年に佐賀県となった。昭和29年には、鳥栖町・田代町・基里村・麓村・旭村の5町村が合併し、鳥栖市として今日に至っている。

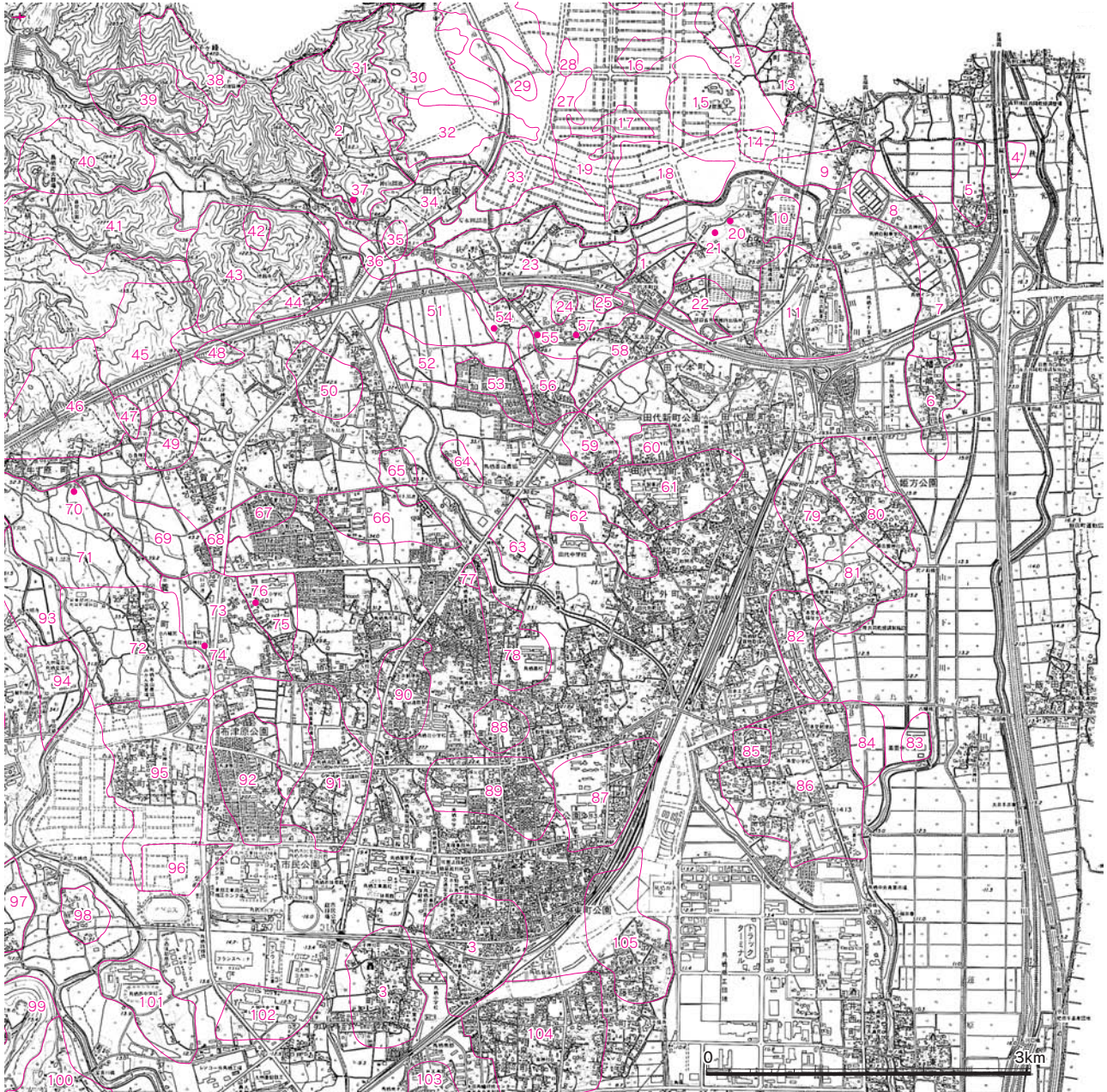


図2-2 遺跡分布図 (1/30,000)

- 1 フケ遺跡 2 神山遺跡 3 内畑遺跡 4 永吉遺跡 5 永吉村上遺跡 6 幡崎遺跡 7 立田石遺跡 8 祢宜隈遺跡  
 9 長ノ原遺跡 10 セイノオ遺跡 11 本川原遺跡 12 八ツ並金丸遺跡 13 今町大地添遺跡 14 岸田南遺跡  
 15 今町岸田遺跡 16 今町共同山遺跡 17 梅坂炭化米遺跡 18 平原遺跡 19 大久保遺跡 20 赤坂古墳  
 21 剣塚古墳 22 田代天満宮東方遺跡 23 安永田遺跡 24 太田遺跡 25 太田東方遺跡 26 梅坂西遺跡  
 27 大久保北遺跡 28 柚比梅坂遺跡 29 うつろ坂遺跡 30 永田古墳群 31 大平古墳群 32 柚比本村遺跡  
 33 前田遺跡 34 田代公園遺跡 35 河原田北遺跡 36 河原田南遺跡 37 神山古墳 38 杓子ヶ峰古墳群  
 39 東十郎古墳群 40 十三塚古墳群 41 横井古墳群 42 城跡 43 門前古墳群 44 松本遺跡  
 45 都谷古墳群 46 牛原古墳群 47 城山古墳群 48 都谷遺跡 49 古賀天満宮遺跡 50 國泰寺遺跡  
 51 日岸田遺跡 52 竹原遺跡 53 加藤田遺跡 54 庚申堂塚古墳 55 田代太田古墳 56 中島遺跡  
 57 岡寺古墳 58 畑ヶ田遺跡 59 上天遺跡 60 代官所跡 61 田代大官町遺跡 62 田代外町遺跡  
 63 藪原遺跡 64 中川原遺跡 65 池田遺跡 66 浅井遺跡 67 元古賀遺跡 68 花ノ木遺跡 69 牛原原田遺跡  
 70 百度塚古墳 71 牛原前田遺跡 72 養父遺跡 73 平町遺跡 74 塩塚古墳 75 古賀遺跡 76 稲塚古墳  
 77 鎗田遺跡 78 天神木遺跡 79 本原遺跡 80 姫方遺跡 81 大手木遺跡 82 下原遺跡 83 浦田遺跡  
 84 恒石遺跡 85 館跡 86 四ツ木遺跡 87 京町遺跡 88 町上遺跡 89 西浦遺跡 90 原口遺跡 91 門戸口遺跡  
 92 布津原遺跡 93 養父岸田遺跡 94 下岸田遺跡 95 蔵上遺跡 96 内精遺跡 97 原古賀遺跡 98 大楠遺跡  
 99 朝日山古墳群 100 安良遺跡 101 外精遺跡 102 四本松遺跡 103 真木遺跡 104 今泉遺跡 105 藤木遺跡

# 第 3 章

## フケ遺跡 2 区

(略号 Y F K - 2)



## 第3章 フケ遺跡2区

### 周辺地区の概要

フケ遺跡2区は、鳥栖市の北東部に当たる鳥栖市田代本町字フケ1270-6・9に所在し、九千部山から東側に派生する高位段丘上に立地している。周囲には同じく九千部山から派生した高～中位段丘で形成された丘陵群があり、その丘陵上には弥生時代から古墳時代にかけての大規模な遺跡群（柚比遺跡群）が展開している。遺跡の北側には平原遺跡・平原古墳、西側には安永田遺跡がそれぞれ谷を挟んで対峙し、東側には赤坂前方後方墳・剣塚前方後円墳、南側には壁画系装飾古墳である田代太田古墳（円墳）が築造されている。なお、鳥栖北部丘陵新都市開発などで平原遺跡や安永田遺跡などの調査が行なわれていて、平原遺跡では弥生時代と古墳時代の大規模な住居跡群が、安永田遺跡では弥生時代の青銅器工房跡や大規模な甕棺墓群を検出し、安永田遺跡の青銅器工房跡は国指定史跡となったが、平原遺跡・平原古墳は既に消失している。また、今回の調査地区の北側と東側の隣接地は昭和55年に「柚比遺跡群範囲確認調査」が行なわれており、甕棺墓・石棺墓とともに多くの丹塗り土器が入った祭祀遺構が出土している。

### 遺跡の概要

今回の調査は、個人住宅建替え工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査として、平成8年10月14日から22日まで、建物建設対象地を中心に約125㎡の調査を行った。その結果検出した遺構は、土壙墓 - 4基・甕棺墓 - 16基・石棺墓 - 2基・土壙 - 1基・溝 - 1条および木棺墓らしきもの - 1基である。

土壙墓（図3-2、表3-1、図版3-3）

調査区の南東側に3基、北西側に1基検出した。SP01・02は二段掘りの墓壙であり、詳細な計測値などは表3-1に記載した。出土遺物はないもののSP03が弥生時代中期前半のSJ03甕棺墓に切られていたことから、土壙墓は弥生時代前期末の遺構と考えられ、この地域で最初に現れる埋葬遺構となる。

甕棺墓（図3-3～5・7・8、表3-2・4、図版3-1～4）

調査区の北西側から南東側にかけて16基を検出した。その内訳は、成人棺といわれる大型のものが4基、小児棺といわれる小型のものが12基であり、墓壙の形態や計測値などは表3-2に、出土した甕棺の計測値などは表3-4に掲載し、特徴的なものについていくつか記載する。

出土した甕棺墓は、弥生時代前期末～中期中頃（金海式～汲田式）にかけてのものであり、全て合せ口の2連式の甕棺墓で、合せ口の形態はSJ02が挿入式、SJ09・11が覆口式、SJ14が不明である以外は接口式であり、合せ口には粘土で目貼りが施されているのがほとんどであった。また、成人棺であるSJ03・13・16の棺内には人骨がわずかに残り、SJ16の下甕には朱も残っていた。

SJ16は金海式でも新しいタイプの甕棺で、その甕棺墓の墓壙を囲むような形で少し新しい時期である城ノ越式(SJ04・05)と汲田式(SJ07)の小児棺を検出し、金海式と城ノ越式の間にあるタイプであるSJ03の墓壙の肩上部には小児棺のSJ02（汲田式？）城ノ越式に近いタイプであるSJ12の墓壙内上部には小児棺のSJ11（城ノ越式？）を検出した。

なお、SJ02の下甕には壺の頸部から上を打ち欠いて使用しており、SJ04～07・15・16は墓壙や甕棺が新しい時期の石棺墓によって切られていた。

石棺墓（図3-6、表3-3、図版3-3）

調査区の北東側に2基検出し、計測値などは表3-3に掲載する。SC01はSJ16甕棺墓の上部にあり、

SJ04～07・16甕棺墓の墓壇や甕棺を切り、SC02はSJ15甕棺墓の下甕を切っていた。いずれも側石を5・6枚、両小口石1枚ずつが用いられている。側石上部には粘土が認められることから蓋石との間を調整していたと思われ、棺床に床石は認められなかった。また、SC01の棺床は南西側の小口に近いところだけが朱(ベンガラ)で赤くなり、SC02では北西側の棺床の幅が広がっていることから、いずれも西側方向に頭位があったと考えられ、SC02の北西側の小口部分には蓋石も1枚残っていた。

なお、出土遺物がなく明確な時期の特定はできないが、いずれも弥生時代前期末から中期前半期の甕棺墓を切って存在していたことから弥生時代中期中頃以降古墳時代までの遺構と考えられる。

#### その他の遺構

調査区の南西側に溝状の比較的大きな土壇1基と北東側に時代の新しい溝1条および中央北側にあるSJ08甕棺墓の下に木棺墓と思われる二段掘りの遺構を1基検出した。土壇に関しては近隣で行なった過去の調査において甕棺墓の時期の祭祀遺構が出土していて同類の遺構と考えられる。

#### 小 結

今回の調査区では、近隣で過去に行なった「柚比遺跡群範囲確認調査」の時と同様に埋葬関連以外の遺構は検出できなかった。まず、弥生時代前期末に土壇墓・木棺墓が出現し、その後、弥生時代中期中頃まで甕棺墓が営まれ、少し時間が空き石棺墓となるようである。同じ丘陵の東側には赤坂前方後方墳・剣塚前方後円墳が築造されていることから、この地域は弥生時代前期末から古墳時代まで連綿として墓地が営まれるか、墓地として認識されていた地域といえる。

甕棺墓は主軸方位を東西から北西南東方向にとるものが大半であり、4基検出した成人甕棺墓の変遷は、(古)SJ13・16 SJ03 SJ12(新)と考えられ、SJ03のみが他の成人甕棺墓とほぼ直交した主軸方位をとる。

以上のことから今回の調査では、この地域における弥生時代前期末から古墳時代にかけての墓地の変遷がある程度明らかになったことと、成人甕棺墓と小児甕棺墓との関係が少し判明した。

#### <参考文献>

- 『平原遺跡・平原古墳』鳥栖市文化財調査報告書第11集(1982)鳥栖市教育委員会
- 『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第16集(1982)鳥栖市教育委員会
- 『フケ遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第20集(1984)鳥栖市教育委員会
- 『平原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第119集(1993)佐賀県教育委員会
- 『平原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第120集(1993)佐賀県教育委員会
- 『大久保遺跡』佐賀県文化財調査報告書第131集(1997)佐賀県教育委員会
- 『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第62集(2001)鳥栖市教育委員会
- 『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第67集(2001)鳥栖市教育委員会
- 『柚比遺跡群1』佐賀県文化財調査報告書第148集(2001)佐賀県教育委員会
- 『柚比遺跡群2』佐賀県文化財調査報告書第150集(2002)佐賀県教育委員会

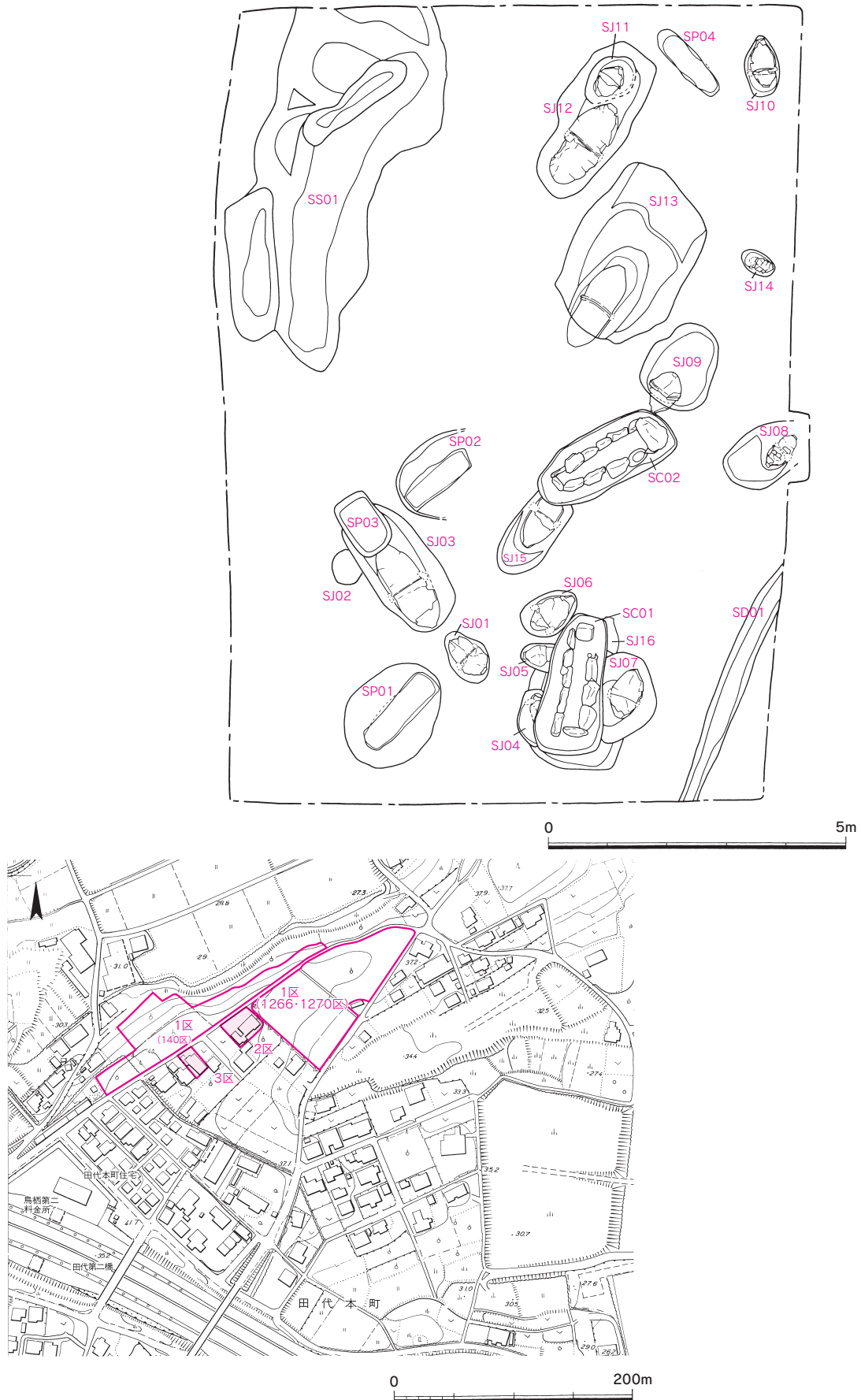


図3-1 フケ遺跡2区調査区位置図 (1/5,000)・遺構配置図 (1/100)

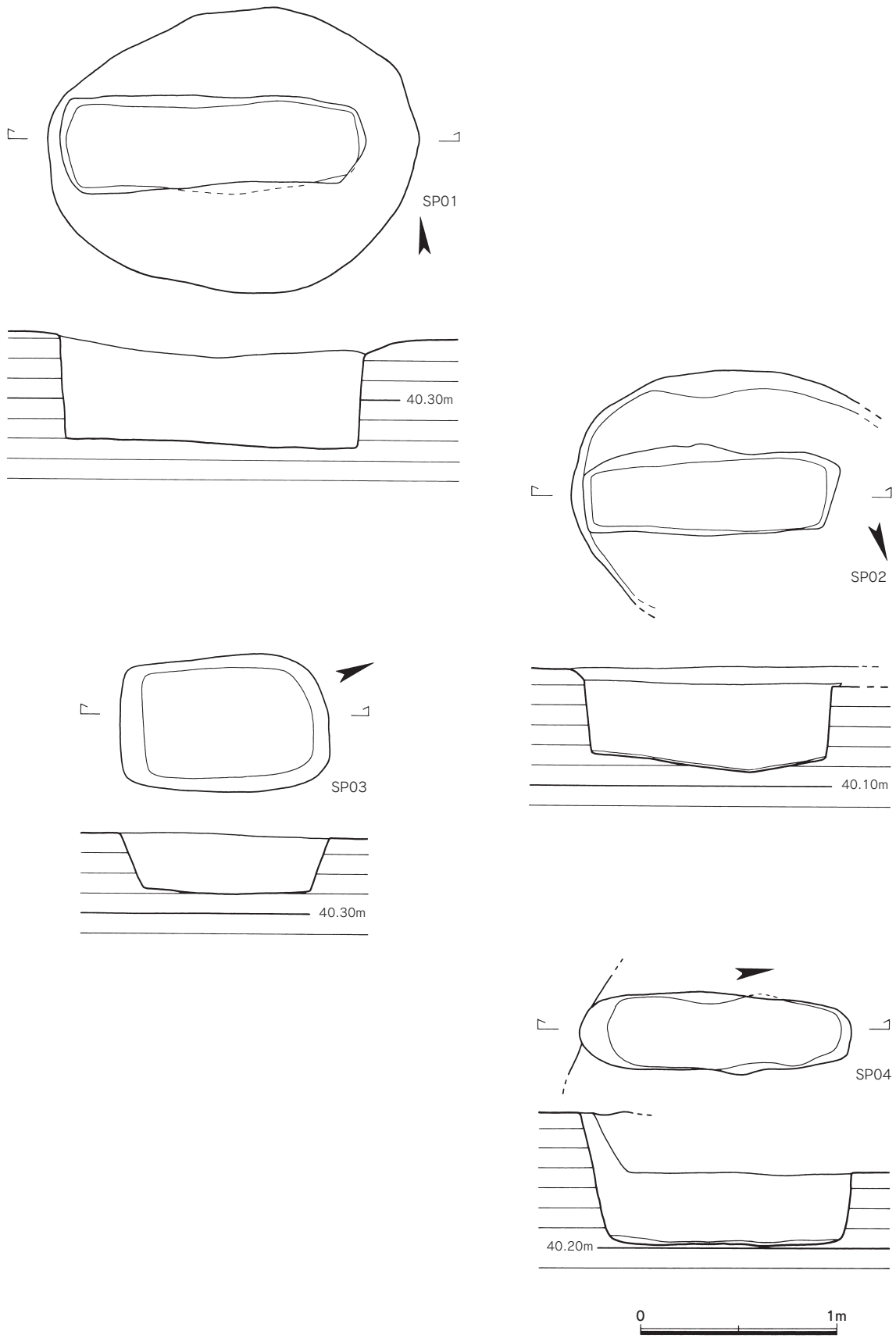


図3-2 フケ遺跡2区土壙墓 (1/30)

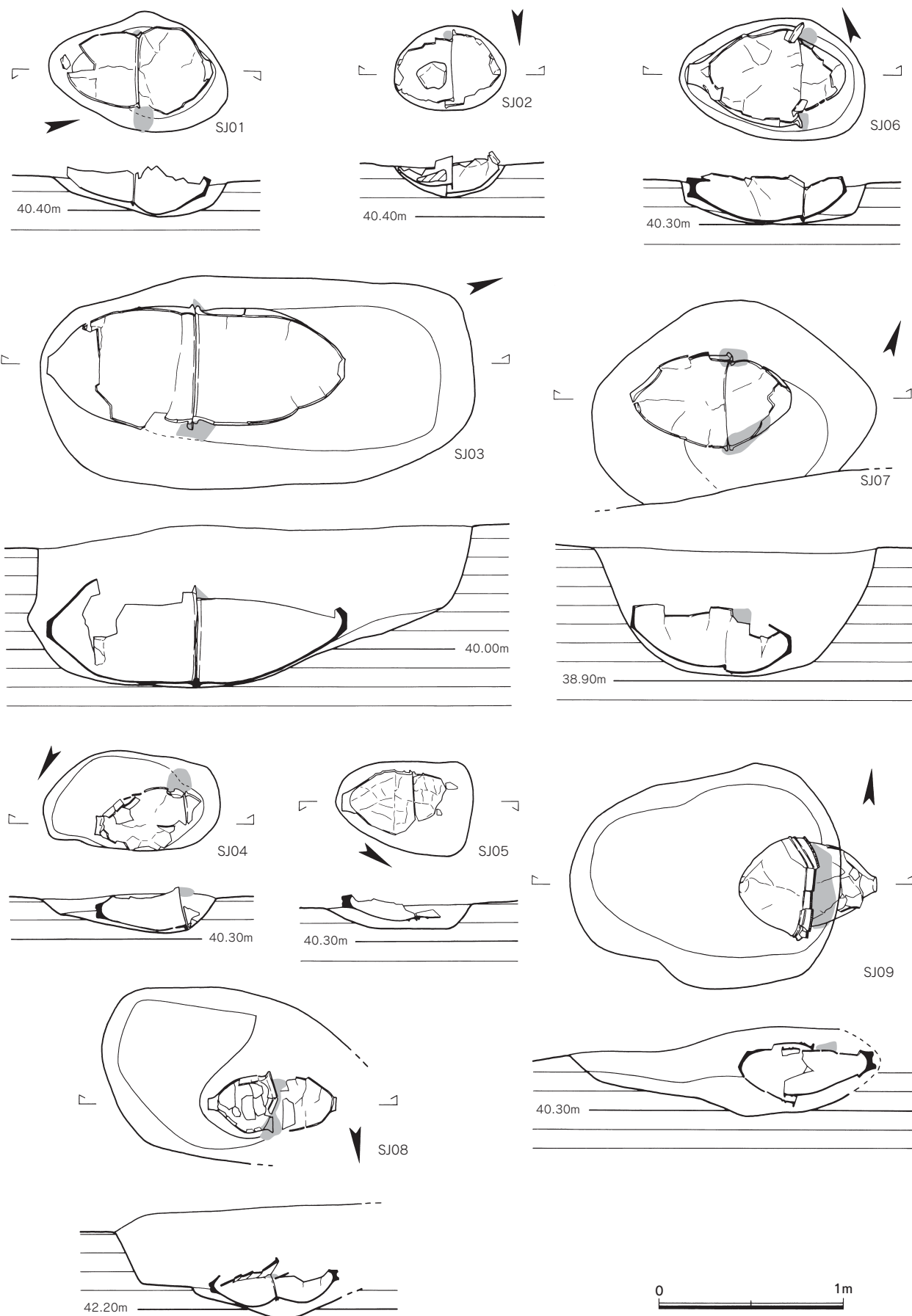


図3-3 フケ遺跡2区甕棺墓1 (1/30)

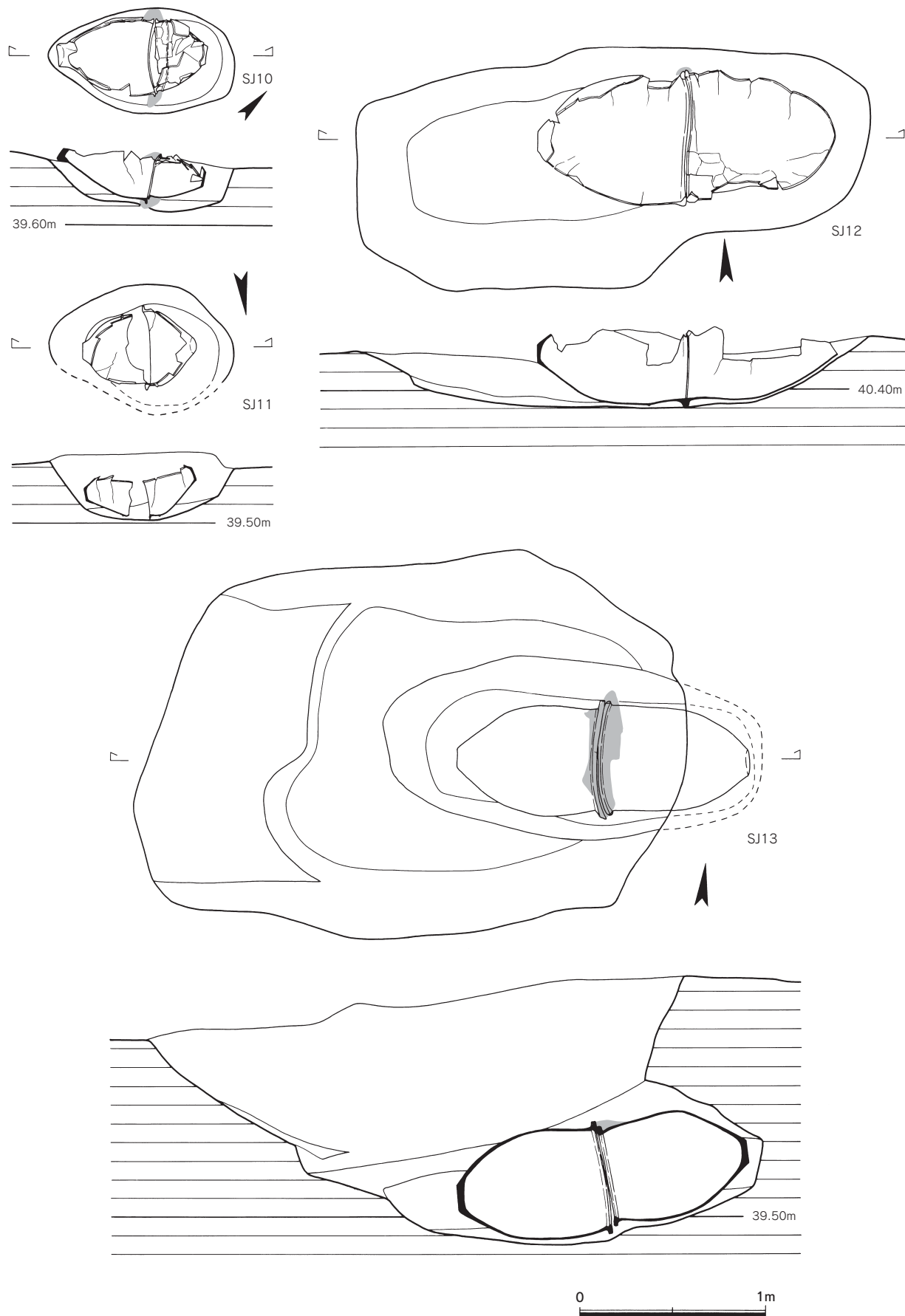


図3-4 フケ遺跡2区甕棺墓2 (1/30)

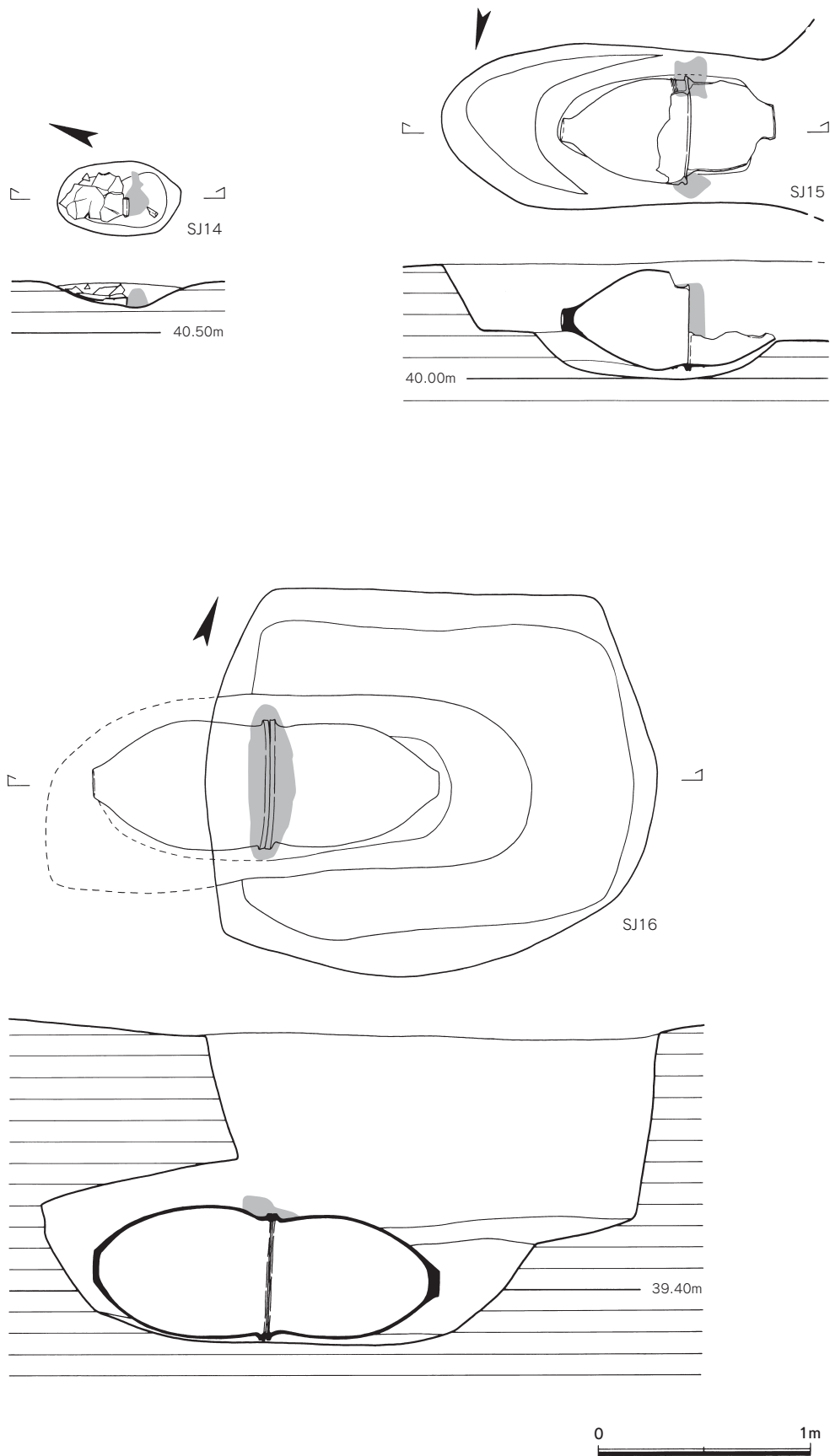


図3-5 フケ遺跡2区甕棺墓3 (1/30)

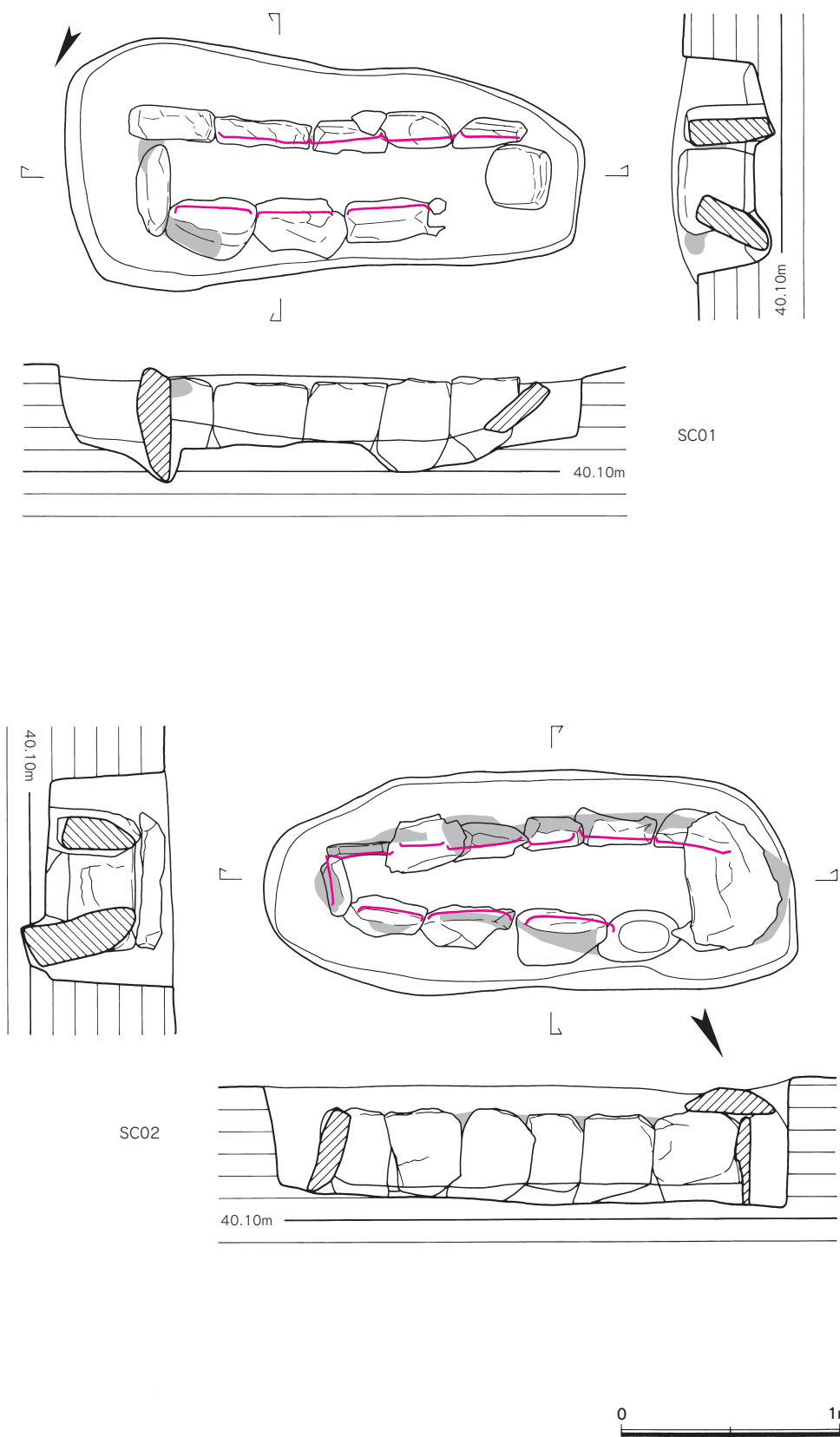


図3-6 フケ遺跡2区石棺墓 (1/30)



表3-1 フケ遺跡2区 土墳墓一覧表

遺構番号	形式	墓 墳 の 形 態 ・ 規 模								主軸方位	備 考
		上 段				下 段					
		形 態	長 さ	幅	深 さ	形 態	長 さ	幅	深 さ		
SP01	二段掘り	長楕円形	187	142	7	長方形	155	49	49	N82°W	
SP02	二段掘り	長楕円形	(146)	(129)	9	長方形	127	45	39	S71°E	
SP03	一段掘り	-	-	-	-	長方形	106	70	31	N21°E	
SP04	一段掘り	-	-	-	-	隅丸長方形	135	37	67	S8°W	

表3-2 フケ遺跡2区 甕棺墓一覧表

遺構番号	1 次 墓 墳				2 次 墓 墳		甕 棺 形 式			主軸方位	埋地角度	人骨	備 考
	形 態	長 さ	幅	深 さ	深 さ	奥 行	器 種		合口形態				
							上	下					
SJ01	楕円形	96	66	22	-	-	甕	壺	接口	S13°W	(+15)	-	下甕の頸部から上部打欠き
SJ02	楕円形	59	45	18	-	-	甕	甕	挿入	S87°E	(+1)	-	
SJ03	隅丸長方形	232	115	87	-	-	甕	甕	接口	N16°E	+1	○	上甕口縁近くに下肢骨片
SJ04	楕円形	95	(52)	22	-	-	甕	甕	接口	S60°W	+13	-	
SJ05	楕円形	(71)	51	13	-	-	甕	甕	接口	N32°W	+10	-	
SJ06	楕円形	99	65	22	-	-	鉢	甕	接口	S70°E	+1	-	
SJ07	楕円形	152	(109)	68	-	-	鉢	甕	接口	N69°E	-10	-	
SJ08	楕円形	(139)	93	62	-	-	甕	甕	接口	S84°E	-6	-	
SJ09	隅丸方形	146	121	46?	42	25	鉢	甕	覆口	S85°W	(+1)	-	
SJ10	楕円形	99	56	27	-	-	鉢	甕	接口	N45°E	-11	-	
SJ11	楕円形	99	(68)	37	-	-	鉢	甕	覆口	N83°W	(+11)	-	
SJ12	隅丸長方形	273	130	38	-	-	甕	甕	接口	N89°W	-6	○	下甕底部近くに頭骨片
SJ13	隅丸長方形	284	208	118	88	62	甕	甕	接口	S83°W	-9	-	
SJ14	楕円形	58	34	9	-	-	甕	-	-	N19°W	(+5)	-	
SJ15	楕円形	(157)	78	55	-	-	甕	甕	接口	S76°W	+2	-	
SJ16	隅丸方形	210	182	98	83	91	甕	甕	接口	N68°E	-3	○	下甕に朱あり

表3-3 フケ遺跡2区 石棺墓一覧表

遺構番号	墓 墳 形 態	墓 墳 の 規 模			棺 の 規 模				主軸方位	備 考
		長 さ	幅	深 さ	長 さ	幅	深 さ	側石数		
SC01	隅丸長方形	234	116	49	(143)	32	35	5枚・5枚?	S62°W	棺床の南西側に朱
SC02	隅丸長方形	241	99	53	184	37	44	5枚?・6枚	N62°W	蓋石1枚残る

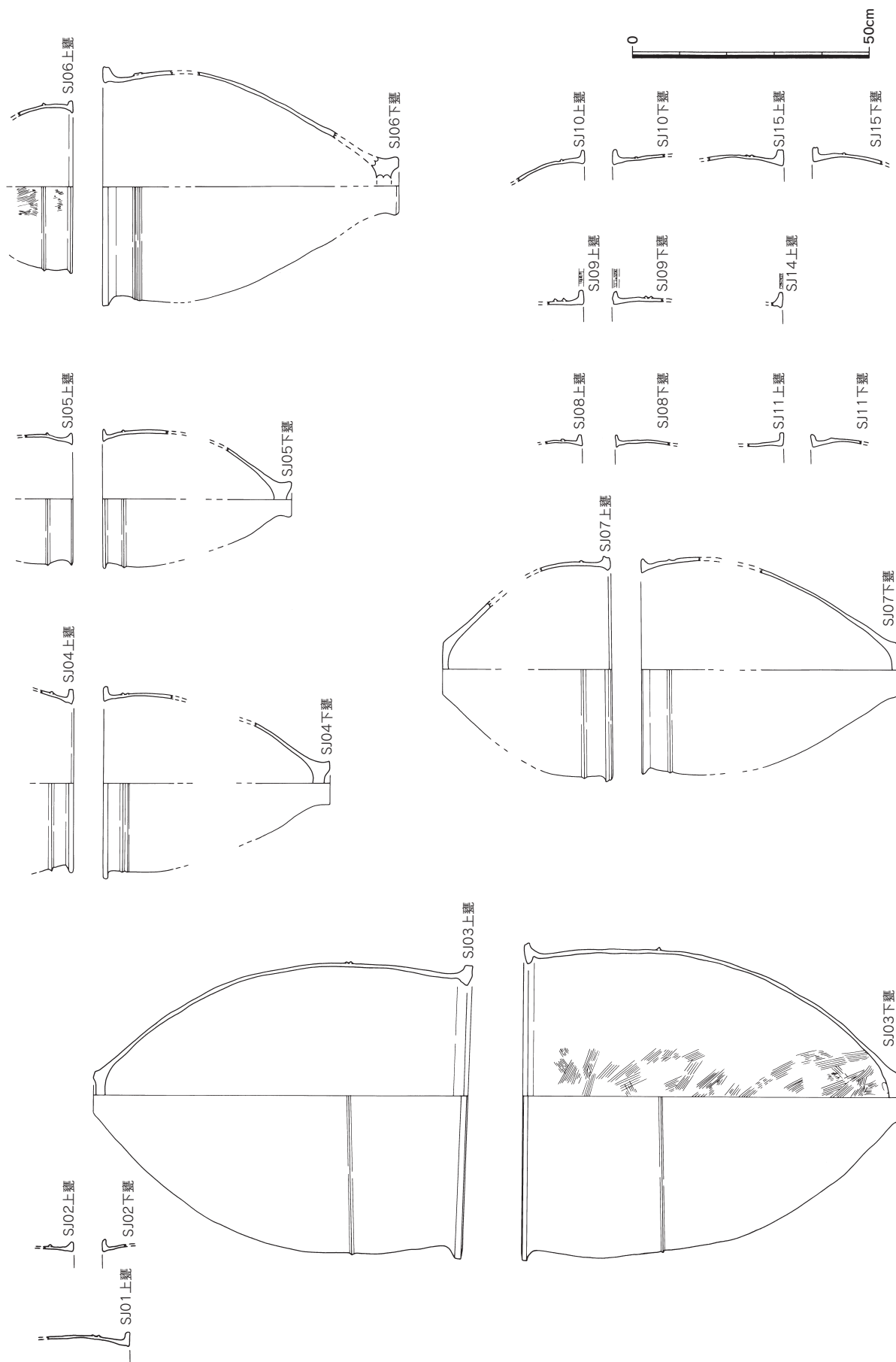


図3-7 フケ遺跡2区出土甕棺1 (1/12)

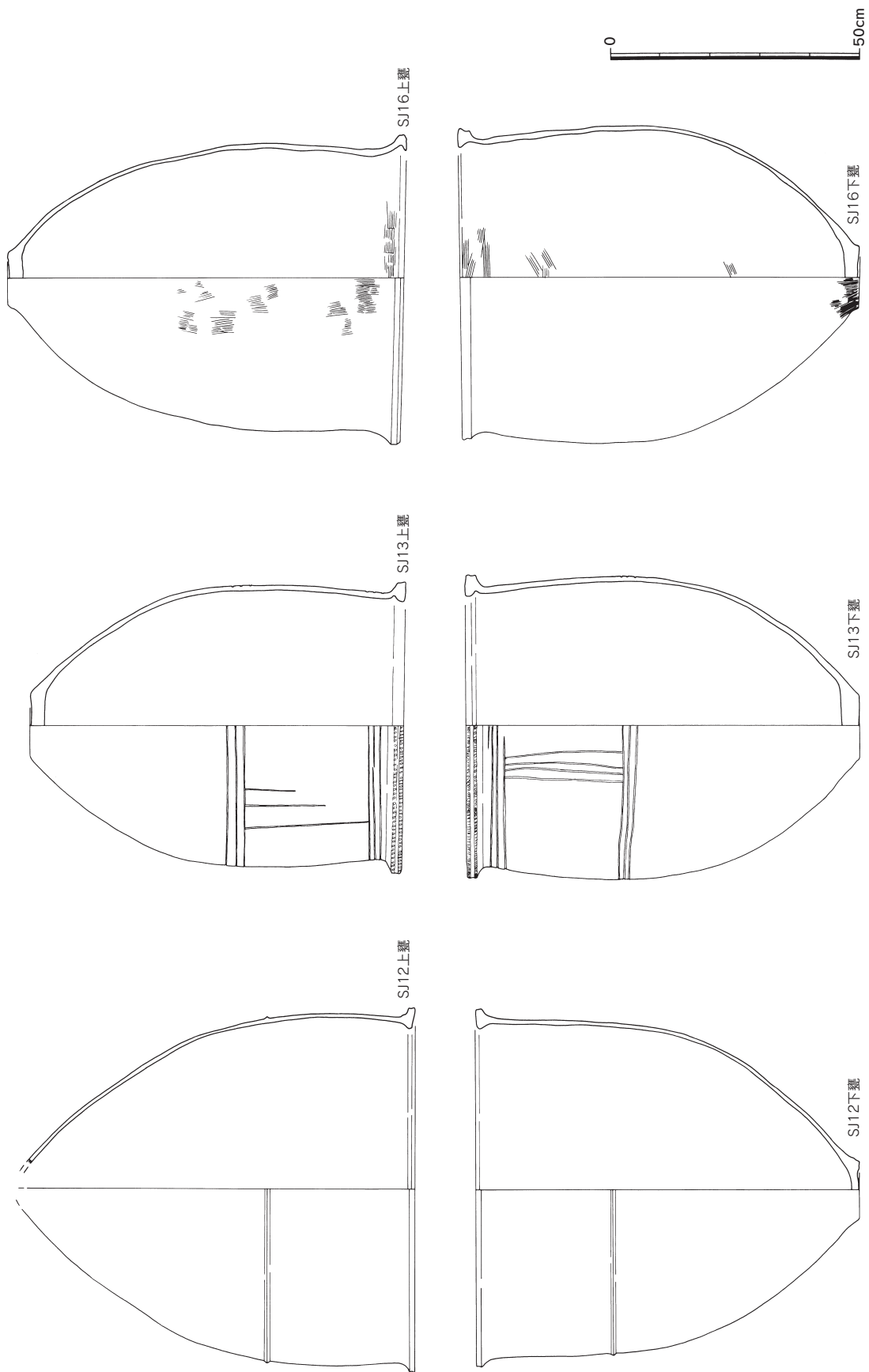


図3-8 フケ遺跡2区出土甕棺2 (1/12)

表3-4 フケ遺跡2区 甕棺観察表

遺構番号	器種	寸法		凸帯		胎土		形式	備考	
		器高 胴最大径	口径 底径	口縁下	胴下	色調	砂粒			
SJ01	上	小甕	36.0 -	(35.6) (32.4)	-	2条	明黄褐	5mm以下	汲田?	
	下	壺	(40.0) -	- 9.4	-	-	橙	3mm以下	-	頸部から上部打欠き
SJ02	上	小甕	28.0 -	(38.0) (8.0)	1条	-	橙	5mm以下	汲田?	
	下	小甕	- -	(65.0) 11.3	-	-	橙	3mm以下	汲田?	
SJ03	上	大甕	79.6 61.5	62.4 9.0	-	1条 53.6	にぶい橙	5mm以下	金海	
	下	大甕	78.8 65.7	67.8 10.2	-	1条 51.0	橙	8mm以下	金海	内面上部1/3黒塗り?
SJ04	上	小甕	-	(39.0) -	1条	-	赤橙	3mm以下	城ノ越	
	下	小甕	(48.0) -	40.0 8.8	2条 4.0	-	赤橙	3mm以下	城ノ越	
SJ05	上	小甕	14.0 -	27.2 -	1条 4.8	-	にぶい橙	3mm以下	城ノ越	
	下	小甕	(40.0) -	(28.8) 7.2	1条 4.0	-	にぶい橙	3mm以下	城ノ越	
SJ06	上	鉢	(27.0) -	36.0 -	1条 4.8	-	浅黄橙	3mm以下	城ノ越	
	下	中甕	(67.0) -	49.4 (11.2)	2条 6.8	-	明橙	3mm以下	城ノ越	
SJ07	上	鉢	(35.5) -	(48.0) 10.6	1条 5.4	-	黄橙	5mm以下	汲田	
	下	中甕	(54.0) -	(46.0) 11.0	1条 5.7	-	橙	3mm以下	汲田	
SJ08	上	小甕	-	(30.1) 6.2	1条 3.4	-	にぶい橙	3mm以下	城ノ越?	
	下	小甕	-	28.0 6.4	1条 4.0	-	にぶい橙	3mm以下	城ノ越?	
SJ09	上	鉢	-	(39.4) 10.6	2条 6.4	-	明黄褐	3mm以下	城ノ越?	
	下	中甕	(52.0) -	(60.0) 9.4	2条 6.6	-	明黄褐	3mm以下	城ノ越?	
SJ10	上	鉢	(21.5) -	40.0 8.0	1条 4.1	-	橙	4mm以下	汲田?	
	下	中甕	-	(42.0) (10.2)	1条 4.8	-	赤褐	3mm以下	汲田?	
SJ11	上	鉢	-	(34.4) 7.2	-	-	浅黄橙	3mm以下	城ノ越?	
	下	大甕	-	(39.2) 7.2	1条 3.8	-	にぶい 黄橙	4mm以下	城ノ越?	
SJ12	上	大甕	-	(74.4) (71.4)	-	1条	にぶい橙	4mm以下	城ノ越	
	下	大甕	76.5 (67.2)	(72.6) 11.7	-	1条 50.4	淡橙	5mm以下	城ノ越	
SJ13	上	大甕	75.1 56.0	59.2 12.7	沈線 3条	沈線 3条	にぶい褐	5mm以下	金海	口縁端部に刻み有
	下	大甕	79.0 61.5	61.4 13.0	沈線 3条	沈線 3条	赤褐	2~5mm	金海	口縁端部に刻み有
SJ14	上	小甕	-	(46.0) -	1条 6.5	-	にぶい橙	6mm以下	城ノ越?	口縁端部に刻み有
SJ15	上	小甕	-	(46.0) 11.2	2条 6.0	-	にぶい 赤褐	5mm以下	城ノ越?	口縁端部に刻み有
	下	小甕	41.0 -	47.0 -	1条 6.0	-	にぶい橙	5mm以下	城ノ越?	
SJ16	上	大甕	79.9 58.4	63.0 11.4	-	-	橙	4mm以下	金海	内面黒塗り?
	下	大甕	80.4 64.3	63.2 12.5	-	-	明赤褐	5mm以下	金海	内面黒塗り?





1. フケ遺跡2区 全景 (東から)



2. SJ01甕棺墓 (西から)



3. SJ02甕棺墓 (東から)



4. SJ03甕棺墓 (北から)



5. SJ04甕棺墓 (東から)



1. SJ05甕棺墓 (東から)



2. SJ06甕棺墓 (北から)



3. SJ07甕棺墓 (北から)



4. SJ08甕棺墓 (北から)



5. SJ09甕棺墓 (北から)



6. SJ10甕棺墓 (南から)



7. SJ11甕棺墓 (東から)



8. SJ12甕棺墓 (西から)



1. SJ13甕棺墓 (北から)



2. SJ15甕棺墓 (北から)



3. SJ16甕棺墓 (東から)



4. SS01祭祀遺構 (西から)



5. SC01石棺墓 (東から)



6. SC02石棺墓 (北から)



7. SP01土壇墓 (北から)



8. SP02土壇墓 (北から)





1. SJ03甕棺上甕



2. SJ03甕棺下甕



3. SJ12甕棺上甕



4. SJ12甕棺上甕



5. SJ12甕棺下甕



6. SJ13甕棺上甕



7. SJ13甕棺下甕



8. SJ16甕棺上甕



9. SJ16甕棺下甕

## 第4章

### フケ遺跡3区

(略号YFK-3)

## 第4章 フケ遺跡3区

### 周辺地区の概要

鳥栖市田代本町字フケに所在し、九千部山から派生する高位段丘上に位置する。周辺地区には、弥生時から古墳時代にかけての大規模な遺跡群が展開している。北には平原遺跡・平原古墳が谷を挟んで対峙し、西には銅鐸出土遺跡および大規模甕棺墓地群として著名な安永田遺跡（国史跡）、東には3世紀後半代に位置する赤坂前方後方墳、6世紀前半代の剣塚前方後円墳（いずれも県史跡）、南には6世紀後半代の装飾古墳の田代太田古墳（国史跡）を見ることができる。この地域は、通称「柚比遺跡群」と呼ばれており、平原遺跡全域、安永田遺跡の一部を含む約260haにおよぶ鳥栖北部丘陵新都市整備事業に伴い埋蔵文化財調査が実施されている。なおフケ遺跡は過去、柚比遺跡群範囲確認調査第4次調査「フケ遺跡」で甕棺墓が確認されており、平成8年度フケ遺跡2区（本書記載）の調査では甕棺墓及び石棺墓・土壙墓が出土している。

### 遺跡の概要

今回報告するフケ遺跡3区については、平成11年3月から4月にかけて、個人住宅立て替えに伴い調査を行った地点である。なお、建物が建設される100㎡を対象地とする。出土した遺構は甕棺墓18基・土壙墓4基である。

甕棺墓については、成人棺10基、小児棺7基が出土した。甕棺墓の詳細については表4-1に記載しているが、時期設定については下記のように示すことができる。

前期末（K c）	SJ01・SJ07・SJ06・SJ02・SJ13・SJ15
中期前半（K a）	SJ10・SJ17・SJ04・SJ05・SJ06・SJ12・SJ18
（K b）	SJ09・SJ16
不明	SJ08・SJ14・SJ19

これらの時期設定から本地区の甕棺墓は弥生時代前期末～中期前半を中心に展開している。また時期的に鳥栖地域で現在確認されている甕棺墓地群の中でも古い部類に属するものである。

特徴的な甕棺墓については、SJ10・SJ13甕棺墓を挙げることができる。SJ10甕棺墓は遺構検出面から墓標と思われる石（註1）が出土し、一次墓壙は規模が大きく、また出土した合口甕棺を囲むように石組の配列を有している。なお甕棺内部からは遺物等の確認はできなかったが、僅かに朱が残り、黒塗りが施されていた。時期については、中期初頭～前半（K a・城ノ越式）に位置するものと思われる。なお、盛土等は確認できていない。SJ13甕棺墓は3連式甕棺である。鳥栖地域においては、安永田遺跡・大久保遺跡で出土しているが、時期的には前期末（K c・金海式新）に位置し、時期的に最も古いものである。

次に甕棺については下記の特徴をみることができる。

1. 穿孔を有する甕棺 SJ03・04・06・13・15甕棺下甕・SJ13甕棺中甕
2. 口縁部に打欠きをもつ甕棺 SJ07甕棺下甕・SJ13・18甕棺上甕・SJ13甕棺下甕・SJ14甕棺上甕

穿孔・打欠き等、甕に対して何らかの細工を施しているものが18基中8基みられる。

土壙墓については4基を出土している。2段掘り方を有し、時期設定については、SP04土壙墓をSJ02土

墳墓が切っていることから、前期末以前の土壌墓の範疇に位置する可能性を有している。ただし、切りあい関係もひとつの土壌墓から導きだしているため、土壌墓全体の時期については不明である。なおフケ遺跡2区については、土壌墓を甕棺墓群よりも前の段階に位置づけており、3区においても甕棺墓の前段階もしくは同時期の範疇として報告する。

### 小 結

フケ遺跡については今回の調査を含め、過去の調査例から東西200m、南北50m、面積10,000㎡にも広がる大規模な甕棺墓地群ということが分かってきた。3区については弥生時代前期末～弥生中期前半を中心に造営され、またフケ遺跡1～3区全体にみれば前期末～後期前半の範疇に位置し、約250年間継続された墓地群ということが証明された。地形的に見れば北東にいくほど時期も新しくなる傾向が読み取れる。3区については、鳥栖地域の甕棺墓群では現在確認されているなかで古い部類に属し(註2)、またSJ10甕棺墓のように、一般的な甕棺墓とは違い、首長墓クラスと思われる甕棺が確認できたことも大きな成果である。ただし、SJ10甕棺墓は単独に形成されたものではなく、同時期の甕棺墓も近辺に存在することから、首長墓として認定してよいかは今後の課題となるだろう。なお、墳丘墓の可能性については、盛土等の形跡もなく、また墓標と思われる石も見られることから、可能性は低いと現在の段階ではいえる。

通称「柚比遺跡群」と称される同地域においては、同遺跡から周辺地域の大規模な甕棺墓地(安永田・大久保・平原遺跡・柚比本村遺跡等)が形成されていったものと推測される。

註1 検出面から出土した石については墓標として報告したが、支石墓としての可能性も指摘されている。

註2 ハツ並金丸遺跡8区・村田三本松遺跡ではフケ遺跡3区より一形式古い甕棺墓の存在が明らかになっている。

### <参考文献>

- 橋口達也(1979)「甕棺の編年的研究」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』XXX 福岡県文化財調査報告書  
 鳥栖市教育委員会(1982)『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第16集  
 鳥栖市教育委員会(1984)『フケ遺跡』「柚比遺跡群範囲確認調査第4年次調査報告書」鳥栖市文化財調査報告書第20集  
 鳥栖市教育委員会(2001)『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第62集  
 鳥栖市教育委員会(2001)『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第67集  
 佐賀県教育委員会(2001)『柚比遺跡群1』「平原遺跡」「大久保遺跡」佐賀県文化財調査報告書第148集  
 佐賀県教育委員会(2002)『柚比遺跡群2』「安永田遺跡」「柚比梅坂遺跡」佐賀県文化財調査報告書第150集  
 佐賀県教育委員会(1996)『佐賀県文化財年報5・6』

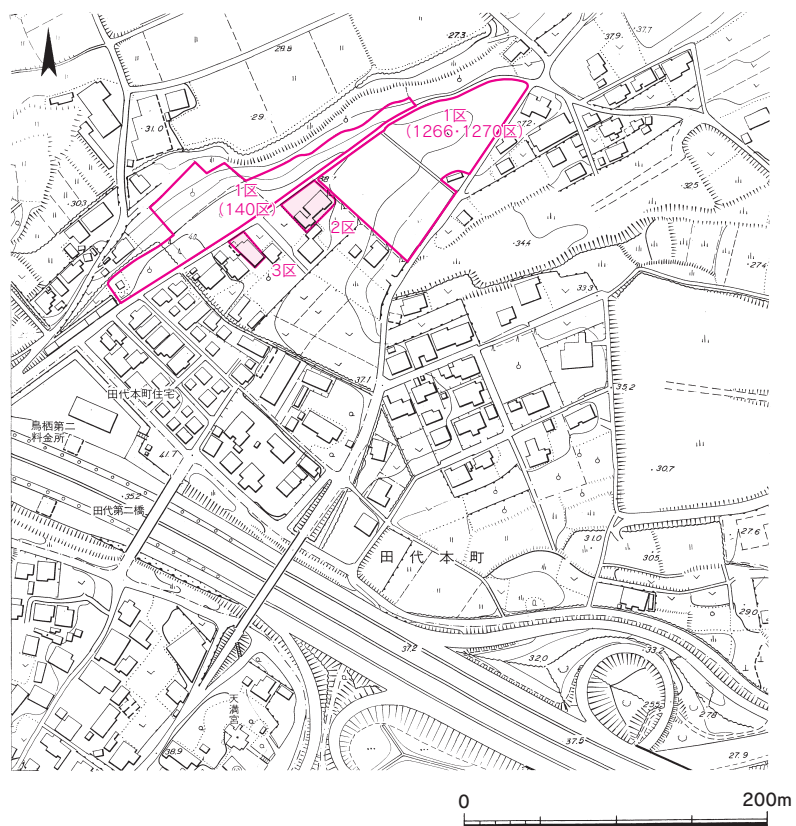
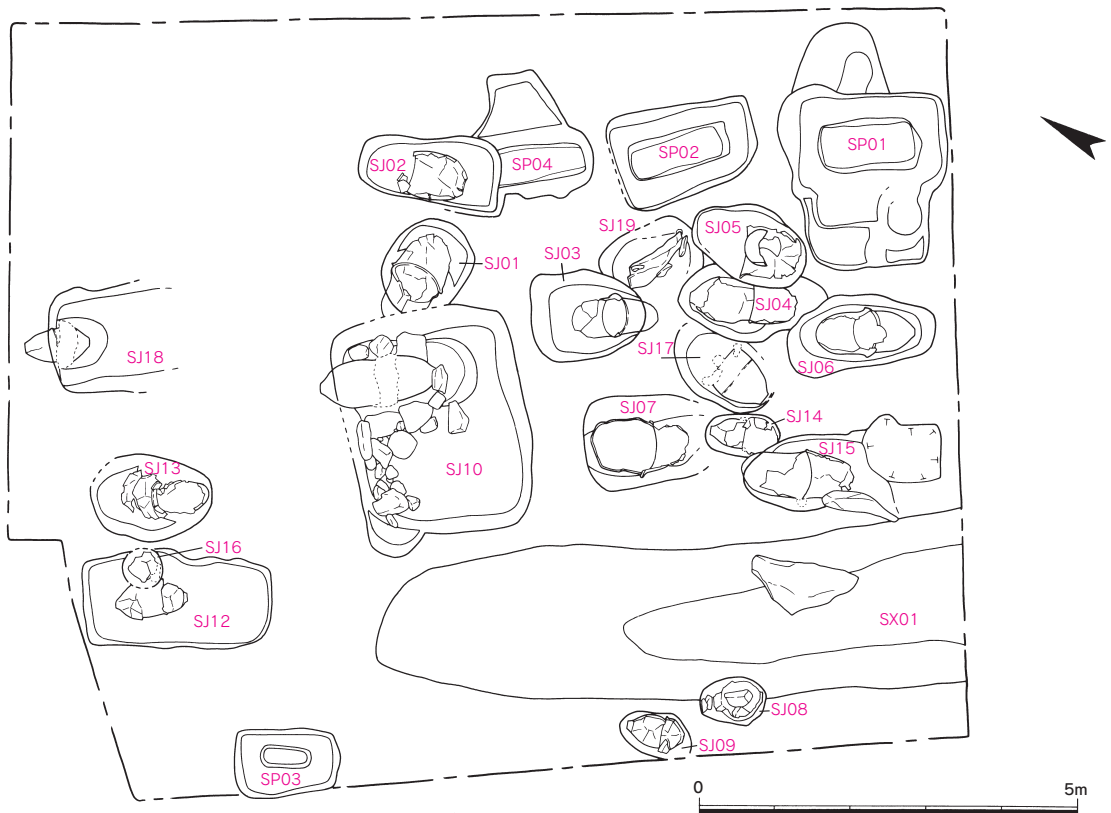


図4-1 フケ遺跡3区調査区位置図 (1/5,000)・遺構配置図 (1/100)

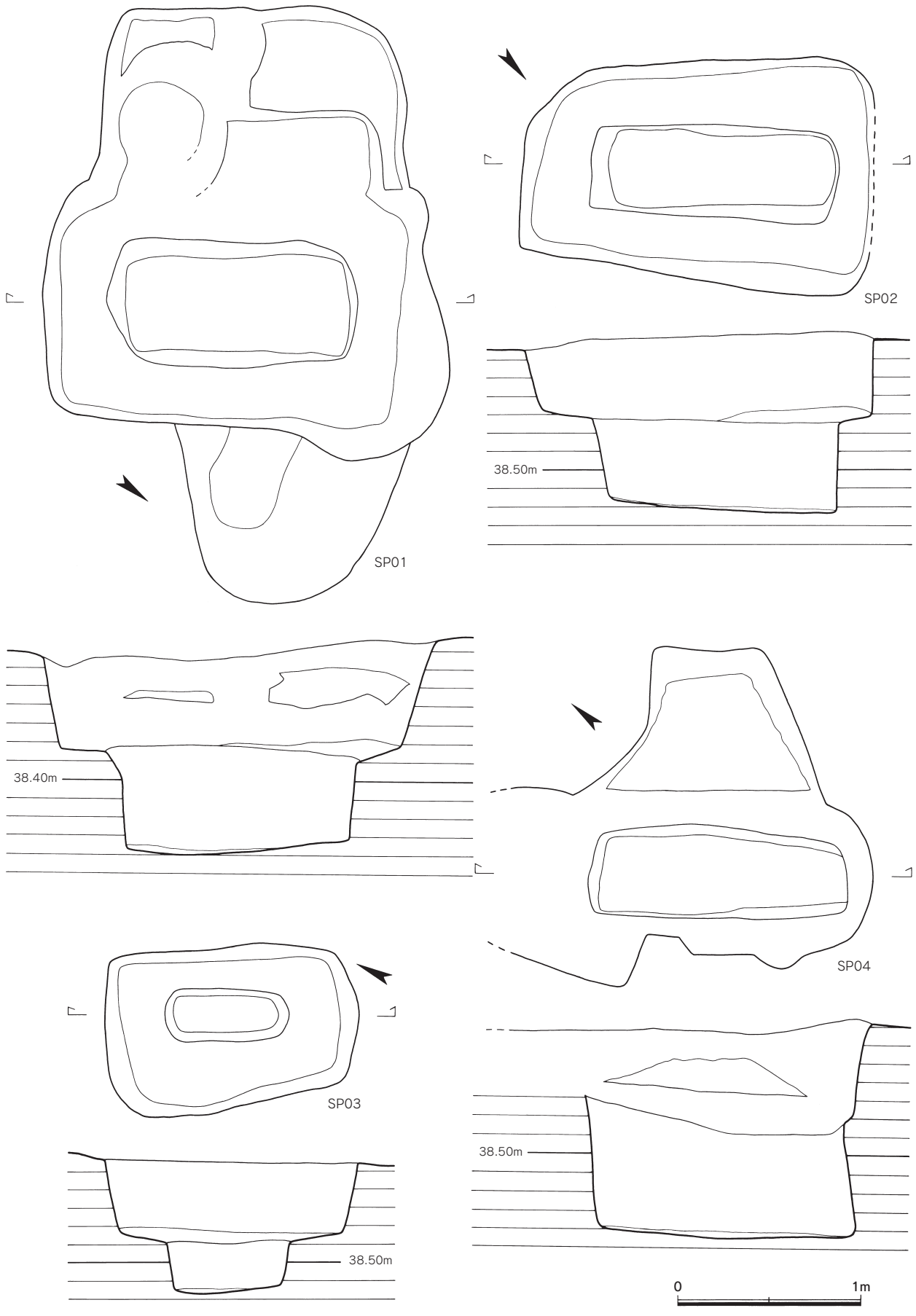


図4-2 フケ遺跡3区土墳墓 (1/30)

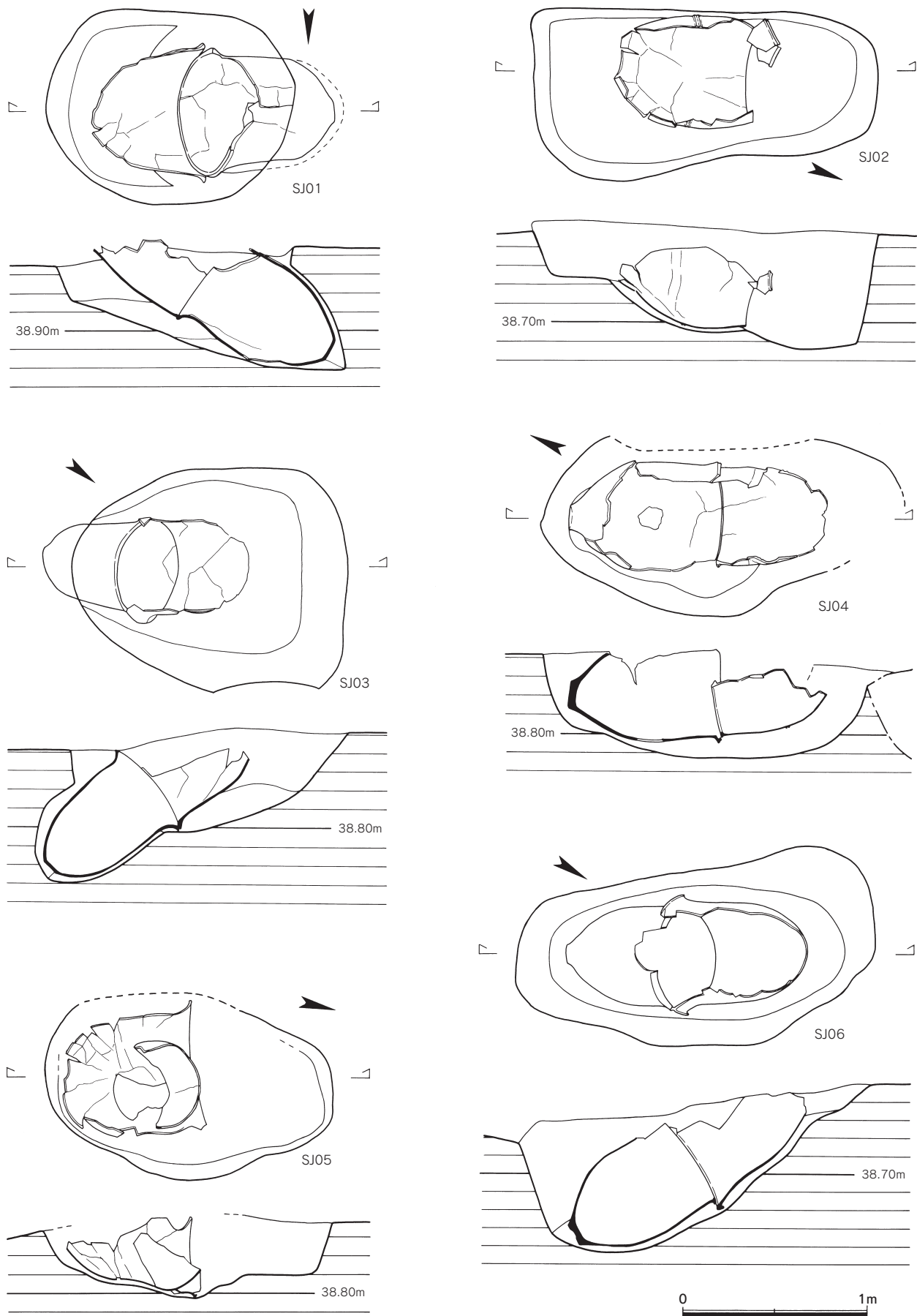


図4-3 フケ遺跡3区甕棺墓1 (1/30)

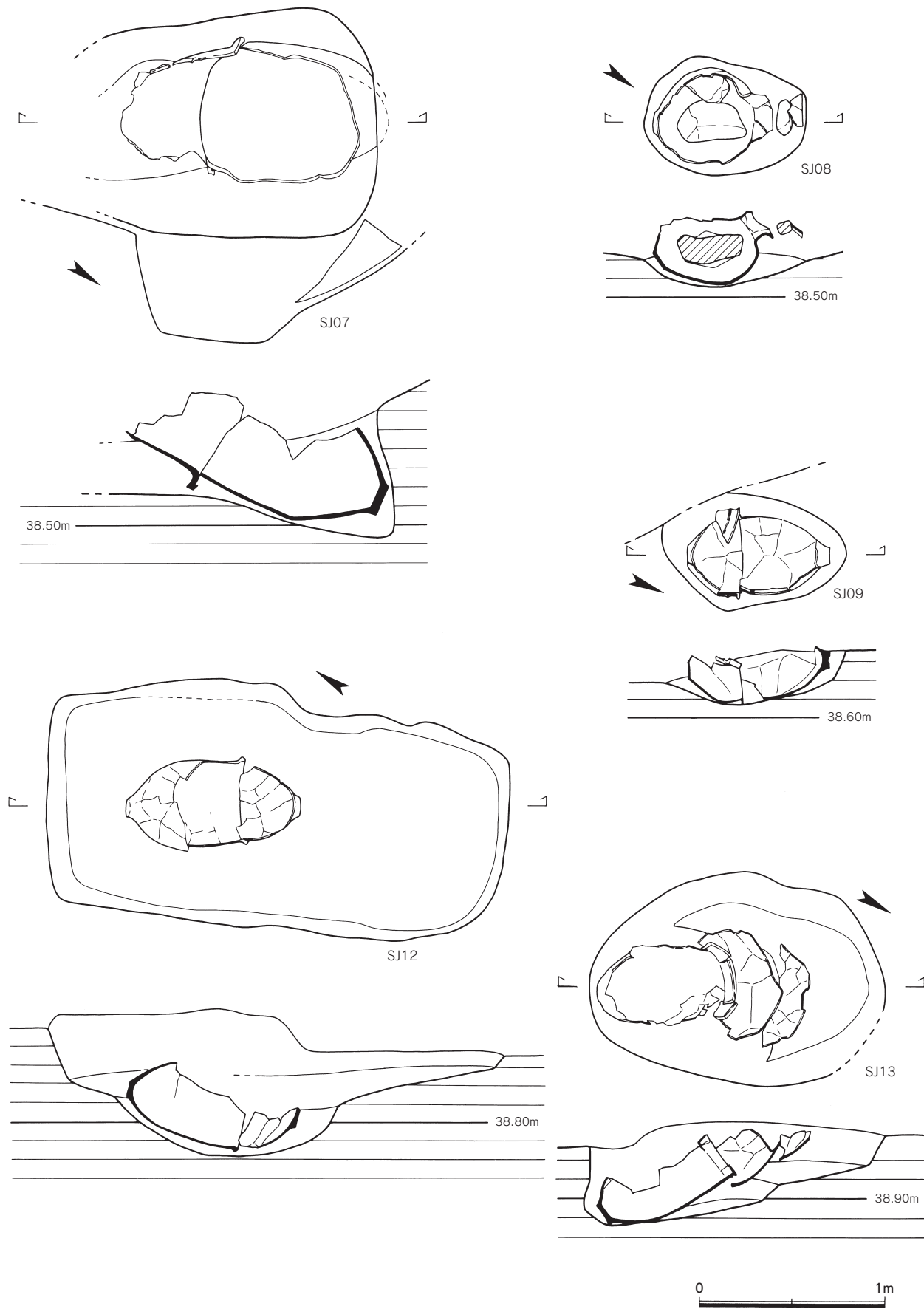


図4-4 フケ遺跡3区甕棺墓2 (1/30)



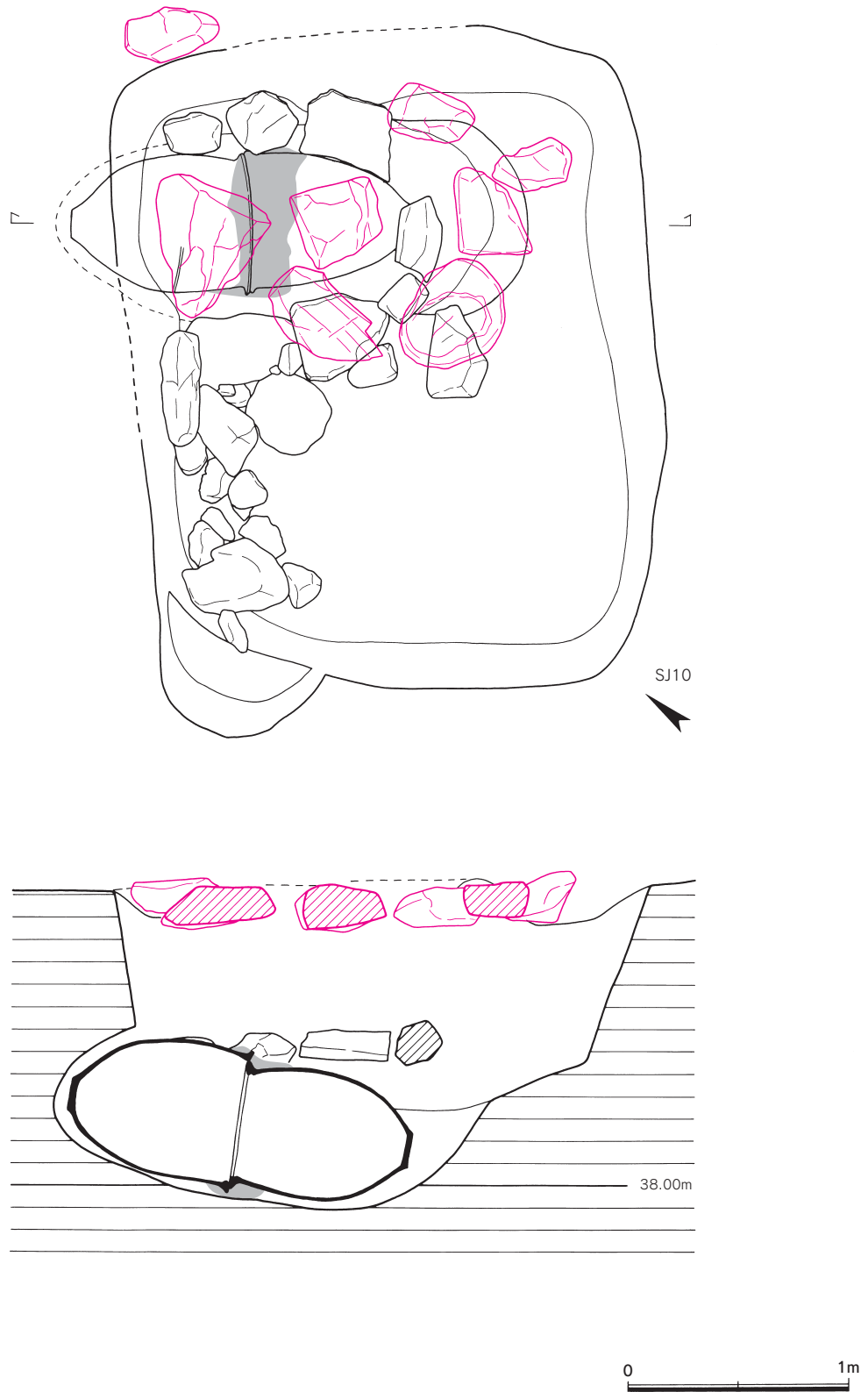


図4-5 フケ遺跡3区甕棺墓3 (1/30)

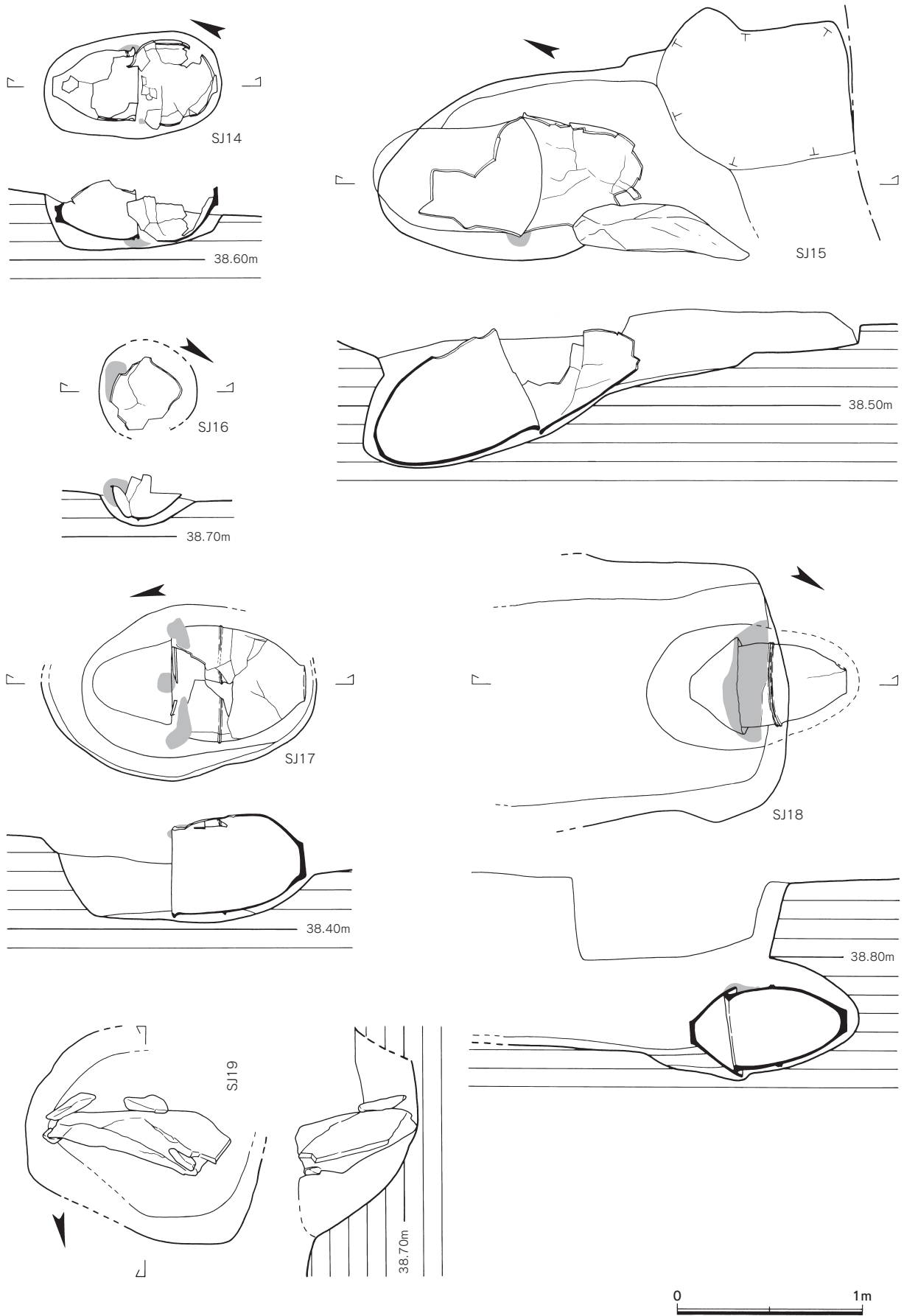


図4-6 フケ遺跡3区甕棺墓4 (1/30)

表4-1 フケ遺跡3区 甕棺墓一覧表

遺構番号	挿図番号	1次墓壙				2次墓壙		甕棺形式			棺の埋置		備考
		形態	長	幅	深	深	奥行	器種		合口 形態	主軸方位	角度	
								上	下				
SJ01	図4-3	楕円形	135	105	28	55	29	甕	甕	接口	N90° W	+31	
SJ02	図4-3	隅丸長方形	129	93	32	46	-	-	甕	-	N18° W	(+19)	
SJ03	図4-3	隅丸方形	150	121	55	53	21	甕	甕	接口	S37° E	+40	下甕：穿孔有
SJ04	図4-3	楕円形	195+	90	56	-	-	甕	甕	接口	N24° W	+3	下甕：穿孔有
SJ05	図4-3	楕円形	156	100	45	-	-	-	甕	-	S12° E	(-1)	
SJ06	図4-3	楕円形	192	106	95	-	-	甕	甕	覆口	S29° E	+33	下甕：穿孔有
SJ07	図4-4	隅丸方形	137+	122	82	-	-	甕	甕	覆口	N33° W	+27	下甕：打欠き
SJ08	図4-4	楕円形	89	63	18	-	-	-	壺	-	S35° E	+30	
SJ09	図4-4	楕円形	99	64	29	-	-	鉢	甕	覆口	N20° W	-4	
SJ10	図4-5	隅丸長方形	300	242	99	83	36	甕	甕	接口	N37° W	-9	
欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SJ12	図4-4	隅丸長方形	252	132	78	-	-	鉢	甕	覆口	N34° W	-10	
SJ13	図4-4	楕円形	158	113	32	22	4	甕	甕	覆口	S29° E	+35	中下甕：穿孔有。上中甕：打欠き
SJ14	図4-6	楕円形	95	56	31	-	-	壺	甕	覆口	N23° W	+7	
SJ15	図4-6	楕円形？	140	100	44	50	6	甕	甕	接口	N23° W	+26	下甕：穿孔有
SJ16	図4-6	円形	52	39	17	-	-	-	甕	-	-	-	
SJ17	図4-6	楕円形	148	95	45	-	-	-	甕	-	N10° E	+2	
SJ18	図4-6	隅丸方形？	113	130	41	68	46	鉢	甕	覆口	N32° W	-5	上甕：打欠き
SJ19	図4-6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	石蓋式？

表4-2 フケ遺跡3区 土壙墓一覧表

遺構番号	挿図番号	墓壙形態	形式	主軸方位	墓壙の規模					
					上段			下段		
					長さ	幅	深さ	長さ	幅	深さ
SP01	図4-2	長方形	二段掘り	S38° W	216	244	65	138	70	56
SP02	図4-2	長方形	二段掘り	N50° W	(192)	130	48	136	50	48
SP03	図4-2	長方形	二段掘り	N27° W	88	90	44	68	29	30
SP04	図4-2	長方形	二段掘り	N41° W	(170)	162	64	142	51	74

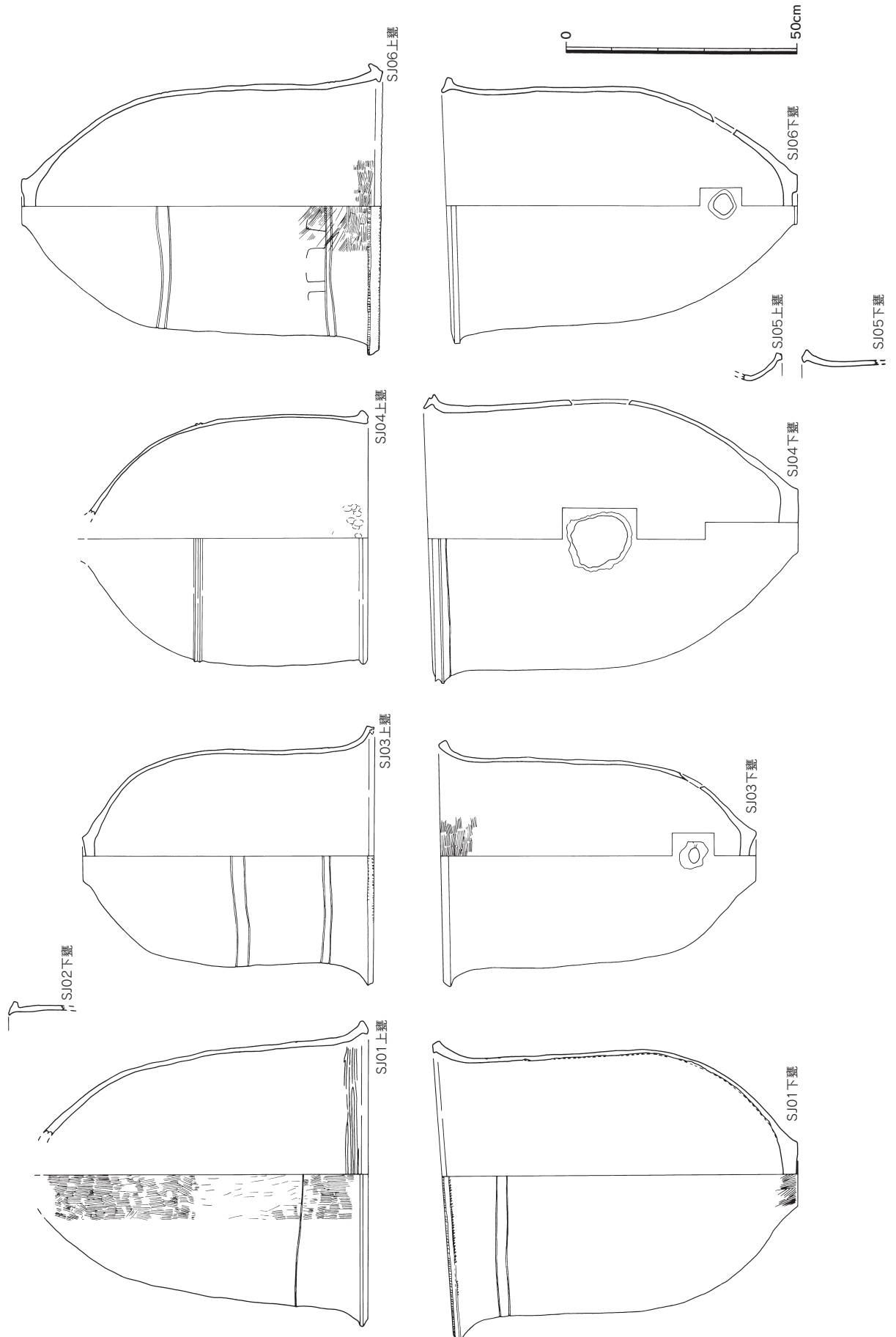


図4-7 フケ遺跡3区出土甕棺1 (1/12)

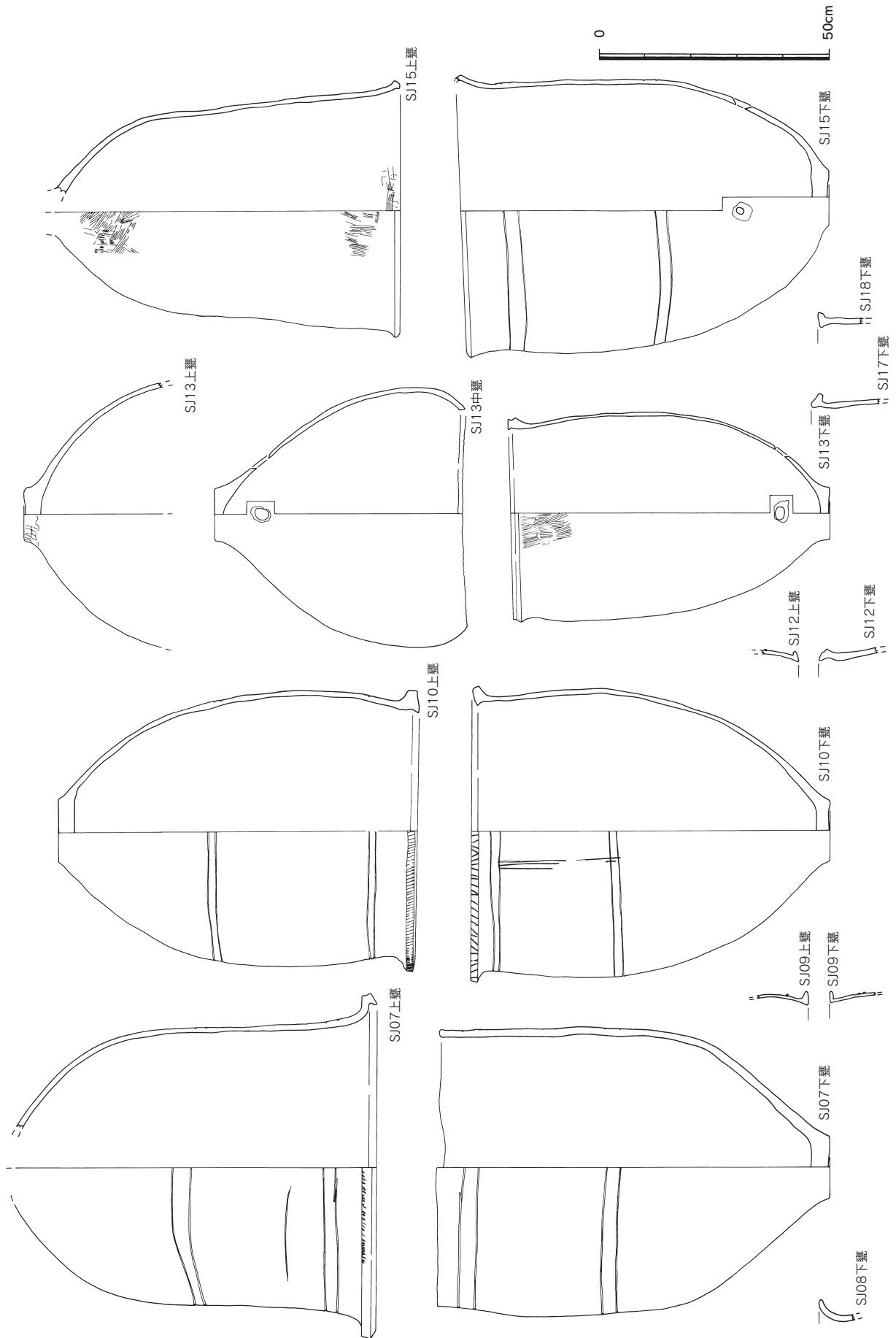


図4-8 フケ遺跡3区出土甕棺2 (1/12)

表4-3 フケ遺跡3区 甕棺観察表

遺構番号	器種	寸法		凸帯		胎土		備考	
		器高 胴最大径	口径 底径	口縁下	胴下	色調	砂粒		
SJ01	上	大甕	-	(67.0)	沈線1条	-	明赤褐	2~4mm	
	下	大甕	73.6 57.4	65.9 14.3	沈線2条	-	明赤褐	3mm以下	口縁部に刻み有
SJ02	下	甕	-	(59.0) 14.0	-	2条	浅黄橙	5mm以下	
SJ03	上	中甕	63.0 47.8	56.0 9.5	沈線2条	沈線2条	にぶい橙	2mm以下	口縁部に刻み有
	下	中甕	68.7 45.6	53.8 10.9	-	-	にぶい橙	3mm以下	穿孔有
SJ04	上	大甕	-	55.6	-	2条	にぶい黄橙	4mm以下	
	下	大甕	81.1 59.6	63.5 14.0	沈線1条	-	赤褐	1~5mm	穿孔有
SJ05	上	甕	-	- 10.2	-	-	橙	-	
	下	甕	69.0	74.0	沈線2条	-	橙	4mm以下	
SJ06	上	大甕	78.0 56.5	61.0 10.1	沈線2条	沈線2条	にぶい赤褐	1~5mm	口縁部に刻み有
	下	大甕	(39.0) (32.6)	(33.0) 8.4	沈線2条	-	橙	2~4mm	穿孔有
SJ07	上	大甕	-	(75.8)	沈線2条	沈線2条	にぶい橙	3mm以下	口縁部に刻み有
	下	大甕	63.0	-	沈線2条	沈線2条	にぶい橙	4mm以下	
SJ08	下	壺	-	32.2 11.4	1条 9.4	-	にぶい橙	3mm以下	
	上	鉢	(29.6)	(41.0) 9.0	1条 3.8	-	にぶい黄橙	5mm以下	
SJ09	下	小甕	48.0	(36.6) 9.0	2条 6.1	-	浅黄橙	7mm以下	口縁部に刻み有
	上	大甕	78.4 61.0	61.9 14.0	沈線2条	沈線2条	にぶい橙	2~7mm	口縁部に刻み有
SJ10	下	大甕	77.5 63.5	65.5 13.3	沈線2条	沈線2条	明赤褐	2mm以下	口縁部に刻み有
	欠番	-	-	-	-	-	-	-	
SJ12	上	甕	28.0	40.0 10.2	1条 6.3	-	にぶい橙	5mm以下	
	下	甕	36.5	46.5 8.4	-	-	橙	4mm以下	
SJ13	上	大甕	-	- 11.4	-	-	にぶい橙	2mm以下	
	中	中甕	-	-	-	-	にぶい赤褐	2mm以下	穿孔有
	下	中甕	70.0 45.1	44.2 11.5	-	-	橙	4mm以下	穿孔有
SJ14	上	壺	49.0	- 11.8	1条	-	明黄褐	3mm以下	口縁打欠き
	下	甕	45.0	(34.8) 9.0	1条 3.3	-	橙	4mm以下	
SJ15	上	大甕	-	56.5	-	-	にぶい橙	2~6mm	
	下	大甕	81.2 60.1	62.0 12.3	沈線2条	沈線2条	橙	1~3mm	穿孔有
SJ16	下	甕	-	-	-	1条	橙	7mm以下	
SJ17	下	大甕	(71.0)	(53.4) 17.6	-	1条	にぶい橙	小砂粒	
SJ18	上	鉢	26.8	- 12.4	-	-	にぶい褐	5mm以下	口縁打欠き
	下	中甕	(65.2)	(44.4) (12.4)	-	2条	黄橙	6mm以下	





1. フケ遺跡3区 全景 (北から)



2. SJ01甕棺墓 (北から)



3. SJ03甕棺墓 (東から)



4. SJ04(上)・SJ05(下)甕棺墓 (東から)



5. SJ06甕棺墓 (北から)





1. SJ09甕棺墓 (東から)



2. SJ10甕棺墓 (西から)



3. SJ10甕棺墓 (北から)



4. SJ13甕棺墓 (東から)



5. SJ14 (左)・SJ15 (右) 甕棺墓 (南から)



6. SJ12 (上)・SJ16 (下) 甕棺墓 (西から)



7. SJ18甕棺墓 (西から)



8. SP01土壇墓 (北から)



1. SJ01 甕棺上甕



2. SJ01 甕棺上甕口緣部



3. SJ01 甕棺下甕



4. SJ03 甕棺上甕



5. SJ03 甕棺下甕



6. SJ04 甕棺上甕



7. SJ04 甕棺下甕



8. SJ06 甕棺上甕



9. SJ06 甕棺下甕



1. SJ06甕棺下甕穿孔



2. SJ07甕棺上甕



3. SJ07甕棺下甕



4. SJ10甕棺上甕



5. SJ10甕棺下甕



6. SJ13甕棺下甕



7. SJ13甕棺中甕



8. SJ15甕棺上甕



9. SJ15甕棺下甕

## 第5章

# かみ 山 遺 跡 神 やま

(略号 YKA)

## 第5章 神山遺跡

### 周辺地区の概要

神山遺跡（旧遺跡名：神山古墳群）は、佐賀県鳥栖市柚比町字大平・神山・本陣と神辺町字山留に所在する。九千部山の支領である杓子ヶ峰から南東に派生する高位段丘上に立地する。周辺地一帯は、弥生時代から古墳時代を中心とする遺跡が数多く存在し、特に本調査地点の東側一帯は、およそ30を超える遺跡が分布する通称「柚比遺跡群」が展開されていた。この遺跡群に対し、平成3年度から平成14年度まで鳥栖北部丘陵新都市整備事業として大規模な区画整理（現弥生が丘町）に伴う文化財調査を佐賀県教育委員会が主体となって実施された。

周辺地の主な遺跡としては、昭和54年（1979）の鳥栖市教育委員会による柚比遺跡群範囲確認調査第3年次で、九州で初めて銅鐸鏝型が出土した安永田遺跡（国史跡）をはじめ鳥栖北部丘陵新都市整備事業に伴う調査では、弥生時代の大型掘立柱建物跡をはじめ甕棺から赤漆玉鈿装鞘付銅剣（国重文）が出土した柚比本村遺跡、弥生土器の焼成遺構が確認された大久保遺跡、装飾古墳の田代太田古墳（国史跡）や剣塚古墳・庚申堂塚古墳・赤坂古墳（いずれも県史跡）などである。

### 遺跡の概要

今回の神山遺跡の調査原因は、個人住宅に隣接する山の土砂崩れ等の災害防止に伴う土取採取工事で、平成11年5月13日から平成11年5月21日にかけて埋蔵文化財の有無を確認する発掘調査を実施した。調査の結果、対象地である丘陵西側の斜面地標高約86～89m地点で、弥生時代の甕棺墓群を確認した。これにより工事主体者と埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行った結果、引き続いて本調査を実施することとなった。調査面積は、甕棺墓域が認められる約300㎡で、調査期間は、平成11年5月25日から平成11年9月10日まで実施した。

調査の結果、甕棺墓99基を確認した。そのうち成人棺は40基、小児棺は59基である。甕棺の形式的変遷は、汲田式（K c式）～立岩式（K c式）であるが、その大半が汲田式（K c式）と須玖式（K a式）で構成され、中でも鉢と甕を使用するタイプの須玖式（K a式）の割合が多い。なお、立岩式新段階（K c式）の甕棺は1基のみであった。このことから甕棺葬の墓営時期としては、概ね弥生中期前葉頃から始まり、中期中葉頃に最盛期となり、中期後葉頃には埋葬が終焉されていくと考えられる。

甕棺葬の特徴としては、全体的に規則性を有するような埋葬ではなく、どちらかと言えば乱雑な状況である。また、墓域の広がりには約18m四方の範囲で、大規模なものではなかった。但し、今回調査を実施した地点は、舌状に延びる丘陵の斜面部分であり、丘陵頂部については、工事対象外のため発掘調査は行っていない。当然、甕棺墓等の遺構の広がりも大いに予想されることから、今後更に開発行為が進む場合は注意を要する。

調査における特記事項としては、甕棺内の人骨が比較的良好に残存していたことである。出土甕棺墓99基のうち、棺内より21体の人骨を検出した。なかでもSJ17・35・36・54・100の人骨については特に残りがよく、頭蓋と上・下肢が全身的に残存していた。なお、副葬品については確認されなかった。また、出土

人骨の分析調査の詳細については、表5 - 2と表5 - 3で報告している。

従来まで本遺跡では、甕棺墓は確認されていなかったが、今回の調査によって新たに甕棺墓群が形成されていることが判明したため、今後は周辺地の甕棺葬の分布状況や墓営時期等を考える上で大きな成果となった。

最後に本報告では、調査内容を主眼としたため、周辺地域における同時代の甕棺墓群並びに集落全体を通じた内容の分析までは至らなかった。そのため残された課題の報告は、改めて別の機会に譲りたい。

なお、本遺跡の発掘調査並びに報告書作成に多大なるご教授・ご協力をいただきました関係者の方々に、深く謝辞を申したい。

<参考文献>

鳥栖市教育委員会（1983）『安永田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第16集

鳥栖市教育委員会（1986）『田代公園遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第29集

鳥栖市教育委員会（2001）『長ノ原遺跡・神山古墳』鳥栖市文化財調査報告書第63集

佐賀県教育委員会（2001）『柚比遺跡群1』佐賀県文化財調査報告書第148集

佐賀県教育委員会（2002）『柚比遺跡群2』佐賀県文化財調査報告書第150集

橋口達也（1979）『甕棺の編年的研究』九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XXX 』福岡県教育委員会

第5章 調査の内容

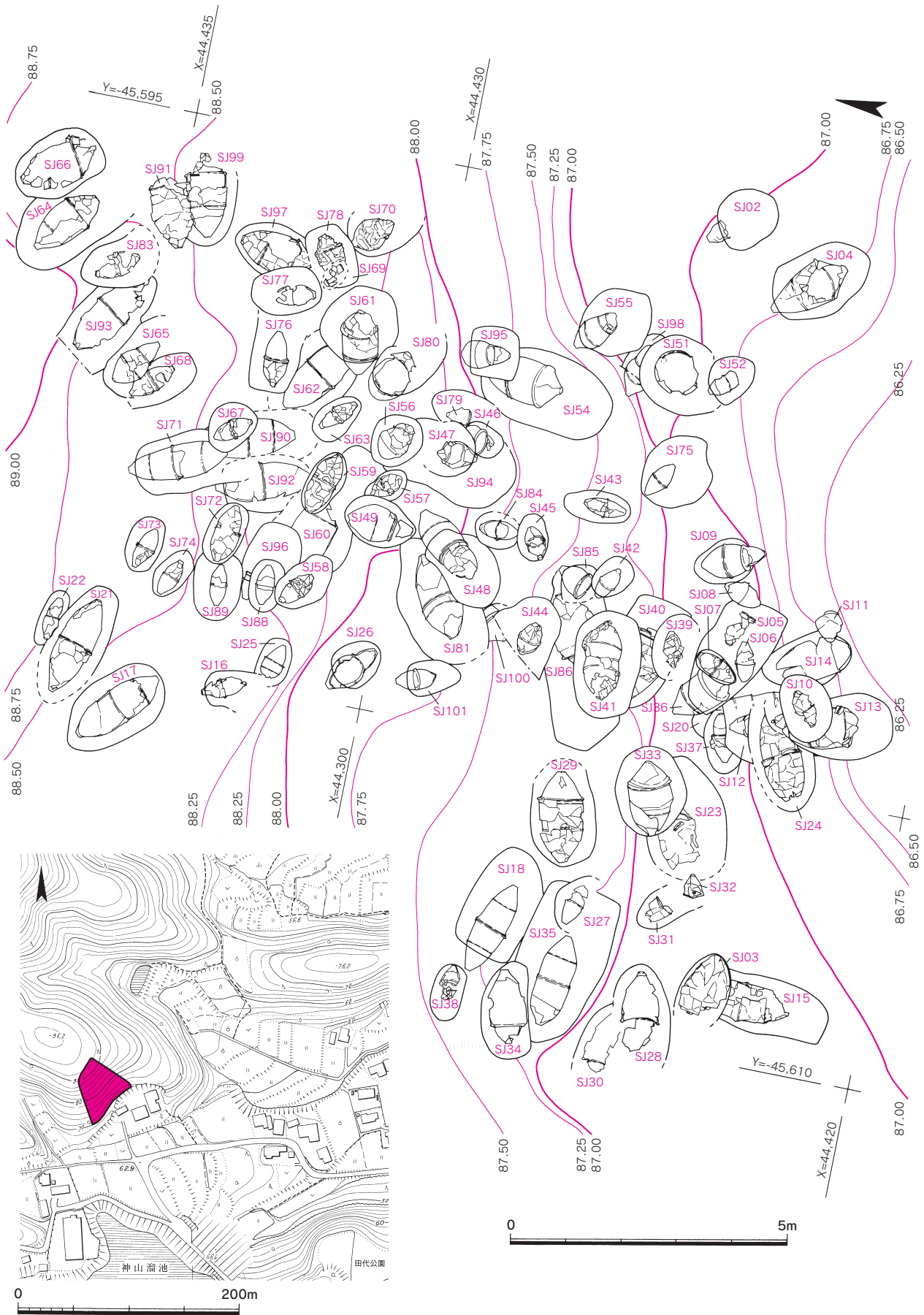


図5-1 神山遺跡調査区位置図 (1/5,000)・遺構配置図 (1/100)

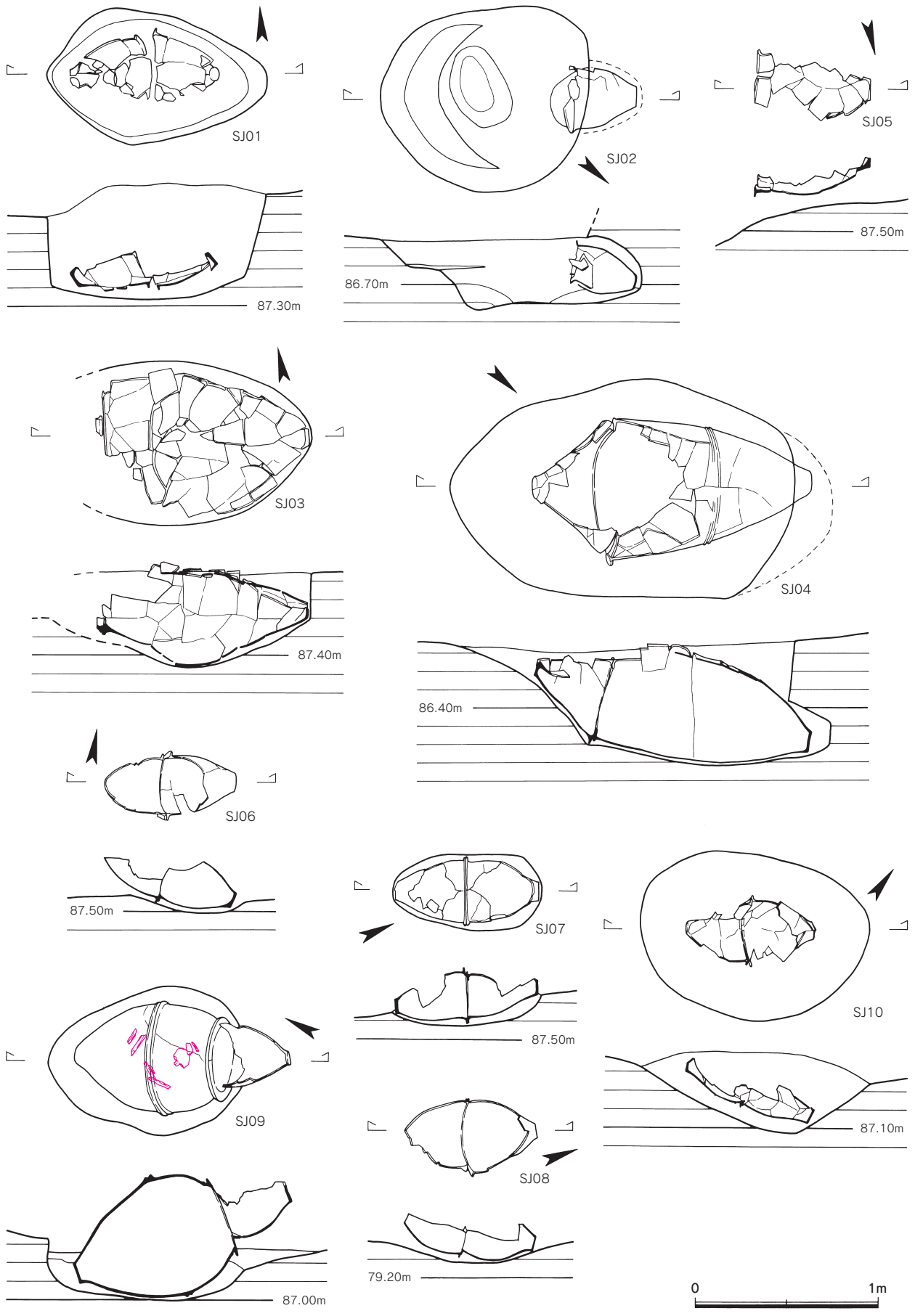


图5-2 神山遺跡甕棺墓 1 (1/30)



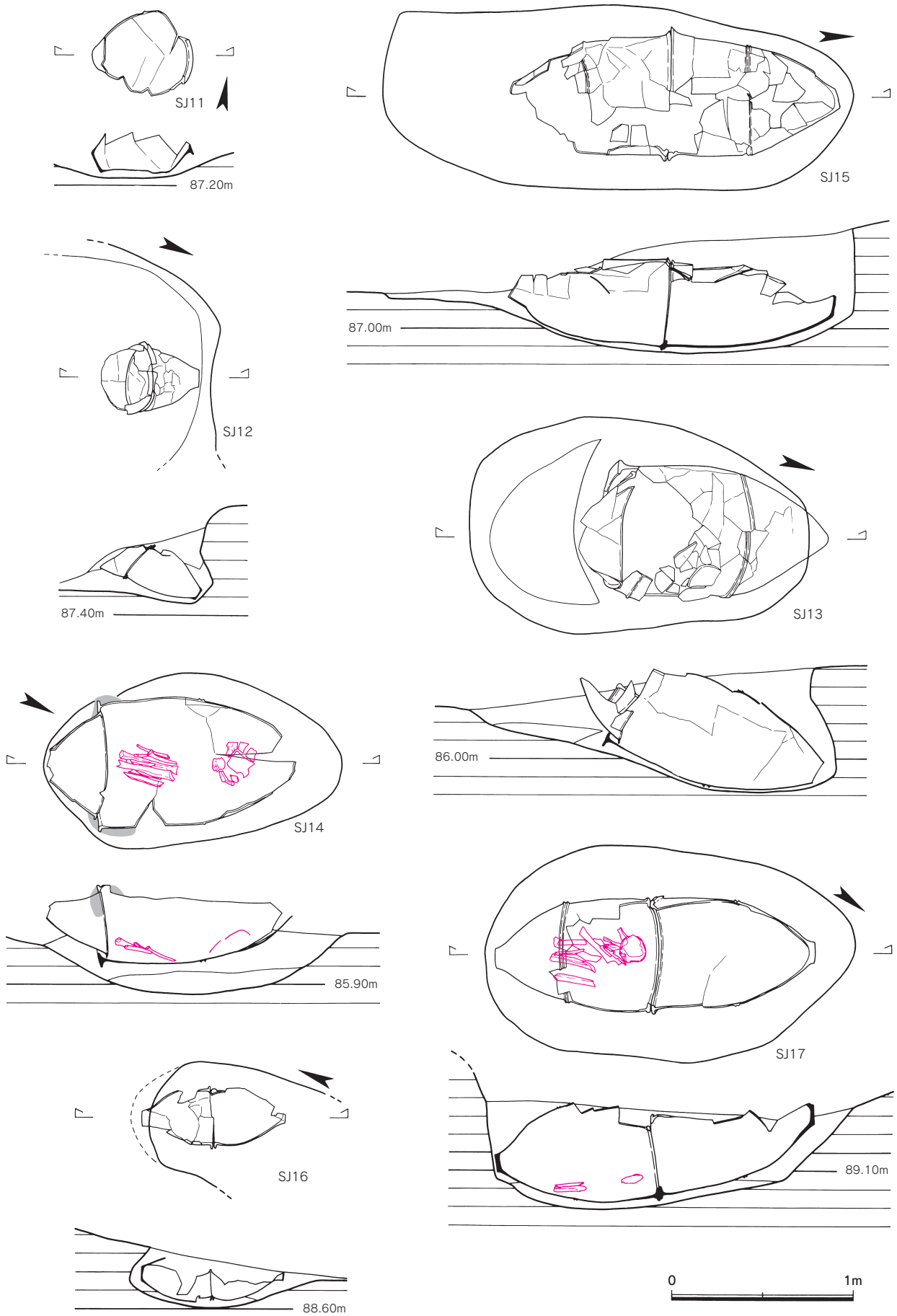


図5-3 神山遺跡甕棺墓2 (1/30)

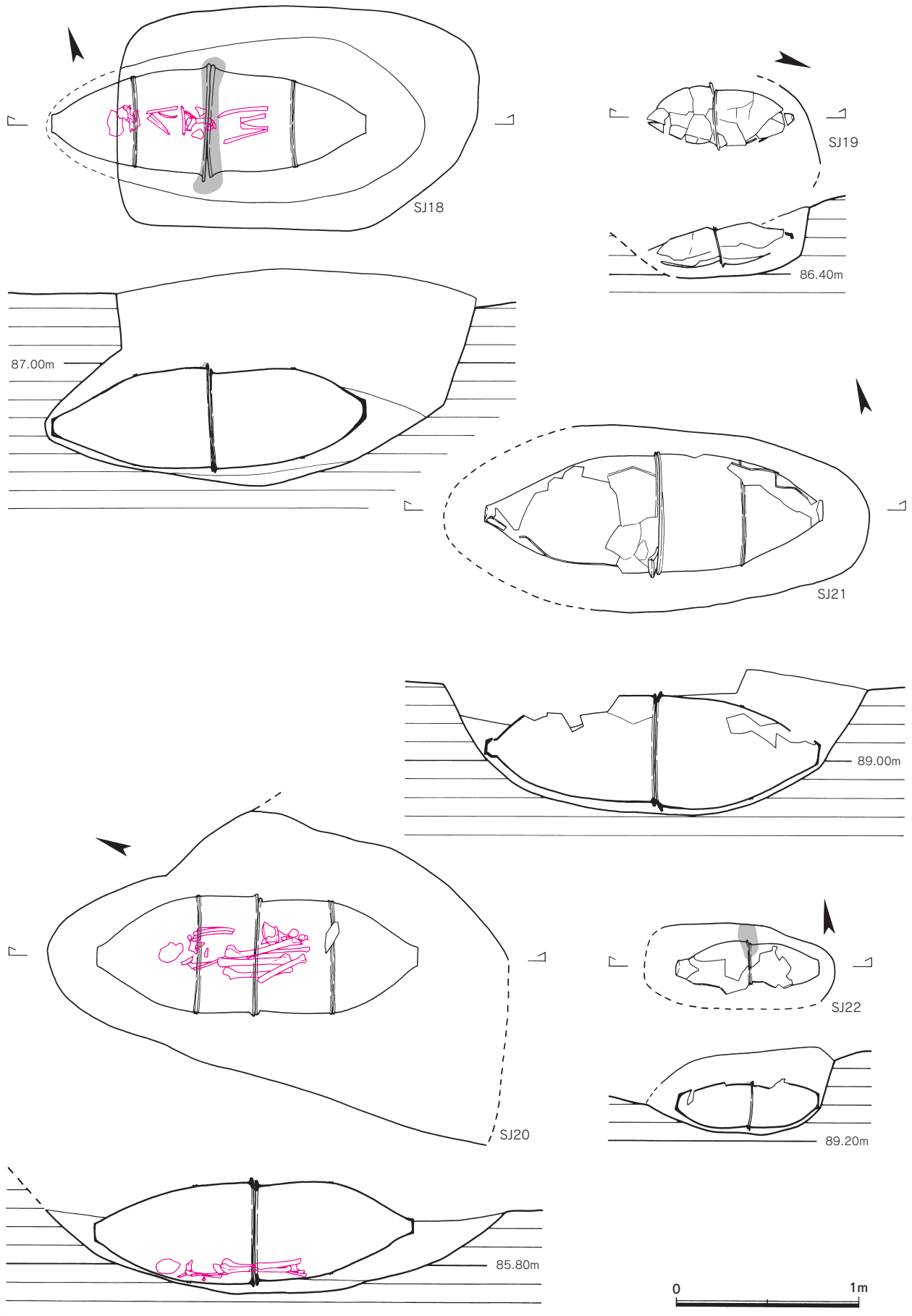


图5-4 神山遺跡甕棺墓3 (1/30)

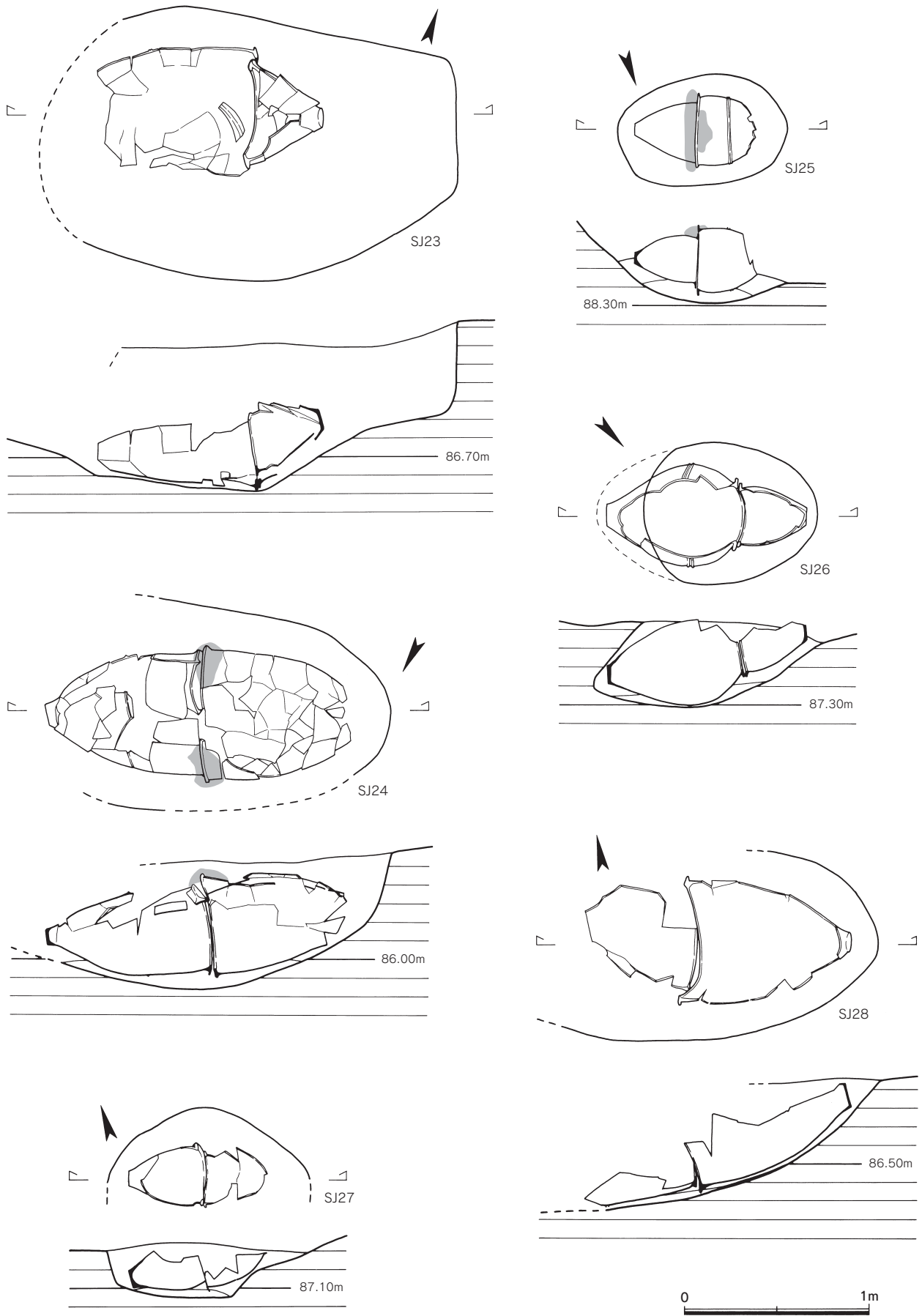


図5-5 神山遺跡甕棺墓4 (1/30)

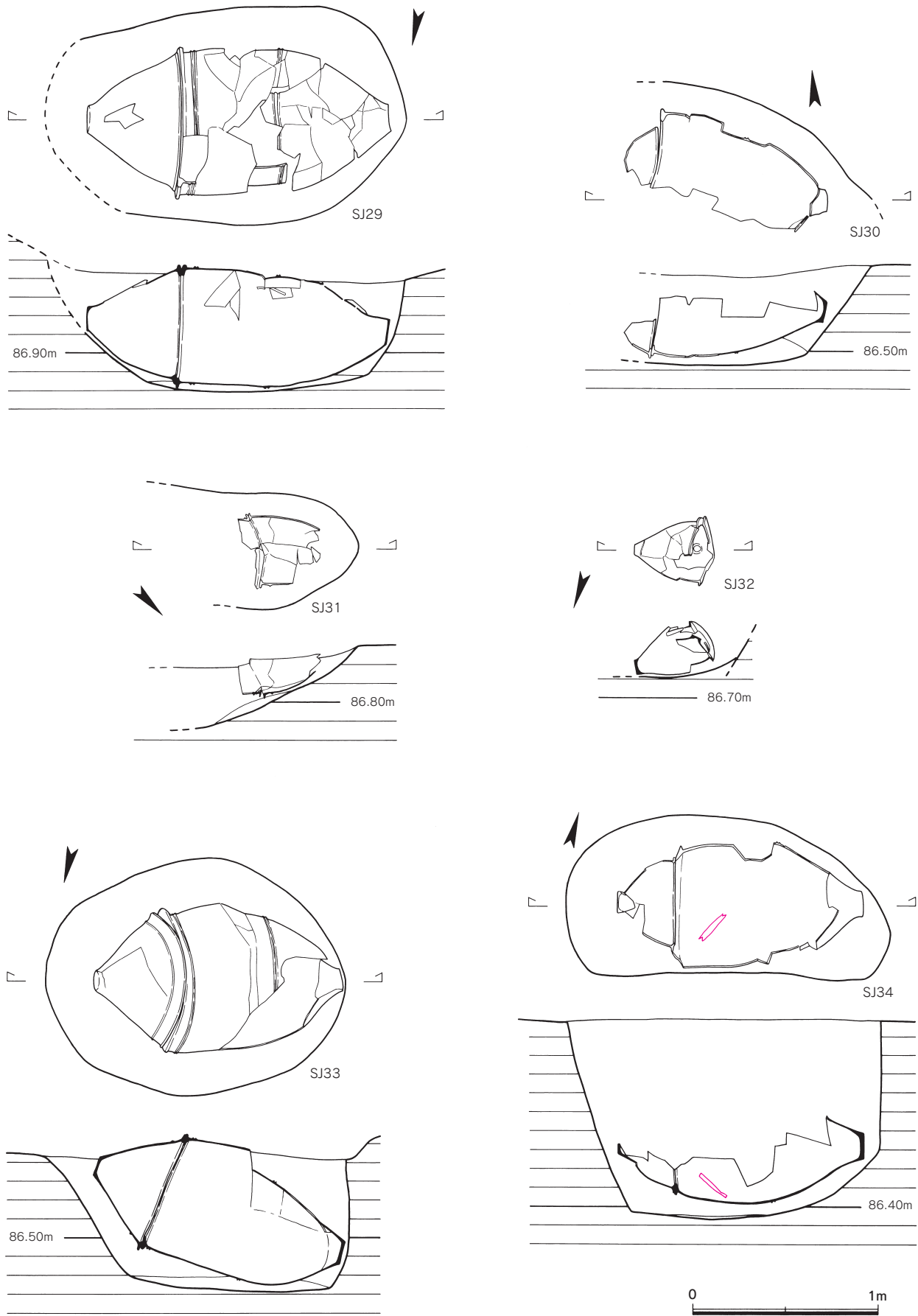


图5-6 神山遺跡甕棺墓5 (1/30)

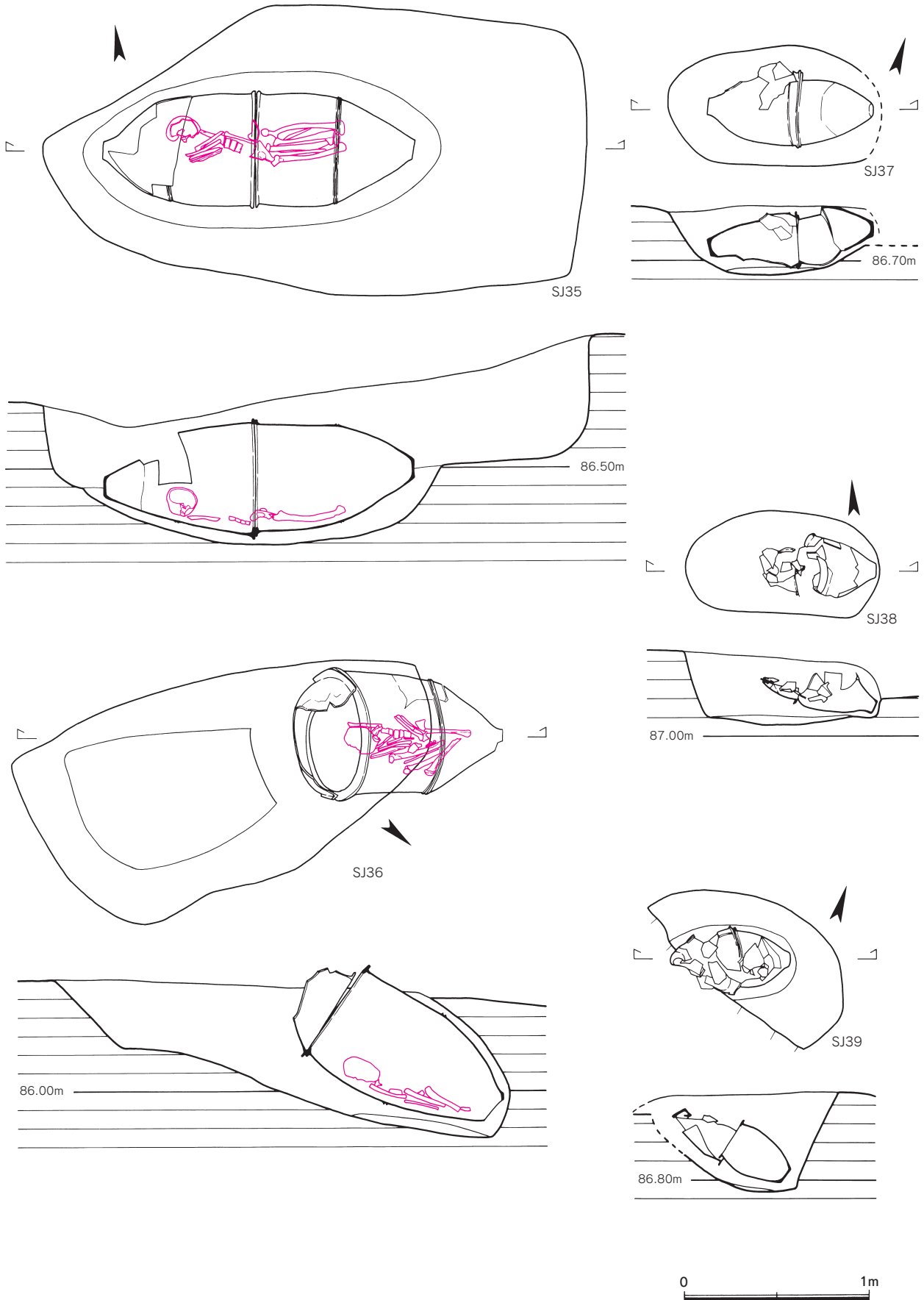


図5-7 神山遺跡甕棺墓6 (1/30)

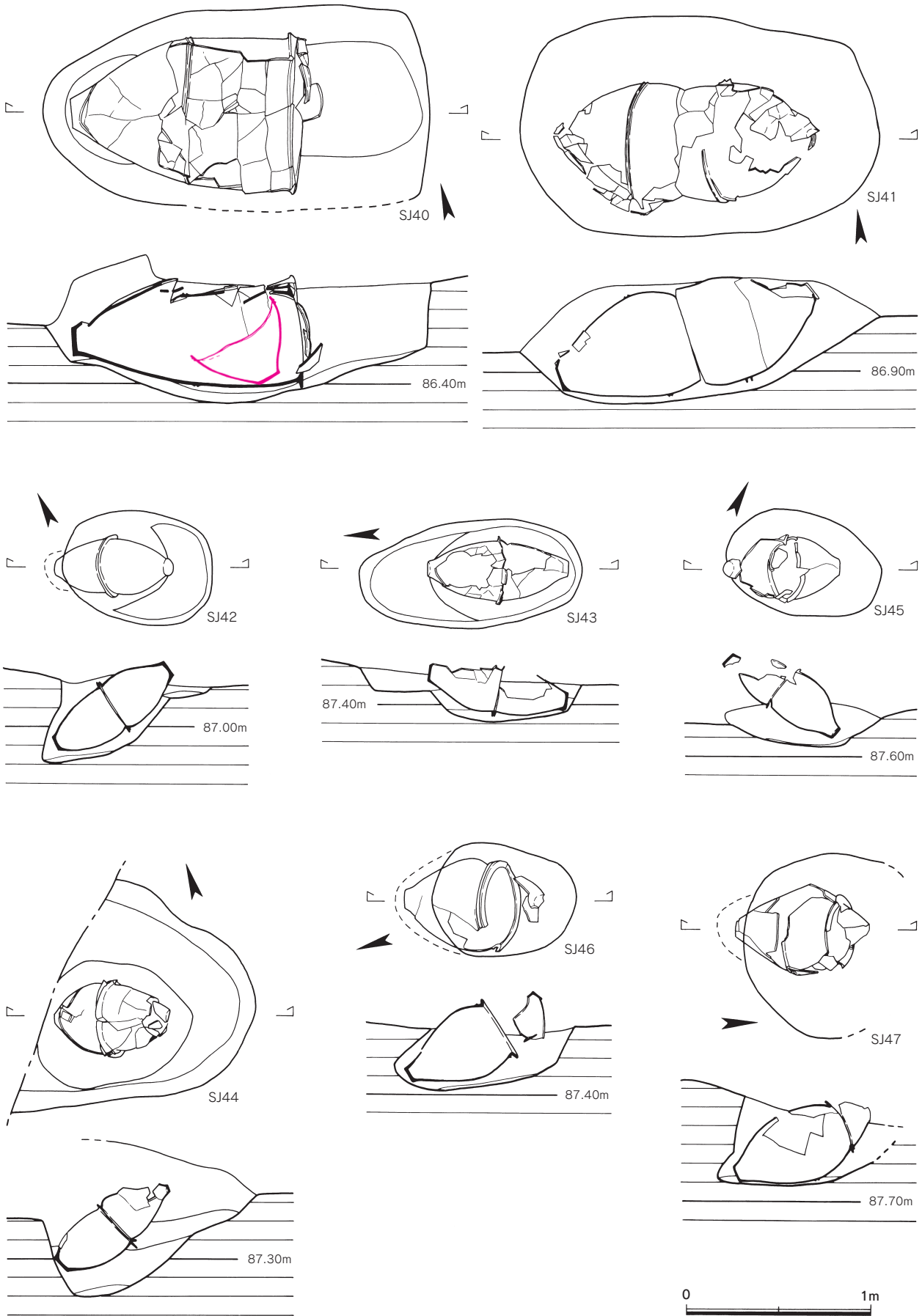


图5-8 神山遺跡甕棺墓7 (1/30)

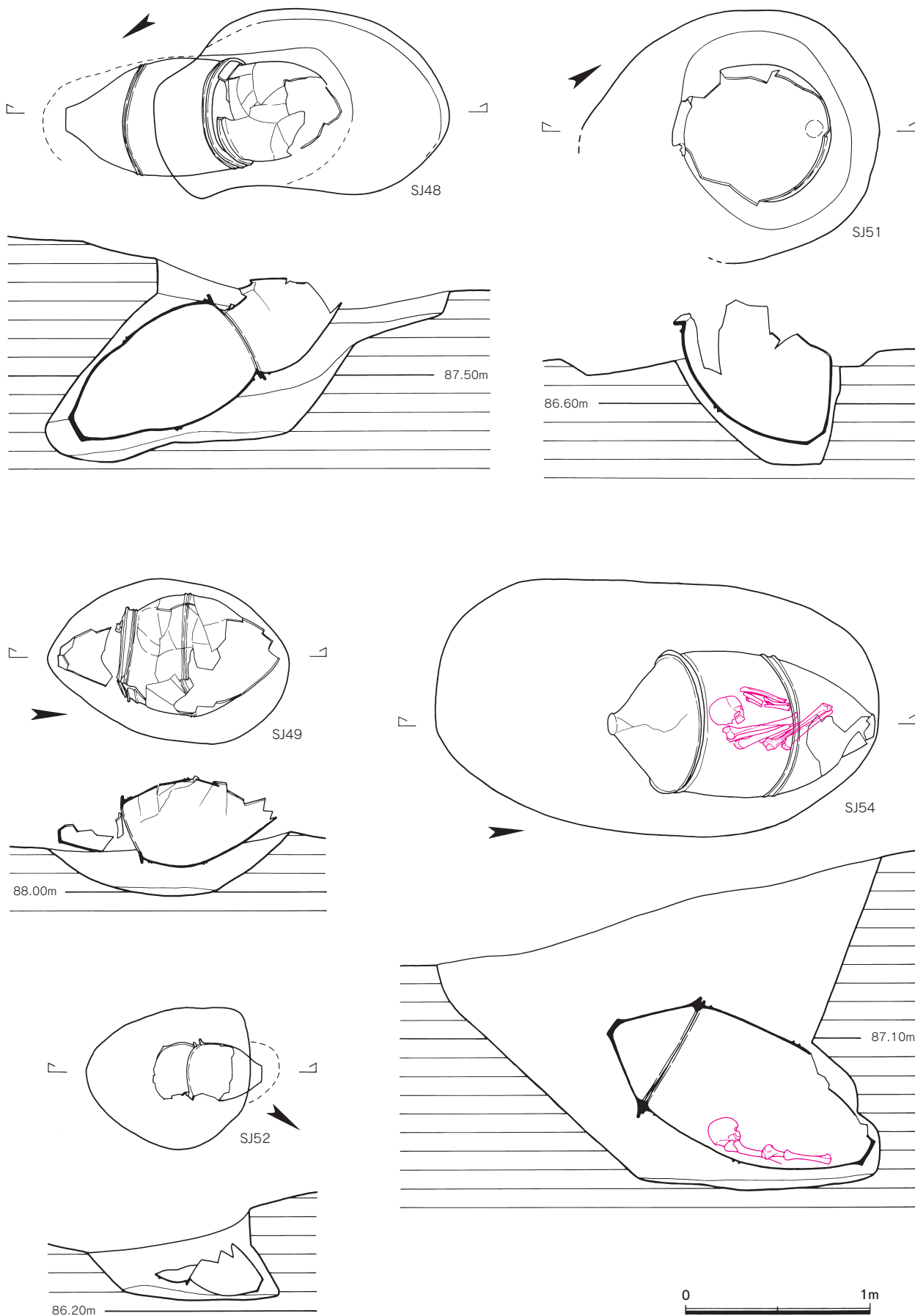


図5-9 神山遺跡甕棺墓8 (1/30)

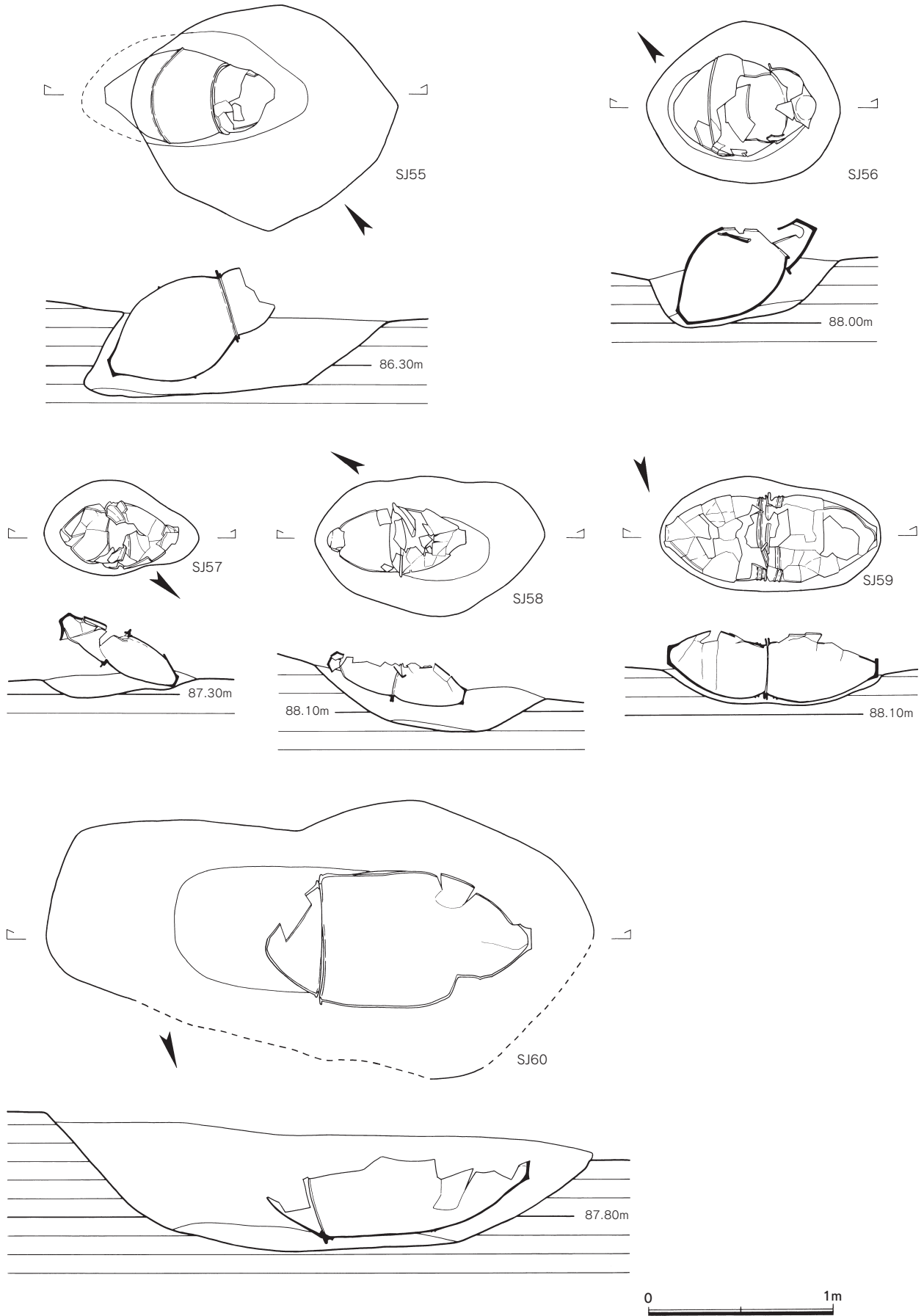


图5-10 神山遺跡甕棺墓9 (1/30)



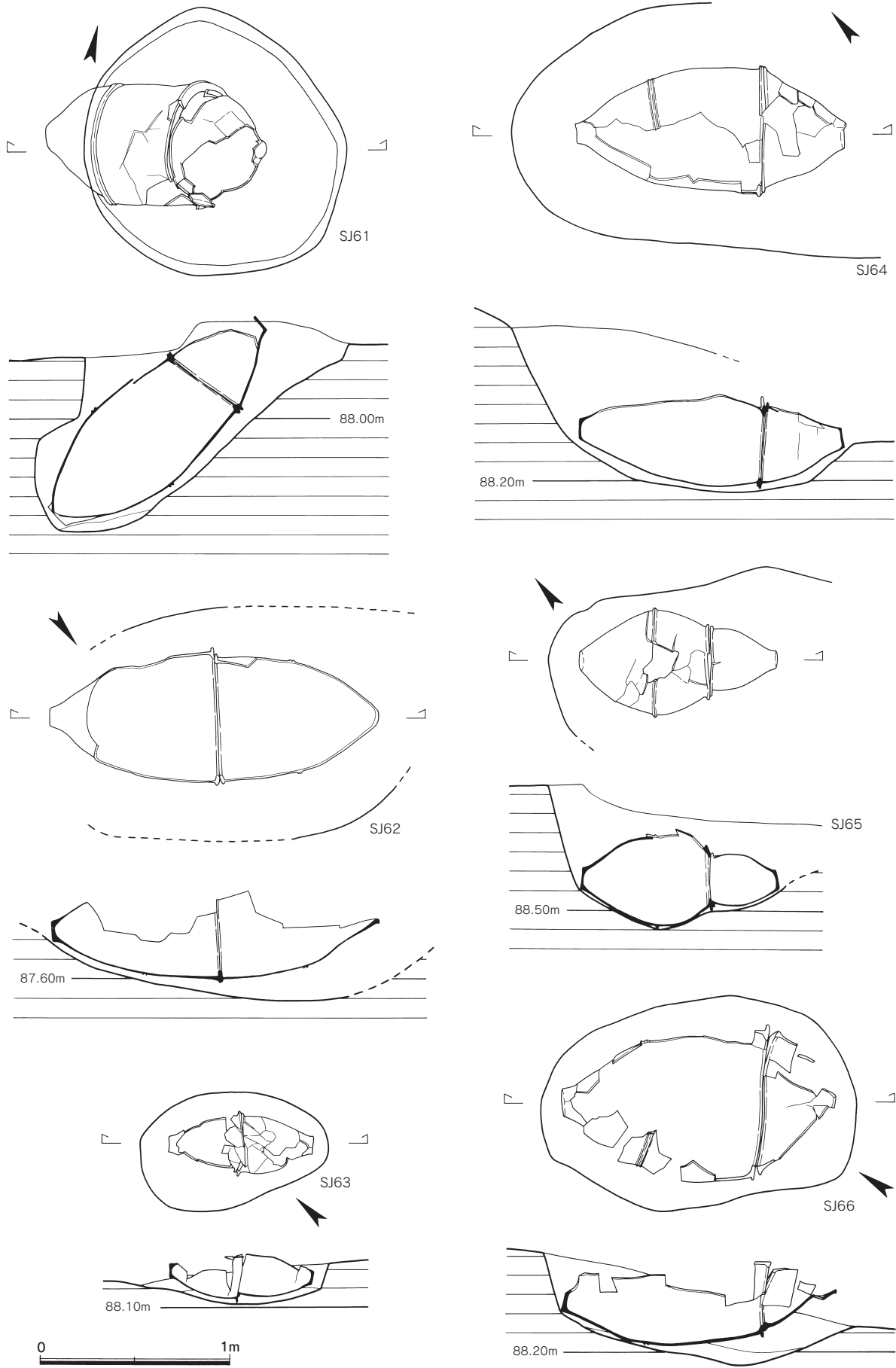


図5-11 神山遺跡甕棺墓10 (1/30)

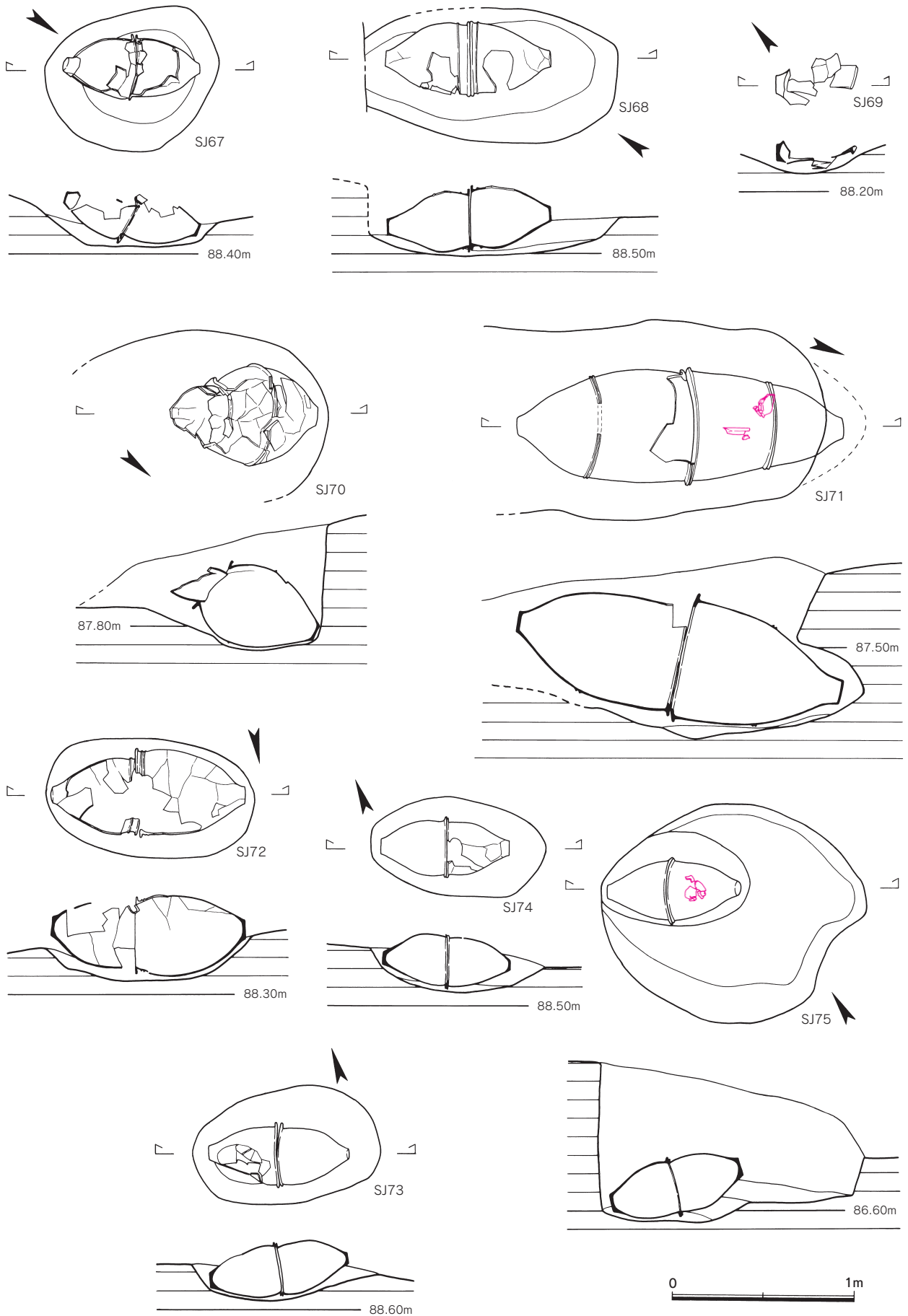


图5-12 神山遺跡甕棺墓11 (1/30)

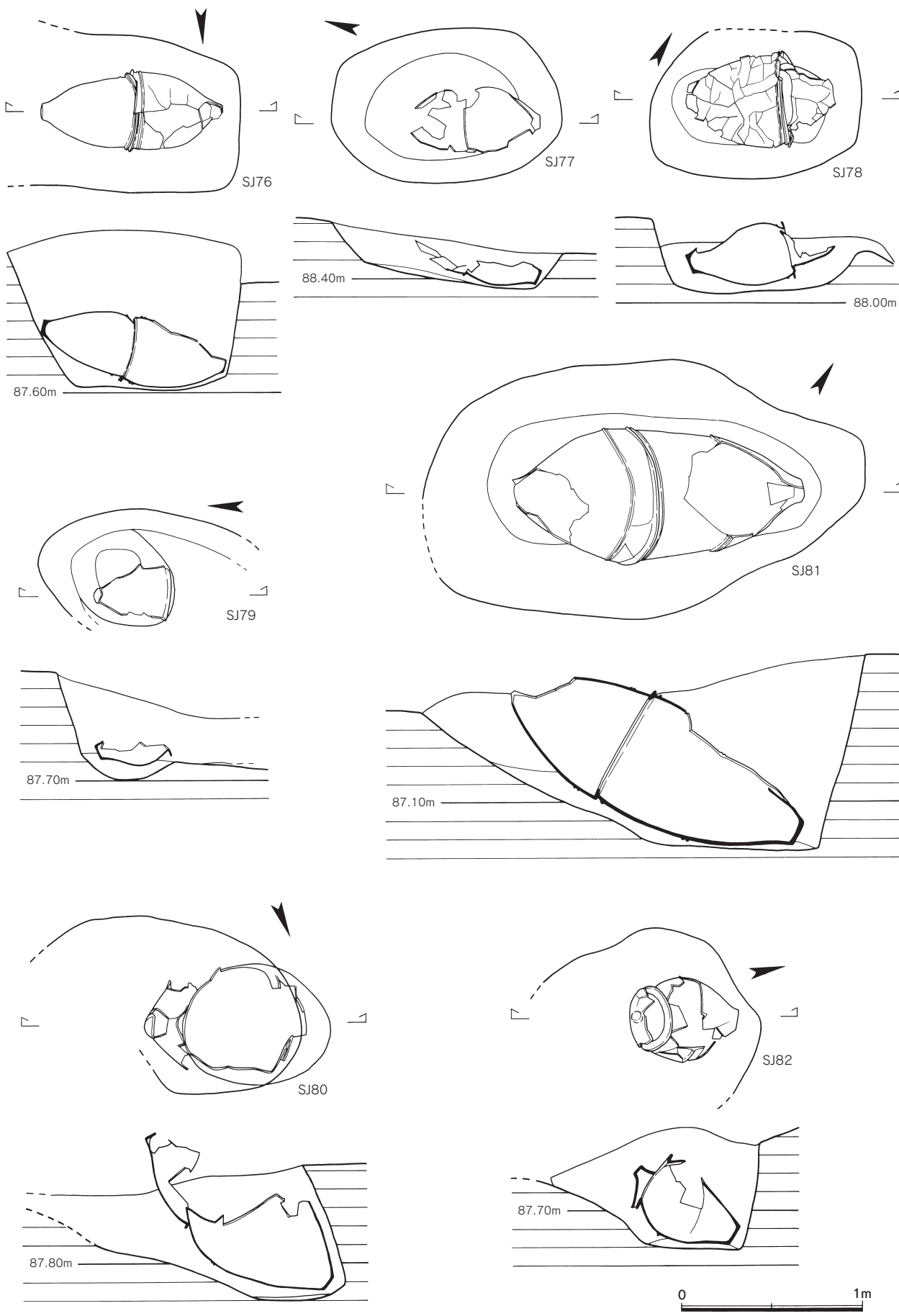


図5-13 神山遺跡甕棺墓12 (1/30)

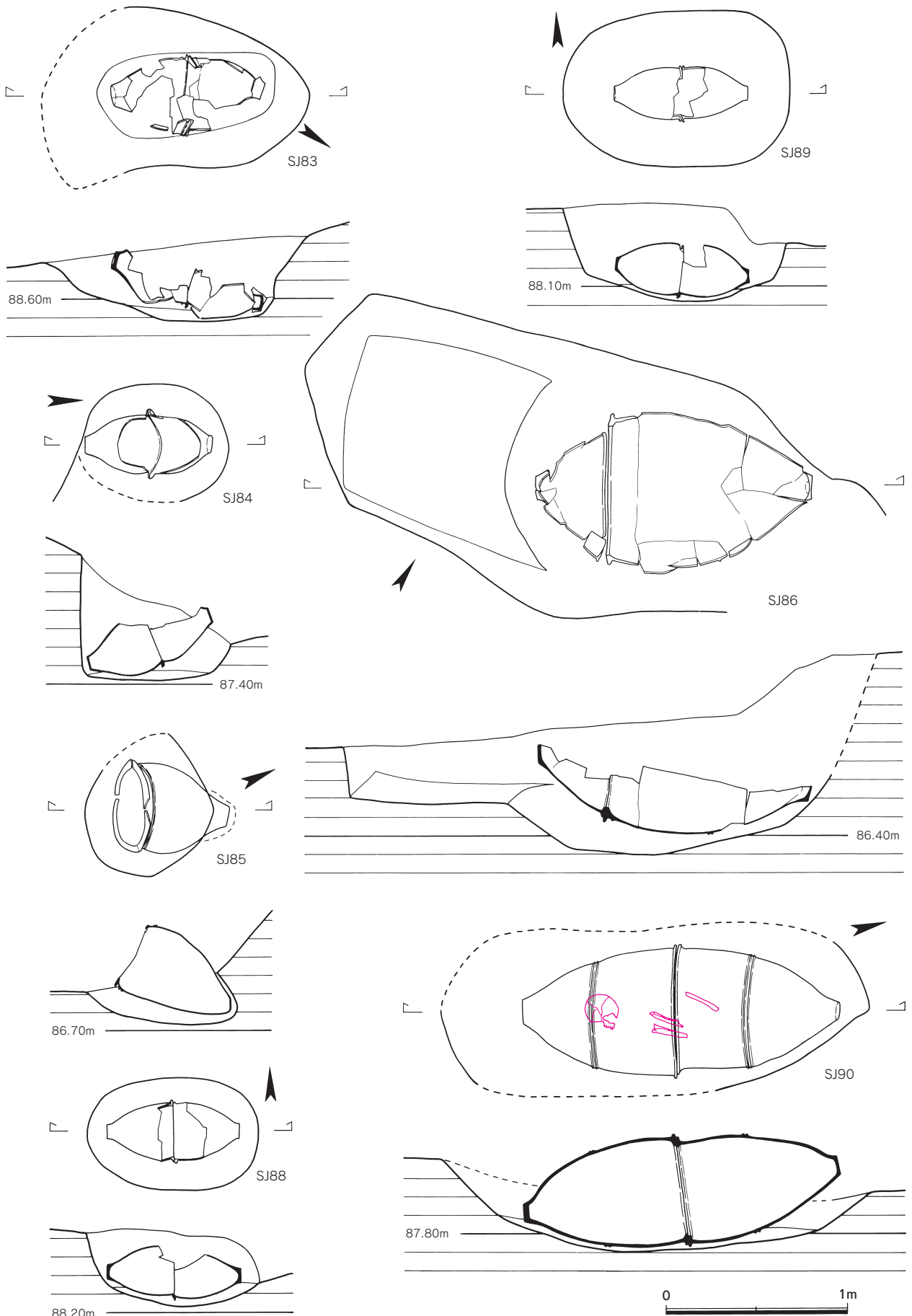


图5-14 神山遺跡甕棺墓13 (1/30)

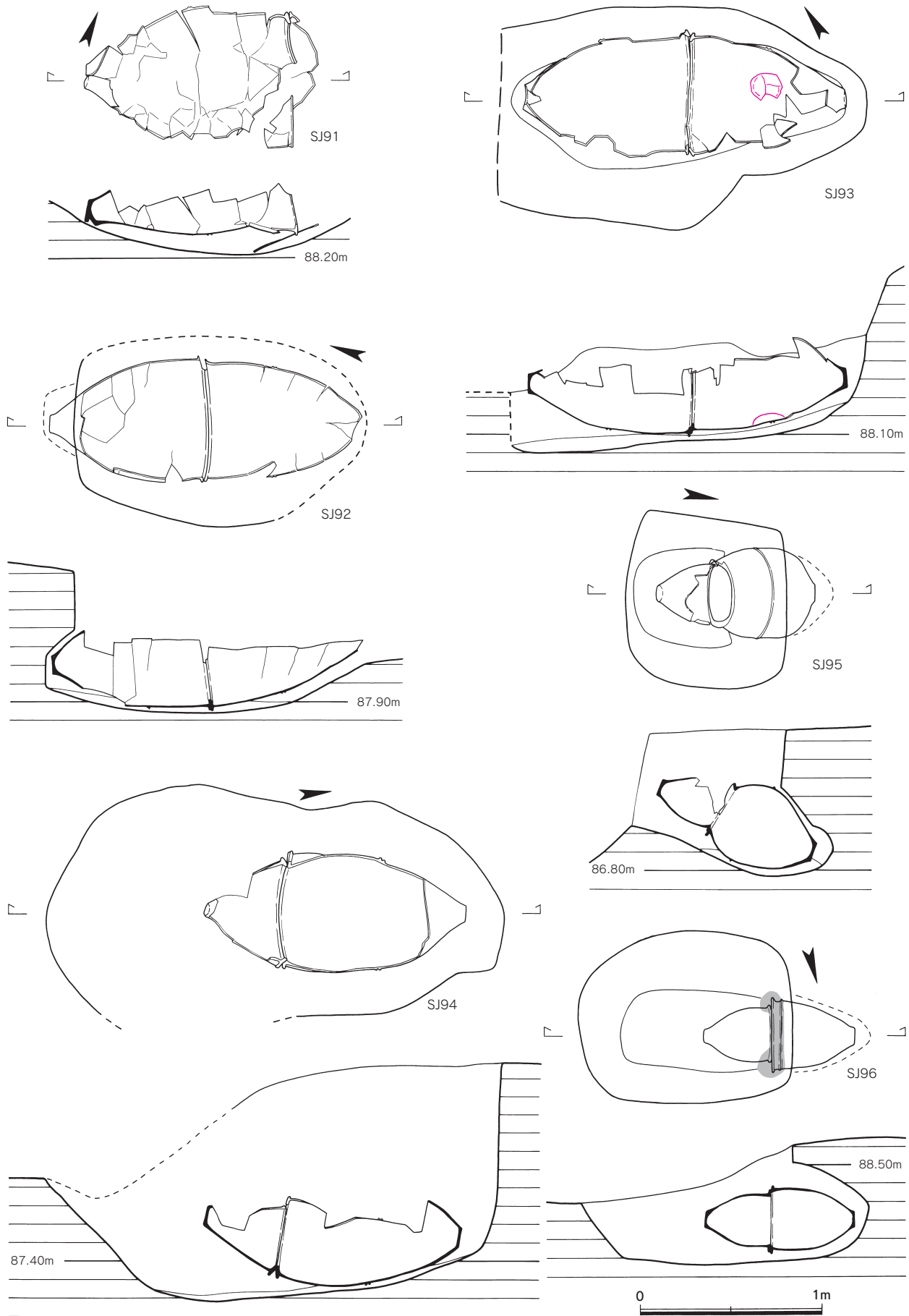


図5-15 神山遺跡甕棺墓14 (1/30)

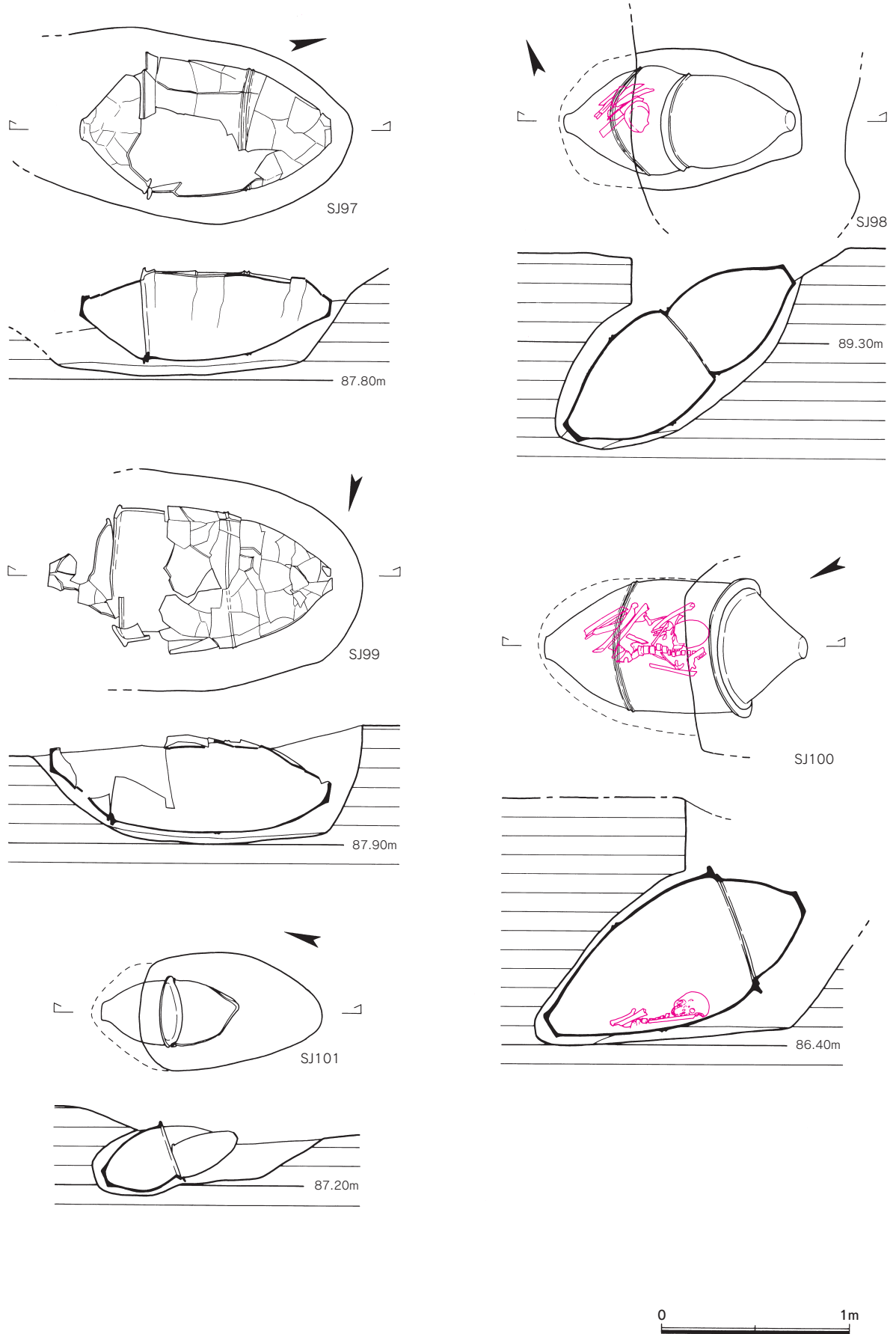


图5-16 神山遺跡甕棺墓15 (1/30)

表5-1 神山遺跡 甕棺墓一覽表

遺構番号	挿図番号	1次墓壙				2次墓壙		甕棺形式		棺の埋置		人骨	備考		
		形態	長	幅	深	深	奥行	器種		合口 形態	主軸方位			角度	
								上	下						
SJ01	図5-2	楕円形	118	74	51	-	-	甕	甕	接口	-	(+16)	-		
SJ02	図5-2	楕円形	113	100	13	36	29	-	甕	-	S40° E	(+13)	-		
SJ03	図5-2	楕円形	117+	89	52	-	-	甕	甕	接口	N80° W	(+1)	-		
SJ04	図5-2	楕円形	185	117	68	36	23	鉢	甕	接口	S42° E	+15	-		
SJ05	図5-2	-	63+	31+	-	-	-	-	甕	-	S74° E	-	-		
SJ06	図5-2	-	72+	37+	-	-	-	-	甕	甕	接口	S81° W	+22	-	
SJ07	図5-2	楕円形	82	41	15	-	-	甕	甕	接口	N23° E	+7	-		
SJ08	図5-2	-	71+	42+	-	-	-	甕	甕	接口	S18° W	+13	-		
SJ09	図5-2	-	106	72	28	-	-	甕	甕	挿入	S23° E	+20	○		
SJ10	図5-2	楕円形	125	93	43	-	-	甕	甕	接口	S52° W	+22	-		
SJ11	図5-3	-	56+	46+	-	-	-	-	甕	-	N83° E	+22	-		
SJ12	図5-3	-	55+	45+	45	30	7	甕	甕	接口	S12° E	+32	-		
SJ13	図5-3	楕円形	184	118	43	47	10	鉢	甕	挿入?	S19° E	(+25)			
SJ14	図5-3	楕円形	162	96	35	-	-	鉢	甕	挿入?	S16° E	-	○		
SJ15	図5-3	楕円形	255	100	68	-	-	甕	甕	接口	S1° W	+2	-		
SJ16	図5-3	-	96+	65+	32	32	11	甕	甕	接口	S22° E	+1	-		
SJ17	図5-3	楕円形	199	120	58	-	-	甕	甕	接口	N37° W	+8	○		
SJ18	図5-4	楕円形	196	122	82	76	41	甕	甕	接口	S73° E	+3	○		
SJ19	図5-4	-	89+	33+	38	-	-	甕	甕	接口	N18° W	?	-		
SJ20	図5-4	-	248	67+	181	-	-	甕	甕	接口	S22° E	+4	○		
SJ21	図5-4	楕円形	(229)	103	79	-	-	甕	甕	接口	S73° W	+3	-		
SJ22	図5-4	-	(102)	(46)	(48)	-	-	甕	甕	接口	N81° W	+1	-		
SJ23	図5-5	-	(223)	(148)	91	-	-	鉢	甕	接口	N69° W	(+12)	-		
SJ24	図5-5	-	186+	(113)	69	-	-	甕	甕	接口	N63° E	-7	-		
SJ25	図5-5	楕円形	92	60	24	-	-	甕	甕	接口	S72° E	+0	-		
SJ26	図5-5	楕円形	119+	71+	-	45	27	甕	甕	接口	S48° E	+11			
SJ27	図5-5	楕円形	109	52+	30	-	-	甕	甕	接口	S72° E	+14	-		
SJ28	図5-5	楕円形	159+	88+	71+	-	-	甕	甕	接口	S79° E	+27	-		
SJ29	図5-6	楕円形	(191)	117	64	-	-	鉢	甕	接口	N77° E	+3	-		
SJ30	図5-6	-	134+	65+	54	-	-	鉢	甕	接口	N85° W	(+6)	-		
SJ31	図5-6	-	100+	62	44+	-	-	甕	甕	接口	S44° E	-	-		
SJ32	図5-6	-	43+	37+	-	-	-	蓋	甕	接口?	S74° W	+16	-		
SJ33	図5-6	楕円形	(161)	127	75	-	-	鉢	甕	接口	N76° E	+19	-		
SJ34	図5-6	楕円形	173	89	105	-	-	鉢	甕	接口	N75° W	+1	○		
SJ35	図5-7	隅丸長方形	191	83	41	-	-	甕	甕	接口	N83° E	+3	○		
SJ36	図5-7	楕円形	224	140	36	72	72	鉢	甕	接口	N42° E	+31	○		
SJ37	図5-7	楕円形	(114)	65	36	-	-	甕	甕	接口	N73° W	+7	-		
SJ38	図5-7	楕円形	103	56	39	-	-	甕	甕	接口	N87° E	+24	-		
SJ39	図5-7	楕円形	90+	79+	53	-	-	甕	甕	接口	S73° E	+32	-		

表5-1 神山遺跡 甕棺墓一覽表

遺構番号	挿図番号	1次墓壙				2次墓壙		甕棺形式		棺の埋置		人骨	備考	
		形態	長	幅	深	深	奥行	器種		合口 形態	主軸方位			角度
								上	下					
SJ40	図5-8	楕円形	208	(108)	80	-	-	甕	甕	挿入?	S77° E	+3	-	上甕打欠き
SJ41	図5-8	楕円形	192	120	63	-	-	甕	甕	接口?	S84° E	+17	-	上下甕打欠き
SJ42	図5-8	楕円形	81	62	18	29	10	甕	甕	接口	S64° E	+33	-	
SJ43	図5-8	楕円形	120	59	27	-	-	甕	甕	接口	N3° E	+11	-	
SJ44	図5-8	-	112+	123+	82+	-	-	甕	甕	接口	S62° E	+38	-	
SJ45	図5-8	楕円形	84	57	23	-	-	甕	甕	接口	S62° W	+40	-	
SJ46	図5-8	-	71+	61+	-	21	33	甕	甕	-	S19° W	+30	-	
SJ47	図5-8	-	75+	100+	48+	35	15	鉢	甕	接口	N1° W	+24	-	
SJ48	図5-9	楕円形	159	99	46	63	60	甕	甕	接口	S32° W	+28	-	
SJ49	図5-9	楕円形	130	88	34	-	-	甕	甕	接口?	S1° E	-13	-	
欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SJ51	図5-9	楕円形	(161)	135	58	-	-	鉢	甕	接口?	S33° W	+53	-	
SJ52	図5-9	楕円形	89	76	20	29	14	甕	甕	接口	S45° E	+20	-	
欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SJ54	図5-9	楕円形	237	140	100	78	41	鉢	甕	接口	S4° W	+27	○	
SJ55	図5-10	楕円形	144	121	-	43	17	甕	甕	接口	S50° E	+26	-	
SJ56	図5-10	楕円形	105	87	37	-	-	鉢	甕	接口	S51° W	+40	-	
SJ57	図5-10	楕円形	85	51	12	-	-	甕	甕	接口	S42° E	+29	-	
SJ58	図5-10	楕円形	125	75	36	-	-	甕	甕	接口	N31° W	+14	-	
SJ59	図5-10	楕円形	119	61	21	-	-	甕	甕	接口	S13° E	+4	-	
SJ60	図5-10	楕円形	(291)	(151)	75	-	-	鉢	甕	接口	S71° E	(-5)	○	
SJ61	図5-11	円形	139	140	50	59	23	鉢	甕	接口	N77° E	+44	-	
SJ62	図5-11	-	173+	72+	-	-	-	甕	甕	接口	N52° W	+5	-	
SJ63	図5-11	楕円形	98	61	21	-	-	甕	甕	接口	N42° W	-3	-	
SJ64	図5-11	-	175+	124+	87	-	-	鉢	甕	接口	-	-2	-	
SJ65	図5-11	-	121+	88+	76	-	-	甕	甕	接口	S50° E	+1	-	
SJ66	図5-11	楕円形	166	112	62	-	-	鉢	甕	接口	S36° E	-	-	
SJ67	図5-12	楕円形	95	79	18	-	-	甕	甕	接口	S35° E	+13	-	
SJ68	図5-12	楕円形	139+	73	21	-	-	甕	甕	接口	S33° E	+5	-	
SJ69	図5-12	-	42+	28+	-	-	-	甕	-	S63° E	-	-	-	
SJ70	図5-12	-	132+	90+	67	-	-	甕	甕	接口	S40° E	+24	-	
SJ71	図5-12	楕円形	239+	109	47	51	36	甕	甕	接口	S21° E	+12	○	
SJ72	図5-12	楕円形	112	66	25	-	-	甕	甕	接口	S80° E	+1	-	
SJ73	図5-12	楕円形	103	64	18	-	-	甕	甕	接口	S73° E	+10	-	
SJ74	図5-12	楕円形	96	54	25	-	-	甕	甕	接口	N67° W	+3	-	
SJ75	図5-12	楕円形	145	120	81	-	-	甕	甕	接口	S56° E	+16	○	上甕に穿孔有
SJ76	図5-13	隅丸長方形	109+	85	86	-	-	甕	甕	接口	N86° W	+12	-	
SJ77	図5-13	楕円形	127	84	34	-	-	甕	甕	接口?	N15° W	(+17)	-	
SJ78	図5-13	隅丸長方形	116	(81)	41	-	-	甕	甕	接口	N60° E	+14	-	



表5-1 神山遺跡 甕棺墓一覽表

遺構番号	挿図番号	1次墓壙				2次墓壙		甕棺形式			棺の埋置		人骨	備考
		形態	長	幅	深	深	奥行	器種		合口 形態	主軸方位	角度		
								上	下					
SJ79	図5-13	-	72+	60+	58	-	-	-	甕	-	W90° E	+17	-	
SJ80	図5-13	楕円形	139+	96	73	-	-	甕	甕	覆口?	S77° E	+41	-	下甕打欠き
SJ81	図5-13	楕円形	240	142	106	-	-	甕	甕	接口	S32° W	+28	○	上甕打欠き
SJ82	図5-13	-	119+	90+	68	-	-	蓋	甕	接口	-	+33	-	
SJ83	図5-14	楕円形	(148)	(99)	46	-	-	甕	甕	接口	S32° E	(+16)	-	
SJ84	図5-14	楕円形	81	(65)	68	-	-	甕	甕	接口	S2° W	+21	-	
SJ85	図5-14	-	71	(77)	-	28	11	-	甕	-	S25° W	+27	-	
SJ86	図5-14	-	282+	153+	71	-	-	鉢	甕	接口	S56° W	+8	-	
欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SJ88	図5-14	楕円形	94	61	42	-	-	甕	甕	接口	N89° W	+1	-	
SJ89	図5-14	楕円形	125	85	53	-	-	甕	甕	接口	N87° W	+5	-	
SJ90	図5-14	-	235	(95)	49	-	-	甕	甕	接口	S14° W	+8	○	
SJ91	図5-15	-	126+	70+	-	-	-	鉢	甕	接口	N69° E	+14	-	
SJ92	図5-15	-	(160)	(105)	32	36	16	甕	甕	接口	S17° E	(+5)	-	
SJ93	図5-15	楕円形	201+	121	64	-	-	甕	甕	接口	S55° E	+1	○	
SJ94	図5-15	楕円形	247	(135)	130	-	-	鉢	甕	接口	S7° W	+5	○	
SJ95	図5-15	隅丸円形	88	97	47	53	29	甕	甕	接口	S9° E	+22	-	
SJ96	図5-15	隅丸円形	117	94	10	55	42	甕	甕	接口	S73° E	0	-	
SJ97	図5-16	楕円形	145+	103	43	-	-	鉢	甕	接口	S13° W	0	-	
SJ98	図5-16	楕円形	90	74	28	76	40	甕	甕	接口?	S69° E	+36	○	下甕打欠き
SJ99	図5-16	楕円形	167+	115	62	-	-	鉢	甕	接口	N76° E	+5	-	
SJ100	図5-16	-	63+	101+	101+	92	78	鉢	甕	接口	S27° W	+26	○	
SJ101	図5-16	楕円形	97	60	60	34	25	甕	甕	接口	S17° E	+21	-	
SJ102	-	-	-	-	-	-	-	甕	甕	接口	-	-	-	

表5-2 神山遺跡出土人骨の分析調査一覽表

遺構番号	残存状態			性別	年齢(詳細年齢)
	頭部	上肢	下肢		
SJ09				不明	幼児~小児
SJ13		x		不明	成人(不明)
SJ14				男性	成人(熟年)
SJ17				男性	成人(熟年)
SJ18				女性	成人(熟年)
SJ20				男性	成人(熟年)
SJ26		x		不明	成人(不明)
SJ34	x	x		男性	成人(不明)
SJ35				男性	成人(熟年)
SJ36				男性	成人(熟年)
SJ54				男性	成人(壮年初期)
SJ60				女性	成人(不明)
SJ62	x	x		男性	成人(不明)
SJ71		x		女性	成人(不明)
SJ75		x	x	不明	幼児
SJ81	x	x		男性	成人(不明)
SJ90		x		女性	成人(壮年)
SJ93		x	x	女性	成人(壮年)
SJ94		x		女性	成人(熟年~老年)
SJ98		x		女性	成人(熟年)
SJ100				女性	成人(熟年)

(注) [残存状態 : 比較的良好 : 残存 : 少量残存 x : 欠損]

表5-3 神山遺跡出土人骨の性別・年齢構成(体)一覽表

性別	未成人骨		成人骨				合計
	幼小児	成年	壮年	熟年	老年	不明	
男性	-	0	1	5	0	3	9
女性	-	0	2	3	1	2	8
不明	2	0	0	0	0	2	4
合計	2	0	3	8	1	7	21

(表5-2・3は、長崎大学大学院医歯学総合研究科分部哲秋氏の分析データを使用)

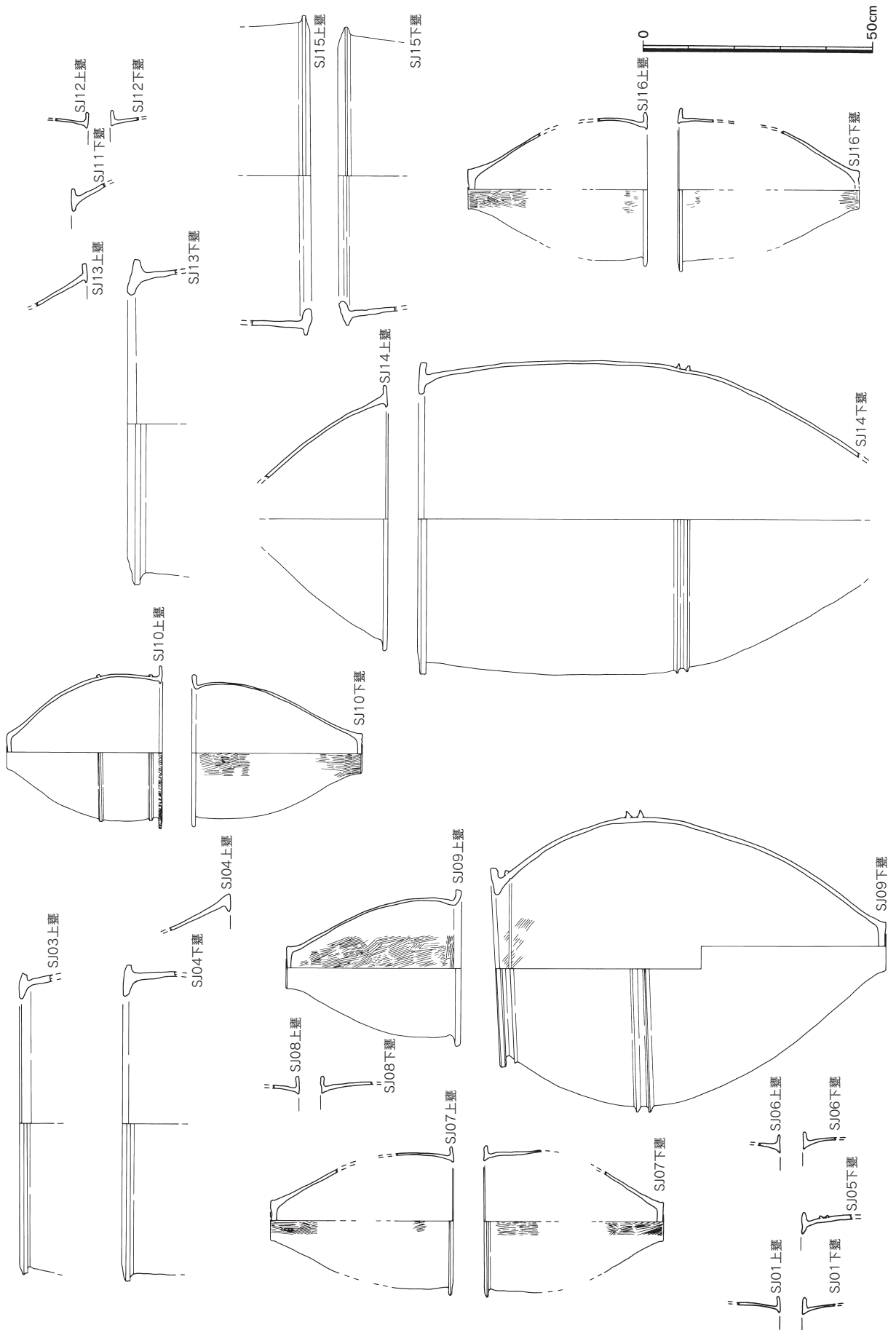


图5-17 神山遺跡出土甕棺 1 (1/12)

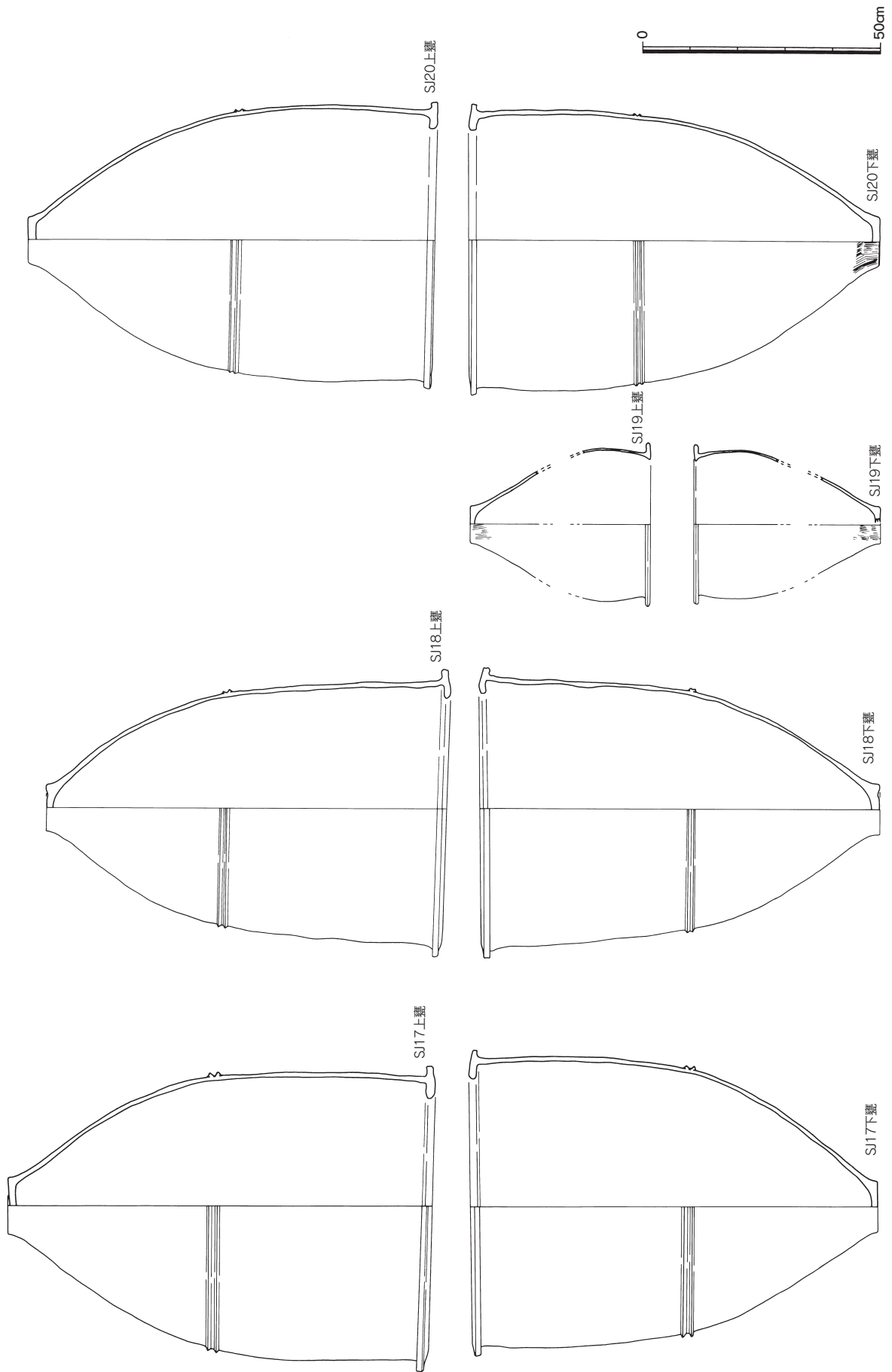


図5-18 神山遺跡出土甕棺2(1/12)

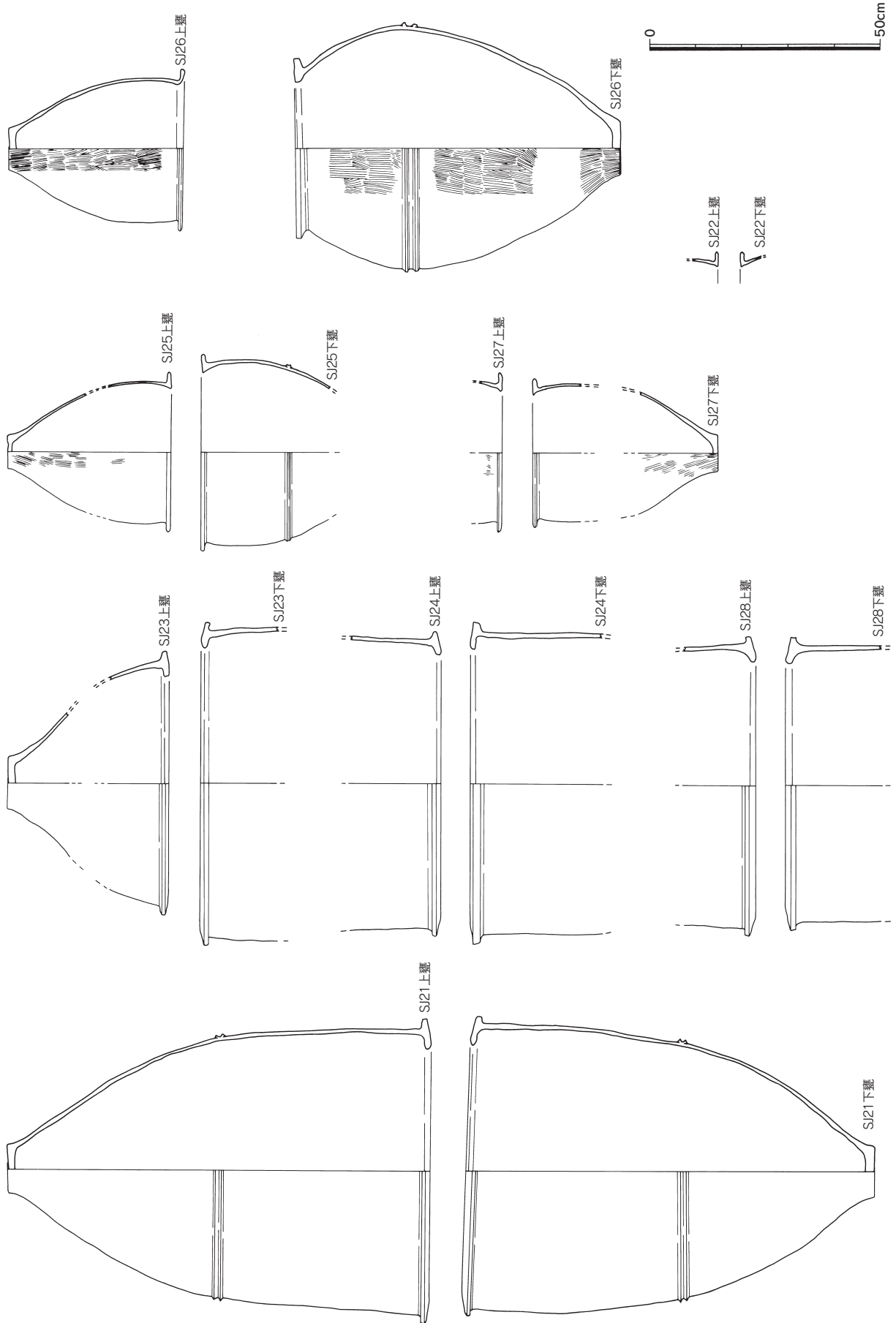


图5-19 神山遺跡出土甕棺3(1/12)

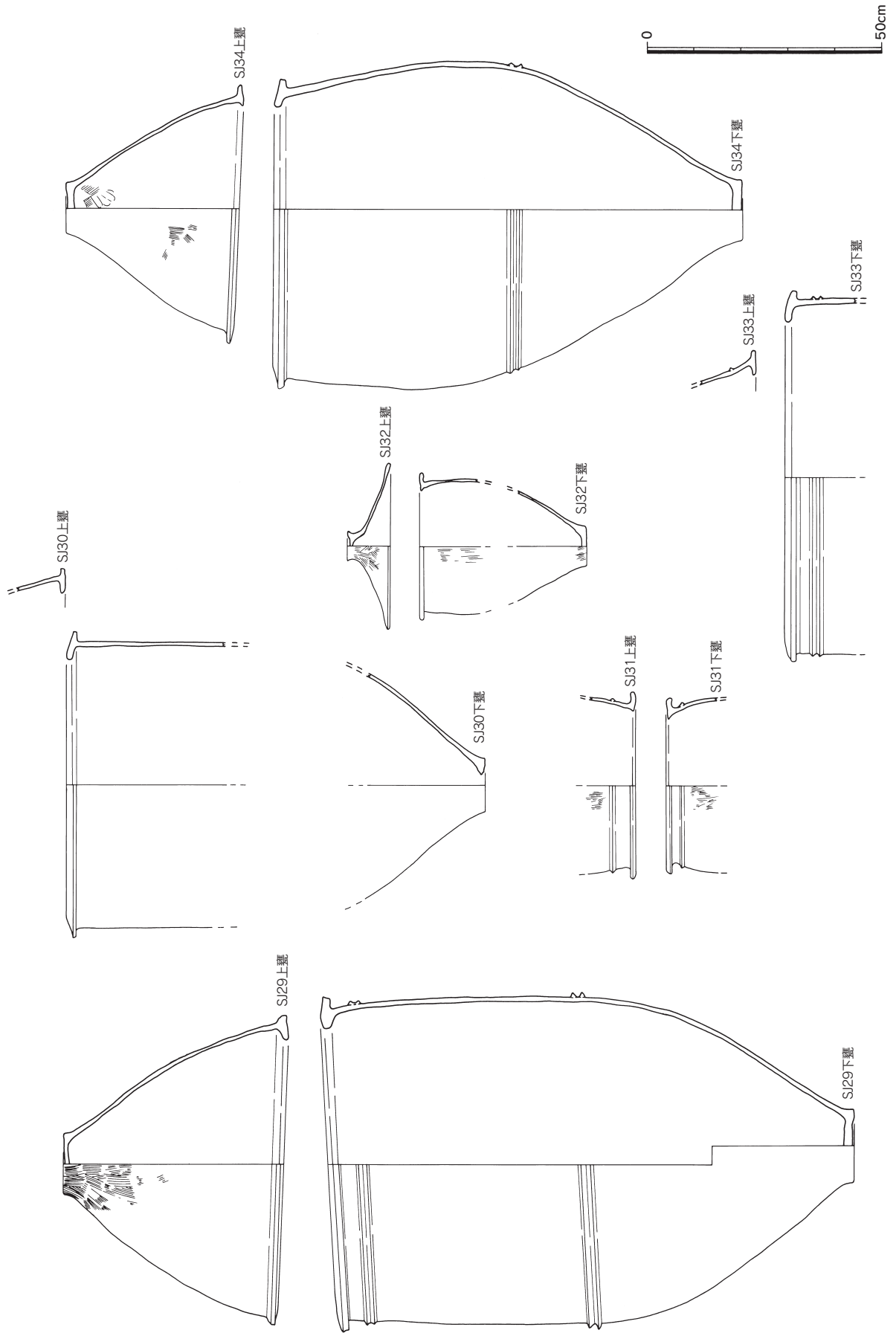


図5-20 神山遺跡出土甕棺4 (1/12)

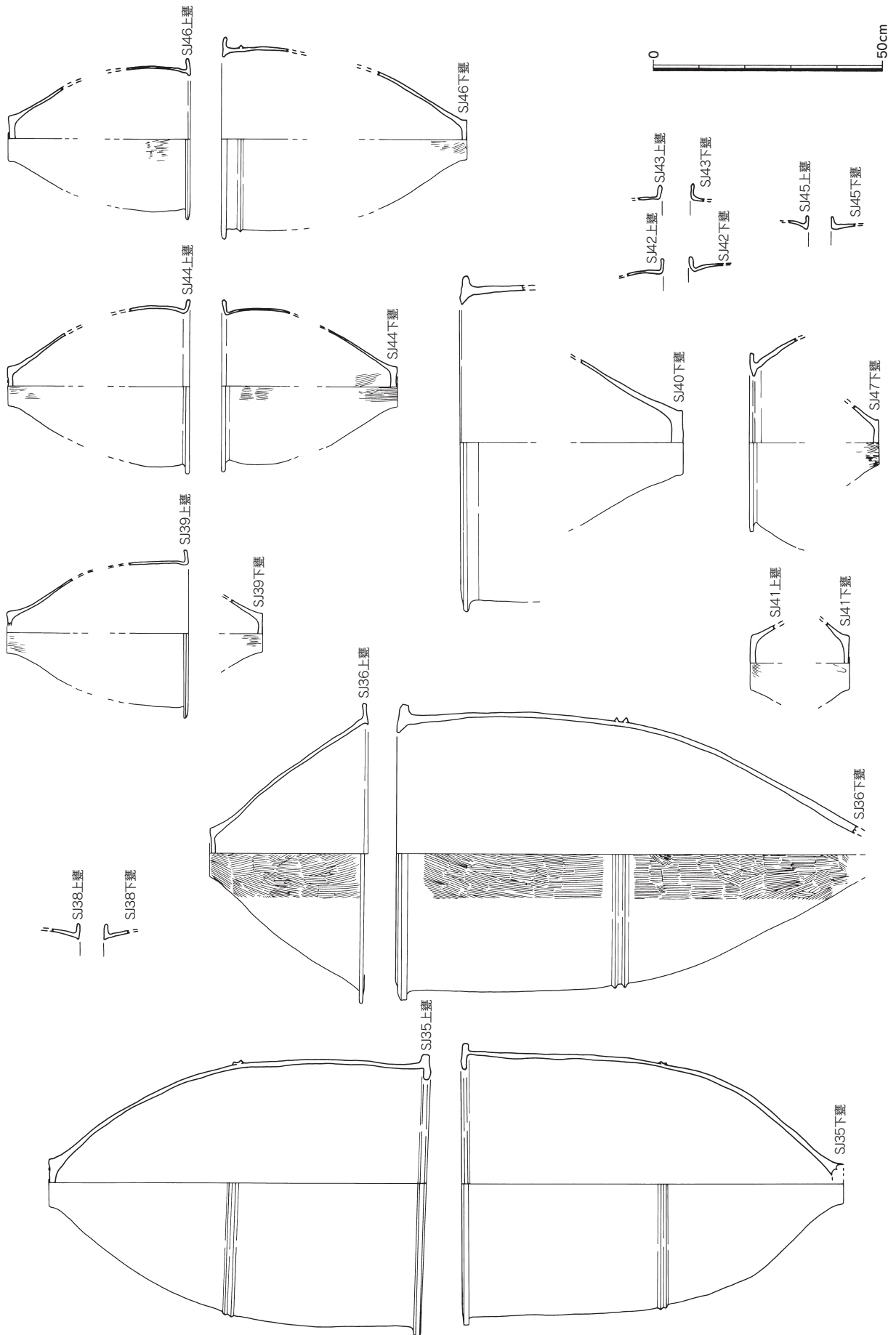


图5-21 神山遺跡出土壘棺5 (1/12)

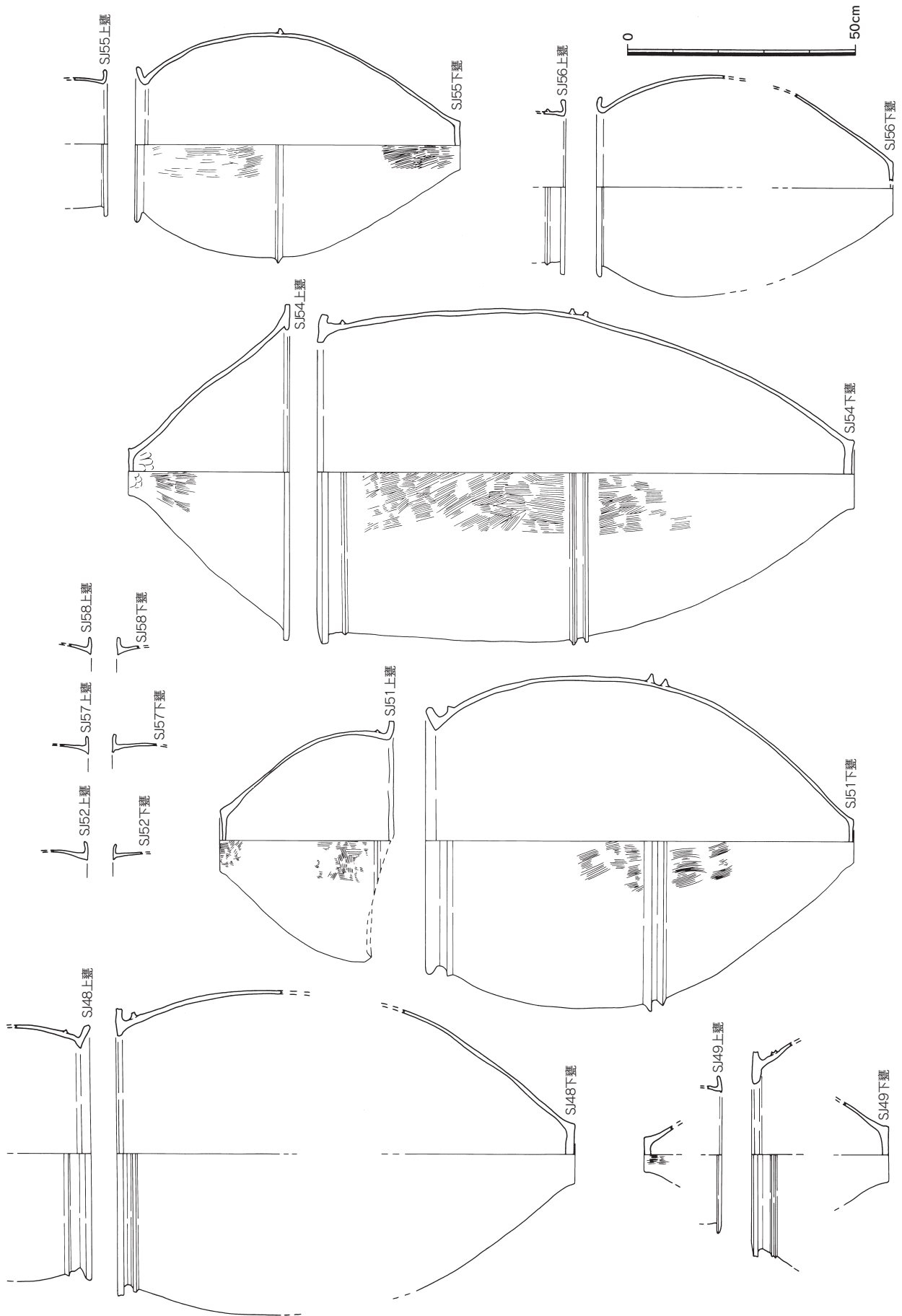


図5-22 神山遺跡出土土甕棺6 (1/12)

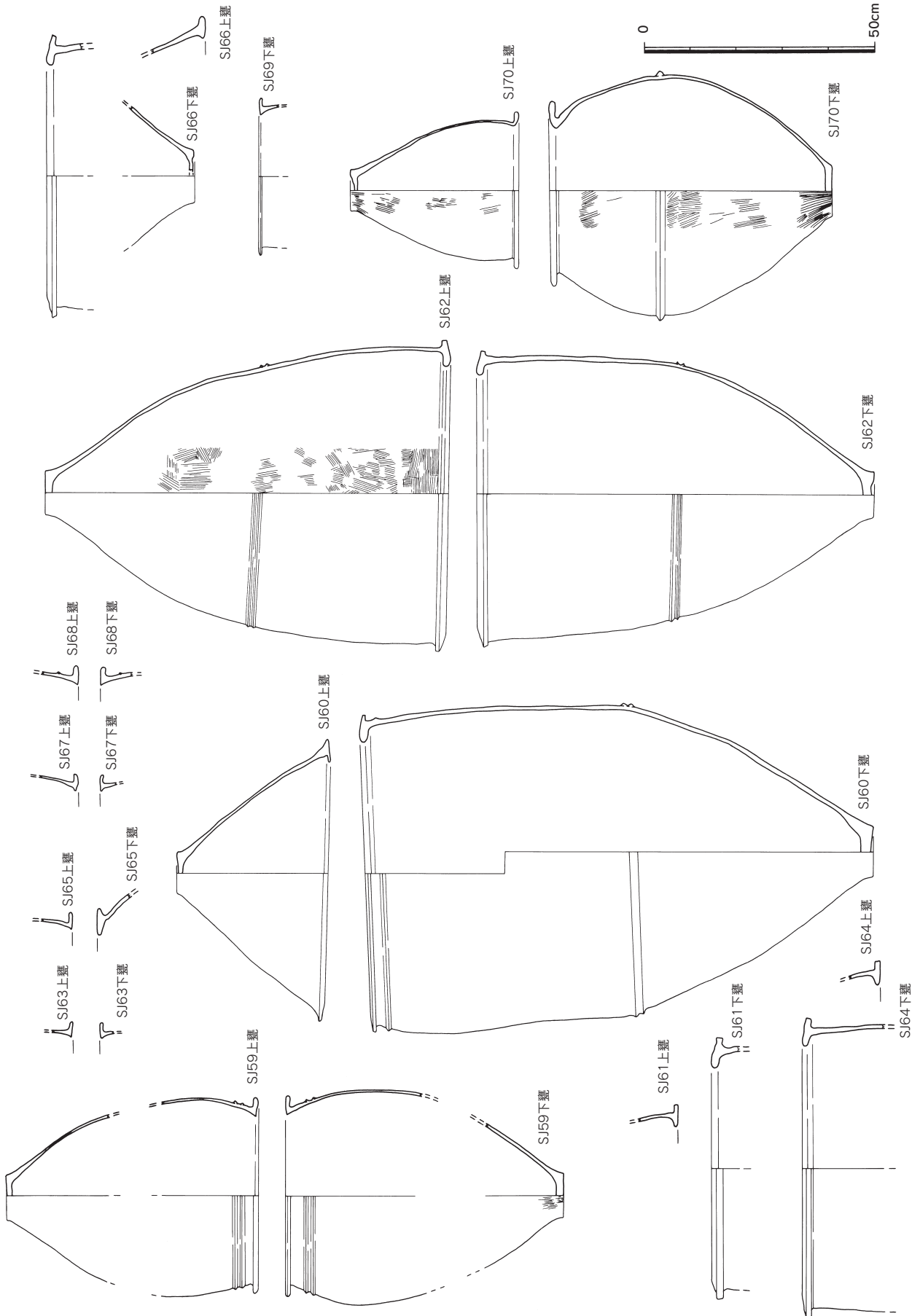


图5-23 神山遺跡出土甕棺 7 (1/12)



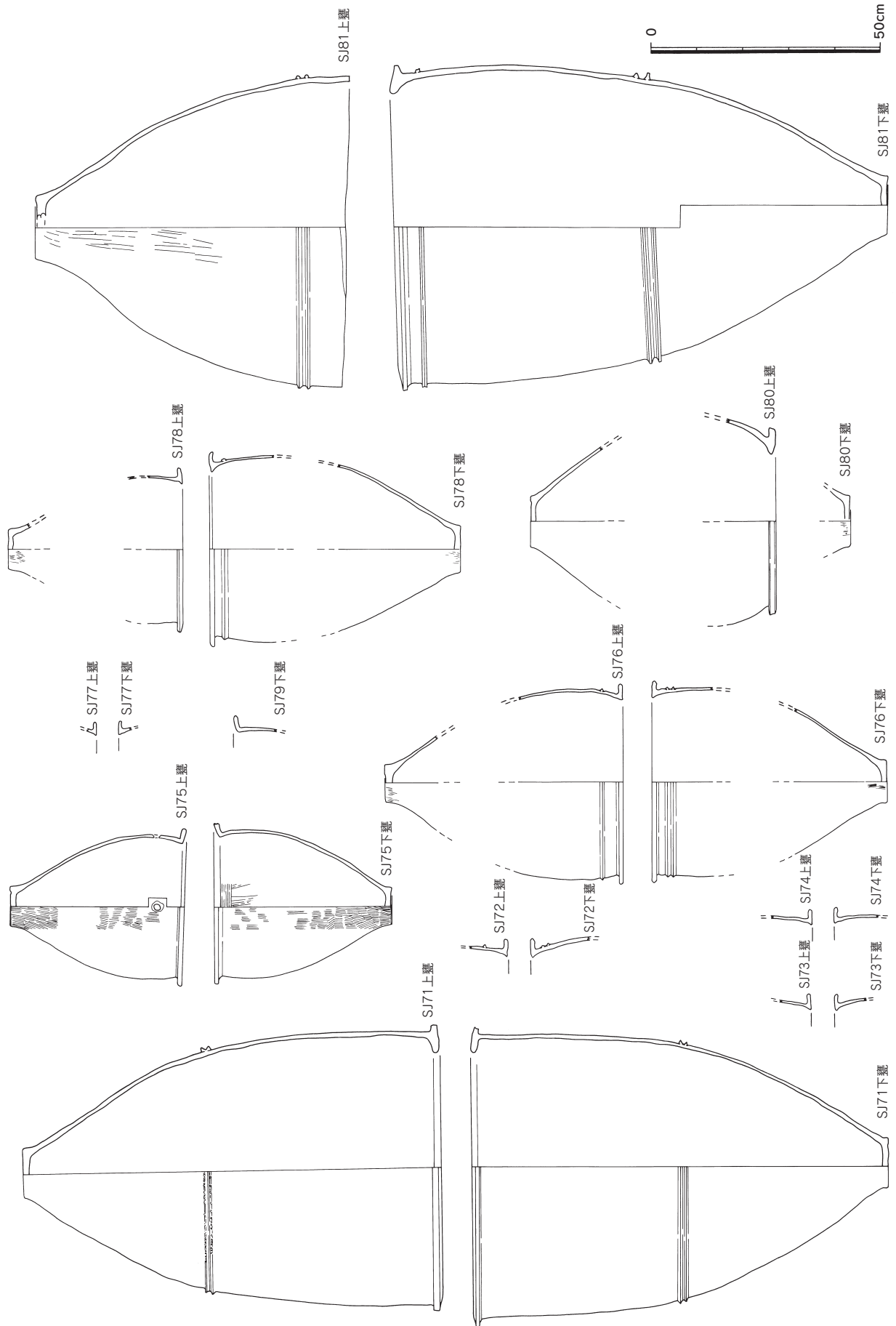


図5-24 神山遺跡出土土甕棺8 (1/12)

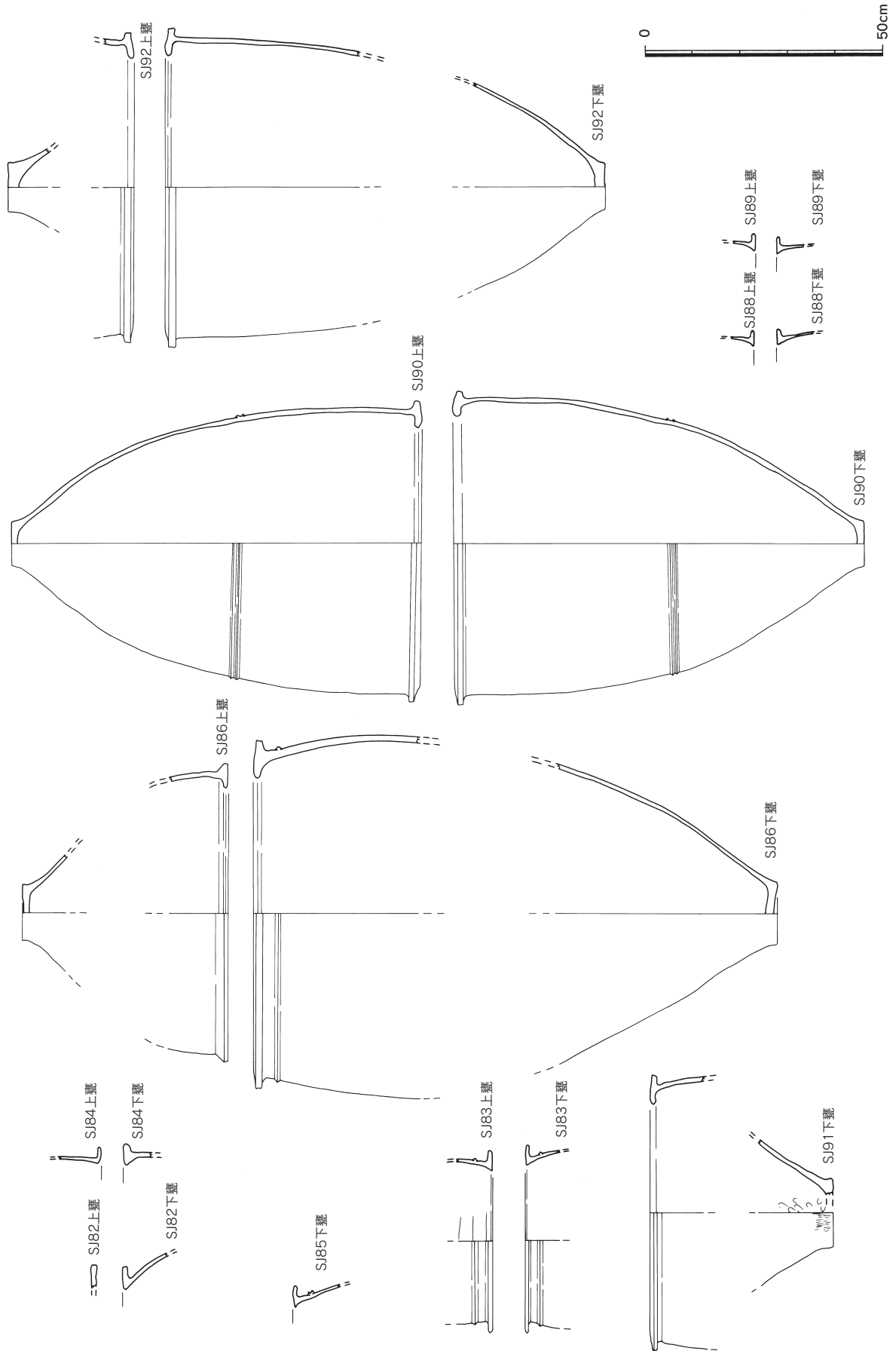


图5-25 神山遺跡出土甕棺9 (1/12)

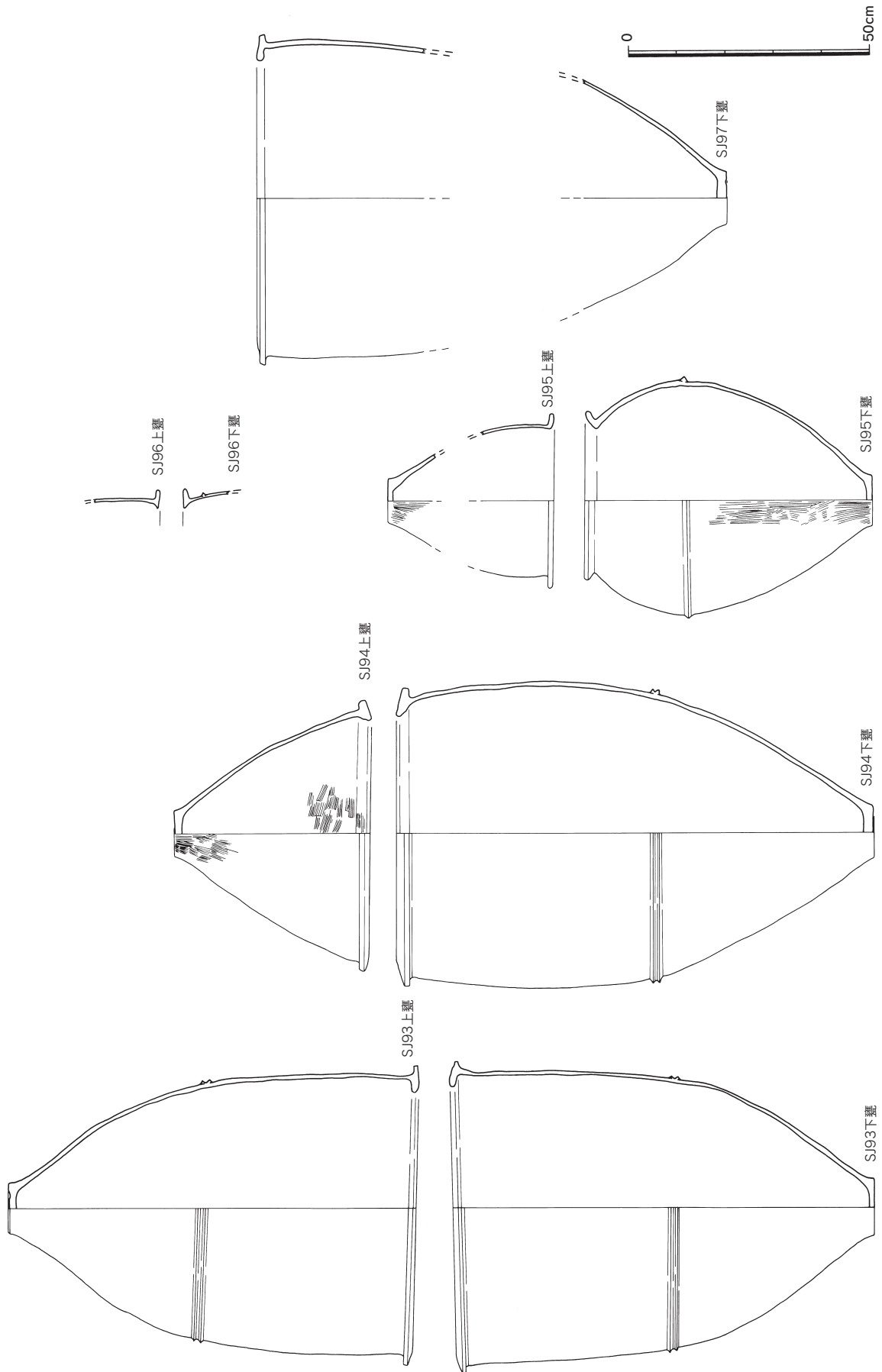


図5-26 神山遺跡出土甕棺10 (1/12)

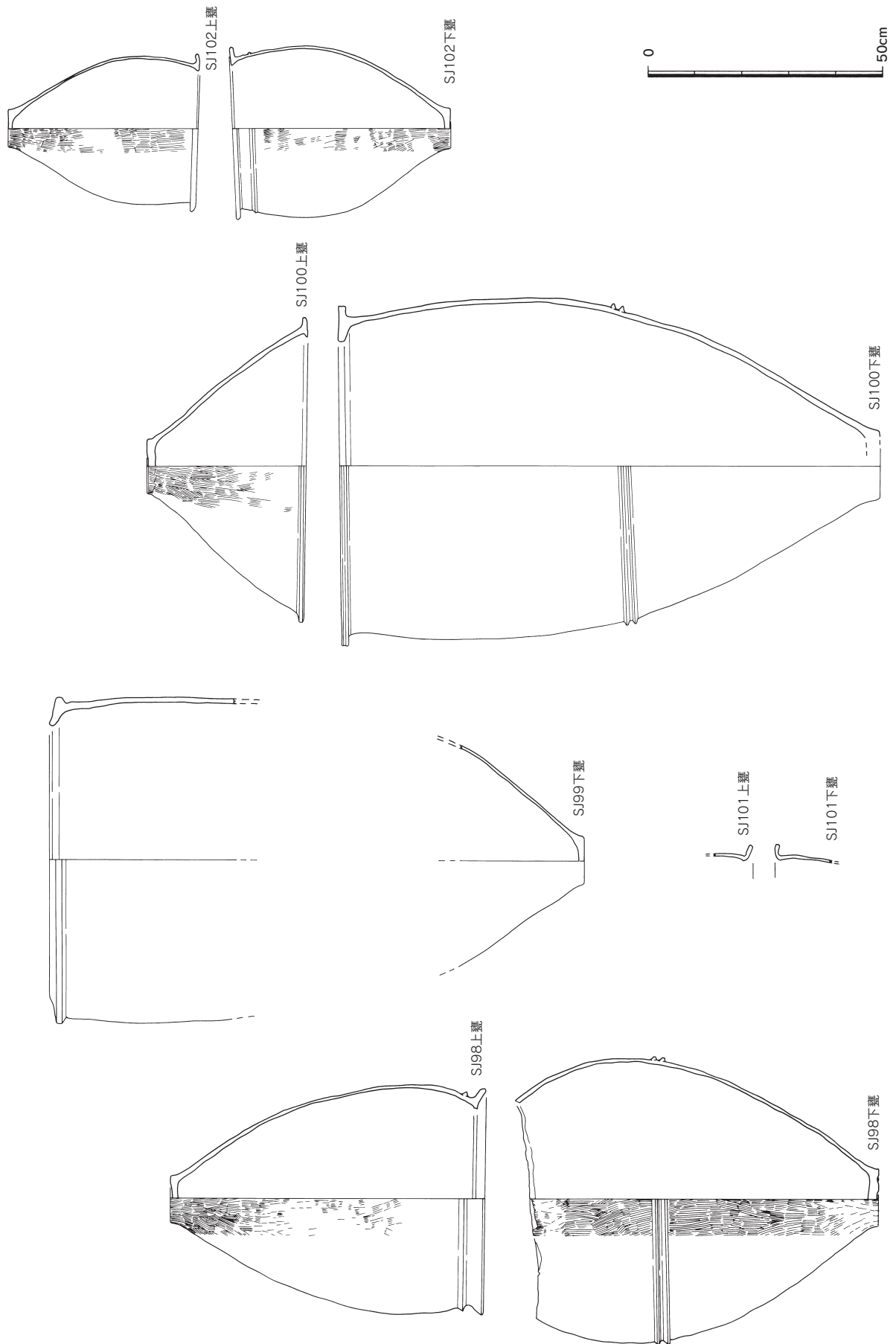


图5-27 神山遺跡出土甕棺11 (1/12)

表5-4 神山遺跡 甕棺観察表

遺構番号	器種	寸法		規模	凸帯		胎土		備考	
		器高 胴最大径	口径 底径		口縁下	胴下	色調	砂粒		
SJ01	上	甕	-	(33.0)	小型	-	-	明黄褐	小砂粒	
	下	甕	-	(32.0)	小型	-	-	明黄褐	小砂粒	
SJ02	下	甕	(36.0)	(41.0)	小型	-	-	明黄褐	小砂粒	
SJ03	上	甕	-	(70.4)	大型	-	-	橙	2mm以下	
	下	甕	-	(65.0)	大型	-	1条	橙	2mm以下	
SJ04	上	鉢	(39.6)	(68.0)	-	-	-	橙	5mm以下	
	下	甕	(118.0)	(68.0)	大型	-	2条(56.0)	橙	3mm以下	
SJ05	下	甕	-	(46.0)	小型	2条3.5	-	浅黄橙	3mm以下	
SJ06	上	甕	37.0	(35.4)	小型	-	-	明黄橙	2mm以下	
	下	甕	(40.0)	(37.2)	小型	-	-	明黄橙	2mm以下	
SJ07	上	甕	(39.8)	(32.0)	小型	-	-	橙	3mm以下	
	下	甕	(39.0)	(33.0)	小型	-	-	橙	3mm以下	
SJ08	上	甕	34.4	(38.0)	小型	-	-	浅黄橙	小砂粒	
	下	甕	(37.0)	(38.8)	小型	-	-	浅黄橙	小砂粒	
SJ09	上	甕	37.2	(33.0)	小型	-	-	浅黄橙	3mm以下	
	下	甕	85.9	44.0	大型	1条3.2	2条30.8	橙	8mm以下	
SJ10	上	甕	34.1	35.4	小型	1条2.0	1条20.7	橙	1mm以下	口縁部刻み有。外面丹塗
	下	甕	36.6	32.8	小型	-	-	にぶい橙	1~2mm	
SJ11	下	甕	-	(35.2)	小型	-	1条(32.8)	明黄橙	3mm以下	
SJ12	上	甕	34.6	(32.4)	小型	-	-	にぶい黄橙	2mm以下	
	下	甕	(38.0)	(34.0)	小型	-	-	浅黄橙	2mm以下 雲母有	
SJ13	上	鉢	-	(57.0)	-	-	-	明黄褐	4mm以下	
	下	甕	-	(70.0)	大型	-	2条	浅黄橙	4mm以下	
SJ14	上	鉢	26.9	58.7	-	-	-	にぶい黄橙	2mm以下	
	下	甕	96.0	68.6	大型	-	2条	浅黄橙	2mm以下 雲母有	
SJ15	上	甕	86.0	64.0	大型	-	2条	赤褐	3mm以下	
	下	甕	(89.0)	68.6	大型	-	2条	赤褐	5mm以下	
SJ16	上	甕	(39.0)	(33.0)	小型	-	-	浅黄橙	2mm以下	内面：黒塗
	下	甕	(39.8)	(35.0)	小型	-	-	橙	5mm以下	
SJ17	上	甕	89.8	65.6	大型	-	2条44.8	にぶい橙	5mm以下	
	下	甕	85.8	65.4	大型	-	2条40.8	浅黄橙	4mm以下	
SJ18	上	甕	85.0	61.4	大型	-	2条39.2	にぶい橙	6mm以下	
	下	甕	84.4	62.0	大型	-	2条40.2	にぶい橙	8mm以下	
SJ19	上	甕	-	(34.0)	小型	-	-	浅黄橙	3mm以下	
	下	甕	-	(33.0)	小型	-	-	明黄褐	5mm以下	
SJ20	上	甕	86.0	61.2	大型	-	2条45.6	浅黄橙	1~3mm	
	下	甕	86.6	62.0	大型	-	2条52.0	にぶい橙	1~3mm	
SJ21	上	甕	91.8	67.0	大型	-	2条46.1	にぶい橙	6mm以下	
	下	甕	88.6	65.6	大型	-	2条43.2	にぶい橙	小砂粒	

表5-4 神山遺跡 甕棺観察表

遺構番号	器種	寸法		規模	凸帯		胎土		備考	
		器高 胴最大径	口径 底径		口縁下	胴下	色調	砂粒		
SJ22	上	甕	(40.0) -	(34.0) 8.0	小型	-	-	明黄褐	5mm以下	内面：黒塗
	下	甕	(37.4) -	(32.0) 7.8	小型	-	-	明黄褐	4mm以下	内面：黒塗
SJ23	上	鉢	-	(56.4) 11.2	-	-	-	橙	5mm以下	
	下	甕	-	(69.6) 12.0	大型	-	-	橙	2mm以下	
SJ24	上	甕	(89.0) -	65.0 11.0	大型	-	1条(58.0)	橙	7mm以下	
	下	甕	76.0 -	(69.0) 10.2	大型	-	1条	橙	5mm以下	
SJ25	上	甕	(34.0) -	(32.0) 7.0	小型	-	-	にぶい黄橙	2mm以下	
	下	甕	37.2 (37.0)	(42.0) -	小型	-	2条	にぶい黄橙	6mm以下	
SJ26	上	甕	38.7 31.4	35.1 9.1	小型	-	-	橙	7mm以下	口縁工具痕有
	下	甕	70.8 53.4	39.3 11.6	大型	-	2条47.3	明赤褐	3mm以下	下甕胴張りタイプ
SJ27	上	甕	-	(34.0) -	小型	-	-	明黄褐	3mm以下	
	下	甕	(40.0) -	(32.0) 7.8	小型	-	-	明黄褐	1mm以下 雲母有	
SJ28	上	甕	(90.6) -	(64.0) 10.5	大型	-	2条(52.0)	黄橙	小砂粒	
	下	甕	61.4 -	63.6 10.6	大型	-	2条	黄橙	5mm以下	
SJ29	上	鉢	47.6 -	67.1 13.2	-	-	-	浅黄橙	5mm以下	
	下	甕	113.3 70.8	72.2 16.0	大型	2条6.2	2条60.4	明黄褐	1~3mm	
SJ30	上	鉢	-	60.0 -	-	-	2条	橙	3mm以下	
	下	甕	-	64.0 11.0	大型	-	2条	黄橙	2mm以下	
SJ31	上	甕	-	39.4 -	小型	1条4.3	-	黄橙	5mm以下	
	下	甕	-	37.0 -	小型	1条3.4	-	黄橙	2mm以下	
SJ32	上	蓋	-	6.0 -	-	-	-	黄橙	2mm以下	
	下	甕	-	(31.0) 8.0	小型	-	-	黄橙	2mm以下	
SJ33	上	鉢	(38.2) -	(70.0) 11.4	-	1条5.5	-	橙	4mm以下	底部の貼り付け有
	下	甕	(112.0) -	(78.0) (12.0)	大型	2条(3.2)	2条(48.4)	浅橙	5mm以下	内面：黒塗
SJ34	上	鉢	38.0 -	55.6 10.8	-	-	-	黄橙	1mm以下	
	下	甕	100.2 70.0	66.6 13.0	大型	-	2条50.4	外面：橙 内面：にぶい橙	3mm以下	
SJ35	上	甕	83.5 59.0	62.2 10.5	大型	-	2条42.7	にぶい橙	4mm以下	
	下	甕	83.9 57.2	62.2 (8.4)	大型	-	2条40.4	にぶい橙	-	内面：黒塗。底部欠損
SJ36	上	鉢	35.0 -	66.3 11.0	-	-	-	にぶい橙	2mm以下	
	下	甕	(100.3) 61.4	65.1 -	大型	-	2条	にぶい橙	微砂粒	外面：化粧土
SJ37	上	甕	(41.0) -	(7.0) -	小型	-	-	黄橙	2mm以下	
	下	甕	(49.5) -	(9.0) -	小型	-	-	黄橙	2mm以下	
SJ38	上	甕	-	(30.0) -	小型	-	-	黄橙	3mm以下	
	下	甕	(39.5) -	(35.0) 7.4	小型	-	-	明黄褐	2mm以下	内面：黒塗
SJ39	上	甕	-	36.0 9.0	小型	-	-	黄橙	小砂粒	
	下	甕	(36.0) -	8.4 -	小型	-	-	黄橙	小砂粒	
SJ40	上	甕	38.0 -	13.0 -	大型?	-	2条	浅黄橙	小砂粒	
	下	甕	(123.0) -	(72.6) 14.0	大型	-	2条	黄橙	2mm以下	
SJ41	上	甕	-	11.6 -	大型	-	2条	浅黄橙	3mm以下	
	下	甕	72.5 -	11.7 -	大型	-	2条(52.6)	淡黄橙	小砂粒	黒雲母有

表5-4 神山遺跡 甕棺観察表

遺構番号	器種	寸法		規模	凸帯		胎土		備考	
		器高 胴最大径	口径 底径		口縁下	胴下	色調	砂粒		
SJ42	上	甕	36.2 (28.8)	(31.6) 8.4	小型	-	-	明黄橙	小砂粒	
	下	甕	(39.0) (27.0)	(34.4) 8.8	小型	-	-	橙	5mm以下	
SJ43	上	甕	(39.0) -	(36.0) 8.8	小型	-	-	明黄褐	微砂粒	
	下	甕	(40.0) -	33.2 8.4	小型	-	-	黄橙	2mm以下	
SJ44	上	甕	- -	(38.0) 8.2	小型	-	-	黄橙	3mm以下	
	下	甕	(37.2) -	(36.8) 8.8	小型	-	-	橙	5mm以下	
SJ45	上	甕	- -	- 8.2	小型	-	-	橙	4mm以下	
	下	甕	- -	(34.0) 8.2	小型	-	-	浅黄橙	3mm以下	
SJ46	上	甕	- -	35.0 9.8	小型	-	-	黄橙	3mm以下	
	下	甕	(55.6) (39.0)	(43.4) 8.4	中型	1条3.5	-	黄橙	小砂粒	
SJ47	上	鉢	- -	35.8 -	-	-	-	橙	6mm以下	
	下	甕	(62.0) -	(38.4) 9.6	中型	-	2条(40.6)	橙	3mm以下	
SJ48	上	甕	- -	(55.0) 10.4	大型	1条4.0	-	橙	3mm以下	雲母有
	下	甕	(100.2) (60.0)	(62.0) 13.0	大型	1条3.0	2条(49.6)	赤橙	3mm以下	雲母有
SJ49	上	甕	- -	(34.6) 7.8	小型	-	-	浅黄橙	4mm以下	
	下	甕	- -	44.5 12.0	中型?	2条40	2条底部無	浅黄橙	微砂粒	
SJ50	欠番	-	-	-	-	-	-	-		
SJ51	上	鉢	41.7 -	57.4 14.8	-	1条3.9	-	浅黄橙	2mm以下	
	下	甕	(91.0) -	(64.6) 13.0	大型	1条(4.5)	2条(45.8)	浅黄橙	2mm以下	
SJ52	上	甕	- -	(32.4) -	小型	-	-	橙	4mm以下	
	下	甕	(39.5) -	(30.0) 9.0	小型	-	-	浅黄橙	小砂粒	
SJ53	欠番	-	-	-	-	-	-	-		
SJ54	上	鉢	35.5 -	74.5 10.4	-	-	-	明赤褐	4mm以下	
	下	甕	118.0 74.0	73.4 15.3	大型	1条4.8	2条63.2	橙	8mm以下	
SJ55	上	甕	23.6 -	(32.0) -	小型	-	-	浅黄橙	6mm以下	
	下	甕	(71.0) -	(33.6) 10.5	大型	-	1条	橙	3mm以下	下甕胴張りタイプ
SJ56	上	鉢	- -	(38.4) 12.5	小型	1条4.0	-	浅黄橙	小砂粒	
	下	甕	(65.5) (47.6)	(38.8) 11.6	大型	-	2条	黄橙	小砂粒	
SJ57	上	甕	- -	(30.8) 8.2	小型	-	-	にぶい黄橙	小砂粒	
	下	甕	- -	(32.6) 8.0	小型	-	-	黄橙	2mm以下	
SJ58	上	甕	- -	(35.2) 8.0	小型	-	-	明黄褐	2mm以下	
	下	甕	(38.0) -	(32.4) 8.0	小型	-	-	明黄褐	3mm以下	
SJ59	上	甕	(54.6) -	42.6 10.2	中型	2条3.0	-	明黄褐	4mm以下	(内径28.0)
	下	甕	(60.6) -	(43.0) 9.3	中型	2条4.2	-	浅黄橙	3mm以下	
SJ60	上	鉢	33.6 -	62.2 9.3	-	-	-	にぶい橙	2mm以下	
	下	甕	111.7 70.8	69.6 11.0	大型	1条2.9	2条55.2	にぶい橙	4mm以下	
SJ61	上	鉢	(42.8) -	(52.6) 11.8	-	-	-	橙	3mm以下	
	下	甕	107.6 -	(56.0) 13.0	大型	-	2条(57.0)	明黄褐	小砂粒	
SJ62	上	甕	88.3 65.2	68.5 9.6	大型	-	2条48.6	にぶい橙	8mm以下	内面：化粧土後、黒塗
	下	甕	86.9 62.0	65.1 10.3	大型	-	2条44.8	にぶい橙	1~2mm	内面：化粧土後、黒塗

表5-4 神山遺跡 甕棺観察表

遺構番号	器種	寸法		規模	凸帯		胎土		備考	
		器高 胴最大径	口径 底径		口縁下	胴下	色調	砂粒		
SJ63	上	甕	(37.8) -	(31.0) 7.0	小型	-	-	赤褐	3mm以下	
	下	甕	(36.2) -	(34.0) 7.0	小型	-	-	赤褐	3mm以下	
SJ64	上	鉢	(40.6) -	62.0 11.2	-	-	-	橙	6mm以下	
	下	甕	(95.2) -	(64.0) 10.8	大型	-	2条(45.0)	黄橙	5mm以下	
SJ65	上	甕	(36.2) -	(32.0) 8.0	小型	-	-	明黄褐	5mm以下	
	下	甕	(66.6) -	(36.0) 10.8	大型	-	1条(43.2)	明黄褐	3mm以下	下甕胴張りタイプ
SJ66	上	鉢	-	(62.0) 12.0	-	-	-	黄橙	6mm以下	
	下	甕	107.0 -	(60.4) 11.4	大型	-	2条(49.6)	淡黄	3mm以下	
SJ67	上	甕	-	(28.0) 8.0	小型	-	-	黄橙	4mm以下	
	下	甕	(39.0) -	(33.0) 7.8	小型	-	-	黄橙	3mm以下	
SJ68	上	甕	(45.4) -	(37.0) 8.6	小型	1条4.1	-	黄橙	6mm以下	
	下	甕	(45.0) -	(34.0) 9.6	小型	1条4.5	-	橙	6mm以下	
SJ69	下	甕	-	(33.6) 8.4	小型	-	-	黄橙	3mm以下	
SJ70	上	甕	-	8.6	小型	-	-	橙	2mm以下	
	下	甕	(68.2) -	38.4 11.0	大型	-	1条	橙	4mm以下	下甕胴張りタイプ
SJ71	上	甕	91.3 60.8	63.0 11.0	大型	-	2条(41.8)	浅黄橙	1~3mm	
	下	甕	91.2 62.4	66.3 11.0	大型	-	2条(45.8)	橙	1~5mm	内面：黒塗
SJ72	上	甕	45.2 -	(40.0) 9.0	小型	1条	-	明黄褐	小砂粒	
	下	甕	(60.0) -	(39.4) 9.4	中型	2条2.3	-	明黄褐	微砂粒	
SJ73	上	甕	(40.0) -	(33.2) 7.6	小型	-	-	淡黄橙	微砂粒	
	下	甕	(38.0) -	(33.2) 7.8	小型	-	-	淡黄橙	微砂粒	
SJ74	上	甕	(35.6) -	(32.0) 7.8	小型	-	-	浅黄橙	2mm以下	
	下	甕	(35.2) -	(33.0) 7.4	小型	-	-	浅黄橙	2mm以下	
SJ75	上	甕	37.5 31.0	34.0 8.8	小型	-	-	橙	2mm以下	外面：底部黒斑有。化粧土部分的残
	下	甕	37.8 32.1	34.6 8.0	小型	-	-	橙	2mm以下	
SJ76	上	甕	(51.6) -	(42.0) 8.0	中型	1条4.5	-	明褐	5mm以下	
	下	甕	-	(43.0) (9.0)	中型?	2条3.2	-	黄褐	5mm以下	
SJ77	上	甕	-	8.2	小型	-	-	浅黄橙	2mm以下	
	下	甕	(39.6) -	8.4	小型	-	-	浅黄橙	2mm以下	内面：黒塗
SJ78	上	甕	54.0 -	(35.2) 8.4	中型	-	-	浅黄橙	5mm以下	
	下	甕	(55.4) -	42.0 10.2	中型	1条3.0	-	浅黄橙	5mm以下	
SJ79	下	甕	(38.0) -	(37.2) 9.0	小型	-	-	黄橙	5mm以下	
SJ80	上	甕	55.2 -	44.0 11.0	中型	1条	-	橙	粗砂粒	
	下	甕	88.0 -	11.2	大型	-	2条	黄橙	小砂粒	口縁打欠き。下甕胴張り
SJ81	上	甕	69.0 -	14.3	大型	-	2条60.0	にぶい橙	5mm以下	
	下	甕	108.5 70.0	71.4 12.6	大型	1条4.4	2条55.8	橙	5mm以下	
SJ82	上	蓋	14.0 -	6.7	-	-	-	明黄褐	4mm以下	
	下	甕	(60.2) -	33.5 11.2	中型	-	1条(37.8)	橙	2mm以下	下甕胴張りタイプ
SJ83	上	甕	-	37.6 9.0	小型	1条3.0	-	黄橙	2mm以下	
	下	甕	-	38.8 9.0	小型	1条2.8	-	黄橙	5mm以下	



表5-4 神山遺跡 甕棺観察表

遺構番号	器種	寸法		規模	凸帯		胎土		備考	
		器高 胴最大径	口径 底径		口縁下	胴下	色調	砂粒		
SJ84	上	甕	(35.2) -	(34.6) 9.2	小型	-	-	明赤褐	4mm以下	
	下	甕	(39.8) -	- 9.0	小型	-	-	明赤褐	2mm以下	
SJ85	下	甕	60.0 -	(50.0) 10.0	中型	2条3.2	-	黄橙	小砂粒	
SJ86	上	鉢	42.0 -	(62.0) 11.2	-	-	-	明黄褐	7mm以下	
	下	甕	(109.6) -	72.0 13.0	大型	-	2条	明黄褐	5mm以下	内面：黒塗
SJ87	欠番	-	-	-	-	-	-	-	-	
SJ88	上	甕	31.4 -	(29.6) 7.4	小型	-	-	黄橙	4mm以下	内面：黒塗
	下	甕	34.5 -	(32.0) 8.2	小型	-	-	黄橙	4mm以下	内面：黒塗
SJ89	上	甕	(36.4) -	31.0 8.0	小型	-	-	黄橙	3mm以下	
	下	甕	(39.0) -	31.0 7.2	小型	-	-	橙	3mm以下	
SJ90	上	甕	86.2 62.6	64.1 9.4	大型	-	2条49.2	にぶい赤褐	2mm以下	
	下	甕	87.0 63.0	66.8 9.6	大型	-	2条42.2	にぶい赤褐	2mm大多	内面：黒塗
SJ91	上	鉢	- -	- 14.8	-	-	-	-	-	
	下	甕	- -	(59.2) (14.4)	大型	-	2条	黄橙	-	
SJ92	上	甕	- -	(64.0) 10.5	大型	-	2条	橙	6mm以下	
	下	甕	- -	(66.0) 9.5	大型	-	1条(52.0)	赤褐	3mm以下	
SJ93	上	甕	85.5 59.2	63.0 10.0	大型	-	2条42.2	にぶい橙	3mm以下	
	下	甕	87.6 61.3	65.5 11.9	大型	-	2条42.5	にぶい橙	10mm以下	内面：黒塗
SJ94	上	鉢	41.2 -	56.9 9.8	-	-	-	橙	5mm以下	内外面：化粧土残
	下	甕	99.5 64.4	62.5 11.2	大型	-	2条46.8	にぶい橙	4mm以下	
SJ95	上	甕	(33.4) -	36.0 9.0	小型	-	-	橙	2mm以下	
	下	甕	(55.0) -	(31.6) 10.2	中型	-	1条(42.2)	明黄褐	3mm以下	下甕胴張りタイプ
SJ96	上	甕	(36.2) -	(32.0) 7.4	小型	-	-	にぶい橙	5mm以下	
	下	甕	(46.0) -	(39.0) 8.4	小型	1条4.0	-	にぶい橙	5mm以下	
SJ97	上	鉢	(38.0) -	(60.0) 10.6	-	-	-	橙	6mm以下	
	下	甕	(97.0) -	(67.0) 10.8	大型	-	2条(44.0)	浅黄橙	3mm以下	
SJ98	上	甕	67.6 49.3	48.7 9.9	大型	1条3.6	-	-	1~3mm	内面：黒塗
	下	甕	77.7 61.2	- 12.3	大型	-	2条48.9	にぶい橙	3mm以下	内面：黒塗。口縁打欠
SJ99	上	鉢	- -	(66.0) 10.4	-	-	-	橙	5mm以下	
	下	甕	(114.8) -	(68.0) 9.6	大型	-	2条(58.2)	橙	5mm以下	
SJ100	上	鉢	44.0 -	65.5 11.8	-	-	-	にぶい黄橙	2mm以下	
	下	甕	115.2 73.2	73.0 14.8	大型	-	2条57.4	橙	3mm以下	
SJ101	上	甕	- -	(33.0) -	小型	-	-	黄橙	5mm以下	口縁部に工具痕有。幅11mm浅
	下	甕	(34.0) (31.0)	(33.0) 8.5	小型	-	-	黄橙	5mm以下	口縁部に工具痕有。幅12mm浅
SJ102	上	甕	40.0 31.1	33.3 8.0	小型	-	-	にぶい黄橙	1~2mm	
	下	甕	47.6 36.6	36.7 8.6	小型	1条3.9	-	にぶい黄橙	1~2mm	



1. 神山遺跡 全景（西から）



2. 神山遺跡 全景（南から）



1. SJ04甕棺墓 (南から)



2. SJ09甕棺墓 (東から)



3. SJ14甕棺墓出土人骨 (南から)



4. SJ18甕棺墓 (東から)



5. SJ18甕棺墓出土人骨 (東から)



6. SJ20 (左)・SJ26 (右) 甕棺墓 (西から)



7. SJ21 (右)・SJ22 (左) 甕棺墓 (西から)



8. SJ26甕棺墓 (西から)



1. SJ33甕棺墓（北から）



2. SJ35甕棺墓（南から）



3. SJ18（左）・SJ34（右下）出土人骨・SJ35（右上）甕棺墓（北から）



4. SJ20（右）・SJ36（左）甕棺墓出土人骨（西から）



5. SJ40甕棺墓（北から）



6. SJ41甕棺墓（南から）



7. SJ42甕棺墓（北から）



8. SJ43甕棺墓（東から）



1. SJ45甕棺墓 (北から)



2. SJ51 (右上)・SJ54 (右下)・SJ55 (左) 甕棺墓 (南から)



3. SJ54甕棺墓 (東から)



4. SJ55甕棺墓 (南から)



5. SJ65 (下)・SJ68 (上) 甕棺墓 (北から)



6. SJ74甕棺墓 (南から)



7. SJ75甕棺墓 (南から)



8. SJ82甕棺墓 (西から)



1. SJ85 (右)・SJ86 (左) 甕棺墓 (南から)



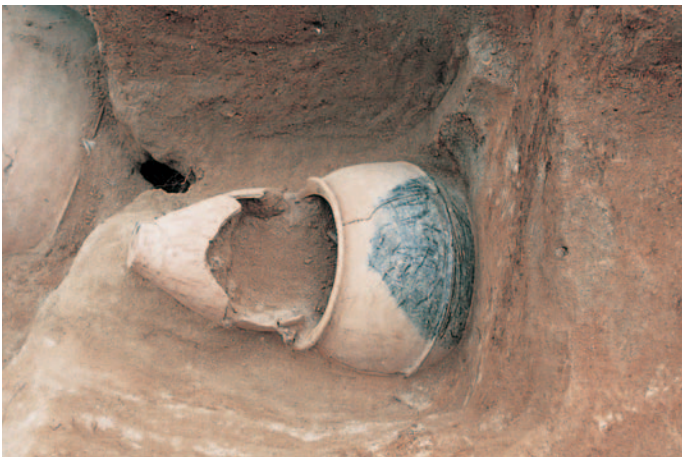
2. SJ88甕棺墓 (北から)



3. SJ89甕棺墓 (南から)



4. SJ90甕棺墓 (西から)



5. SJ95甕棺墓 (東から)



6. SJ98甕棺墓 (北から)



7. SJ100甕棺墓 (西から)



8. SJ100甕棺墓出土人骨 (北から)



1. SJ09甕棺上甕



2. SJ09甕棺下甕



3. SJ10甕棺上甕



4. SJ10甕棺下甕



5. SJ17甕棺上甕



6. SJ17甕棺下甕



7. SJ18甕棺上甕



8. SJ18甕棺下甕



9. SJ20甕棺上甕



1. SJ20甕棺下甕



2. SJ21甕棺上甕



3. SJ21甕棺下甕



4. SJ26甕棺上甕



5. SJ26甕棺下甕



6. SJ29甕棺上甕



7. SJ29甕棺下甕



8. SJ34甕棺上甕



9. SJ34甕棺下甕





1. SJ35甗上甗



2. SJ35甗下甗



3. SJ36甗上甗



4. SJ36甗下甗



5. SJ54甗上甗



6. SJ54甗下甗



7. SJ60甗上甗



8. SJ62甗上甗



9. SJ62甗下甗



1. SJ71甕棺上甕



2. SJ71甕棺下甕



3. SJ75甕棺上甕



4. SJ75甕棺下甕



5. SJ81甕棺上甕



6. SJ81甕棺下甕



7. SJ90甕棺上甕



8. SJ90甕棺下甕



9. SJ93甕棺上甕



1. SJ93甕棺下甕



2. SJ94甕棺上甕



3. SJ94甕棺下甕



4. SJ98甕棺上甕



5. SJ98甕棺下甕



6. SJ100甕棺上甕



7. SJ100甕棺下甕



8. SJ102甕棺上甕



9. SJ102甕棺下甕

## 第6章

うち内 はた畑 遺 跡

(略号MUC)

## 第6章 内畑遺跡

### 調査の概要

内畑遺跡は、鳥栖市街のほぼ中央、轟木川の左岸に位置する河岸段丘上に立地する。調査地の地番は鳥栖市元町1160で、280㎡を対象に個人住宅の建替に伴う緊急発掘調査を実施した。調査地点は標高26m前後で、平坦な宅地に造成されており、遺構配置図（図6-1）にも等高線を表示していない。西側の鳥栖小学校校庭とは現状で10m前後の段差があるが、原地形はなだらかな斜面であったとおもわれる。

遺跡は弥生時代の甕棺墓遺跡として以前から知られているが、本調査としては今回が初めてとなる。なお、過去に甕棺墓が民家の庭先で庭木の移植中に甕棺墓が見つかり、棺内から歯とともにガラス製勾玉2、小玉1,969が出土しているが、当時を知る人の話から、今回の調査地点はその甕棺墓の直ぐ西に隣接することがわかった。

調査の結果、甕棺墓16基を検出した。内訳は成人棺11基、中人棺3基、小児棺2基で、時期は中期前半、中期中頃および中期後半、後期前半の4時期にわたり、中期後半および後期前半のものが多い。1次墓墳が確認できたのは5基であとは大きく削平されていた。

甕棺墓の配置状況は、中期前半～中頃の甕棺墓は、削平されて失われているこの時期の甕棺墓を想定すると東西に帯状に伸びた、いわゆる二列埋葬の形態をとるものとみられる。一方、中期後半および後期前半の甕棺墓の配置には規則性がみられないが、限定した区域に集中して埋葬される傾向がうかがわれる。

副葬遺物が出土した甕棺は1例のみで、SJ07甕棺墓内から鞘入鉄刀子1、水晶製丸玉2、ガラス小玉16が出土している。弥生時代の水晶製品は稀少で、今回の出土が県内および筑後地域では初例となる。なお、人骨はSJ07甕棺墓およびSJ16甕棺墓の2基から検出されているものの、いずれも土壌化寸前の大腿骨片や頭蓋骨片等の残欠で、これらが成人のものである以上のことは判別できない。

調査の成果としては、中期前半～中頃の甕棺墓が検出されたことは、従来この地区の甕棺墓は中期後半以降に営まれるとみられていただけに、柚比遺跡群同様、長期かつ継続的に墓地が展開する可能性が生じることとなり、集落の消長・存在期間を考える上でも興味深い資料となった。この地域は調査事例が少ないため、墓域全体の状況は把握されていないが、今回の調査地区における甕棺墓の密度から、周辺には甕棺墓が相当数存在することが想定される。

### 甕棺について

今回調査した甕棺を型式別に配列すると、おおよそ以下のとおりとなる。

K	c（汲田式）	SJ01	SJ09		
K	a（須玖式）	SJ14	SJ12	SJ15	
K	b・c（立岩式）	SJ08	SJ06	SJ05	SJ13・SJ03
K	a・b（桜馬場式）	SJ16	SJ11	SJ02	SJ07
K	c（三津式）	SJ04	SJ10		

鳥栖地域では、現在に至るまで2,000基以上にのぼる甕棺墓が調査されているが、その大部分が市の北部に位置する柚比遺跡群とその周辺におけるもので、とりわけK（桜馬場式）以降の甕棺については、柚比遺跡群以外では今回の調査で出土したものが初出となる。これらを柚比遺跡群周辺で出土した同時期の甕棺と比較すると、口縁や底部付近の形態、口縁凸帯部の刻目（SJ07甕棺は胴部凸帯にも刻目が入る）など、あきらかに相違する点が看取される。また、口縁部が内傾し、端部に面を持つ素口縁の鉢（SJ16上甕、図6-8）など、特異な形態のものもみられる。

### SJ07甕棺墓の副葬品について

SJ07甕棺墓（K b=桜馬場式）の棺内から鞘入鉄刀子1、水晶製丸玉2、ガラス製小玉16が出土した（図6-6）。出土位置は鉄刀子については口縁内部の屈曲部から約30cm下の位置に刃部を下にしていたことが甕棺内面に錆が付着していたため確認でき（図6-3）、被葬者の頭部付近に置かれていたと推測される。

鞘入鉄刀子は、全長20.3cm、刃部長11.7cm、刃部幅0.8cm、刀身の最大厚0.3cm、柄部は長さ8.6cm、最大幅1.4cmを測る。刀身は平造である。刀身部分に漆状の黒色物質（未分析）が部分的に残る木質部が付着しており、鞘の残欠とみられる。ただし切先を覆う部分を欠失するため、鞘の全長および拵の詳細はわからない。柄部分は樹皮状の繊維質のもので丁寧に巻かれ、柄頭部分は巻き重ねて肉厚にしている。X線透視が未実施で断定できないものの、素環頭である可能性が高い。黒色物を塗布した木鞘に収められているところから、単なる工具としての刀子ではなく、むしろ儀器的な短刀として取り扱われたようである。

2点出土した水晶製丸玉は、径5～6mm、長さ5mm程で、中央部はやや丸みを持つが、穿孔部は両面とも僅かながら面をもち、ほぼ中心に片面から穿孔されている。

弥生時代の水晶製品は、北部九州では数例が確認されているにすぎず、ガラス製品とは比較にならないくらい出土数が少ないものである。現在のところ最も古いのは、高木遺跡7号土壌墓（福岡県鞍手町・中期前半）から2点出土した棗玉で、類例が朝鮮半島の楽浪区域貞柏洞206号墳等で知られている。あとは後期の所産で、対馬の木坂石棺墓遺跡（長崎県峰町・後期）の切子玉、竹ヶ本遺跡（福岡県春日市・後期）の垂飾品等がある。また、須玖唐梨遺跡（福岡県春日市・後期）では原石が出土しており、工房の存在が想定される。国内における水晶製品製作遺跡の最古例は京都府弥坂町奈具岡遺跡（中期後半）で、その他弥生時代にさかのぼる時期の製作遺跡はすべて日本海西部沿岸に立地している。高橋進一（2002）は、奈具岡遺跡の玉作技法がすでに完成した状態にあり、その後のものがむしろ退化していることや、弥生遺跡出土の水晶製品が朝鮮半島の古墳出土品に類似している点などから、水晶製品製作の背景に朝鮮半島からの技術・製品輸入を想定している。

本遺跡出土の水晶製丸玉については、上下に僅かながら面をもつところから、六角柱結晶体である水晶原石を荒割り、形割りして角柱体に作出したものを敲打により円柱状に加工し、これを丸玉1個分の方形に分割したあと穿孔し、最後に研磨して仕上げる、いわゆる奈具岡技法で製作されたものと考えられる。製作地については日本海西部沿岸に散在する玉作工房あるいは福岡県春日市周辺が考えられるが、朝鮮半島からの輸入品である可能性もあり、鉱物分析等の自然科学的調査を待たねば解明できるものではない。

あと、16点出土したガラス製小玉は、透明性のある空色で、ソーダ石灰ガラスとみられる。隣接地で以前

発見されたガラス勾玉2点に伴い11,969点出土したそれと同様のものである。

水晶製丸玉2点にガラス製小玉16点を1連にすると全長は7.0cmとなる。これらの具体的な使用の形態は出土状態から想定することはできないものの、有機質のものを加えた頸飾を構成していたものか、衣服に縫い合わせて飾りとしていたか、鞘入鉄刀子の下緒の飾り、あるいは指輪等、様々な用途が推測される。いずれにせよ、SJ07甕棺墓の被葬者は稀少品である水晶製品を入手しえる地位にいたことは確かであろう。

参考文献

橋口達也(1979)「甕棺の編年的研究」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告31 中巻 - 弥生時代墳墓編 - 』福岡県教育委員会  
 久山高史(1994)「鳥栖市内畑遺跡甕棺墓出土のガラス製頸飾」『佐賀考古』1 佐賀考古談話会  
 伊都歴史資料館(2002)「アクセサリ-としての玉 - その種類と使用方法 - 」『王のアクセサリ-』平成14年度秋季特別展図録 前原市教育委員会  
 高橋進一(2002)「水晶製玉類の製作について - 敲打整形技法を中心として - 」『環瀬戸内海の考古学 - 平井勝氏追悼論文集 - 』 古代吉備研究会

表6-1 内畑遺跡 甕棺墓一覧表

遺構番号	挿図番号	1次墓壙			2次墓壙		甕棺形式			棺の埋置		備考	
		形態	長	幅	深	深	奥行	器種	合口	主軸方位	角度		
								上	下			形態	
SJ01	図6-2	不明	削	削	削	26	194	甕	甕	接口	S16°E	-1	2次墓壙一部のみ検出
SJ02	図6-2	隅丸長方形	190	150	49	124	62	甕	甕	覆口	S2°W	+50	上甕口縁打欠き
SJ03	図6-2	不明	削	削	削	22	57	-	甕	-	N34°W	+45	2次墓壙一部のみ検出
SJ04	図6-3	隅丸長方形	213	169	75	83	29	鉢	甕	覆口	N87°W	+50	人骨片検出
SJ05	図6-3	不明	削	削	削	46	73	-	甕	-	S87°W	+47	2次墓壙のみ検出
SJ06	図6-3	隅丸方形	118+	115+	32+	84	(38)	-	甕	単	W11°N	+42	
SJ07	図6-3	隅丸方形	130+	122+	53+	113	50	-	甕	石蓋	N79°W	+41	鞘入鉄刀子・玉類副葬
SJ08	図6-3	不明	削	削	削	62+	(81)	-	甕	単	S85°E	+51	
SJ09	図6-4	不明	削	削	削	70+	47+	甕	甕	接口	S7°W	+3	
SJ10	図6-4	不明	削	削	削	73	70	-	甕	-	N72°W	(+30)	
SJ11	図6-4	楕円形	削	削	削	58	91	甕	甕	接口	S33°E	(+54)	
SJ12	図6-4	不明	削	削	削	65	(113)	鉢	甕	接口	S37°E	(+34)	
SJ13	図6-4	円形	73	72	24	-	-	-	甕	-	N41°W	(+36)	
SJ14	図6-4	不明	削	削	削	42	96+	鉢	甕	接口	N55°E	(-1)	
SJ15	図6-4	隅丸長方形	(137)	(93)	30+	72	24	鉢	甕	接口	S66°W	+39	
SJ16	図6-4	楕円形	(114)	(91)	37+	(70)	(24)	鉢	甕	接口	N66°W	(+36)	人骨片検出

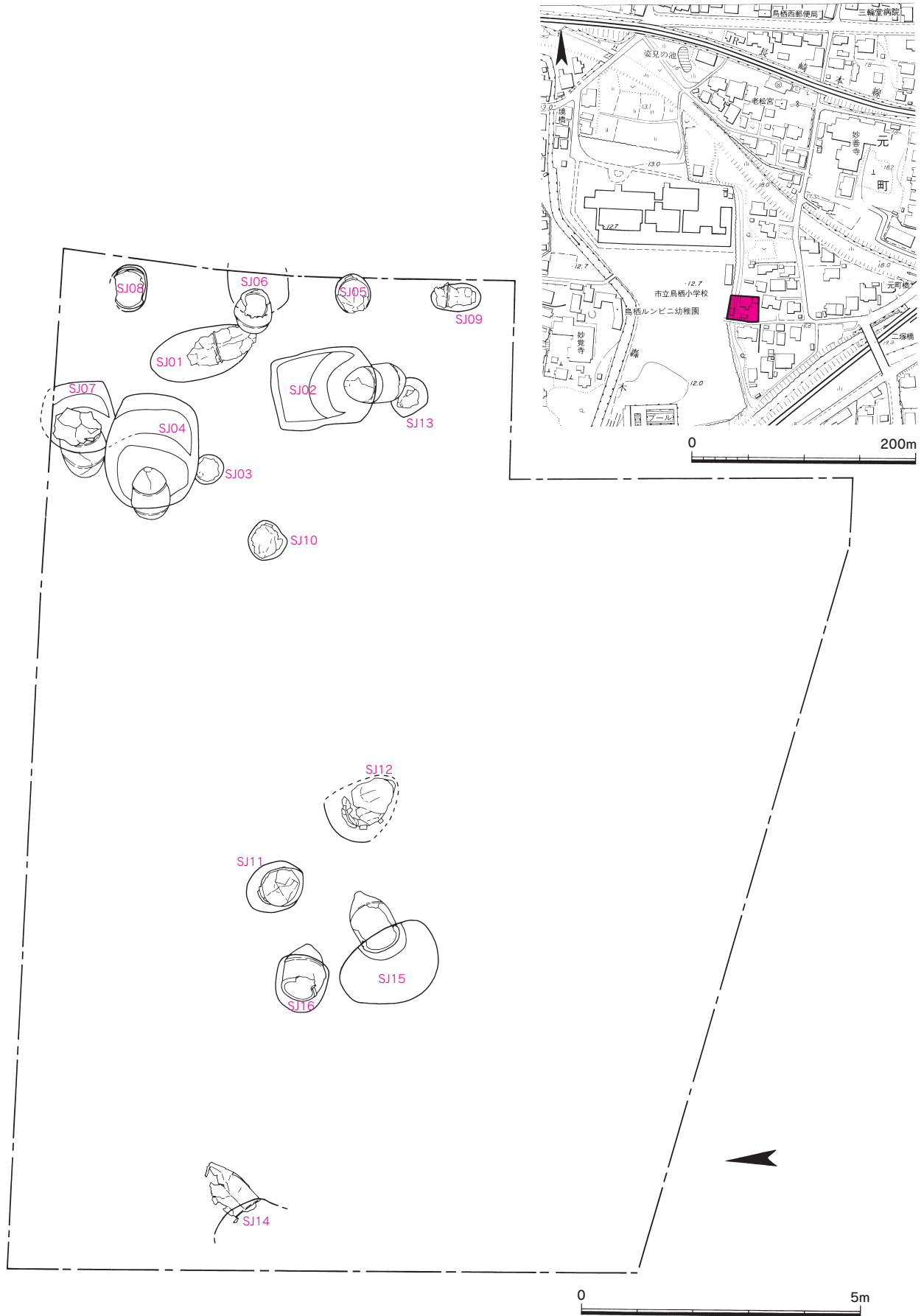


図6-1 内畑遺跡調査区位置図 (1/5,000) ・遺構配置図 (1/100)



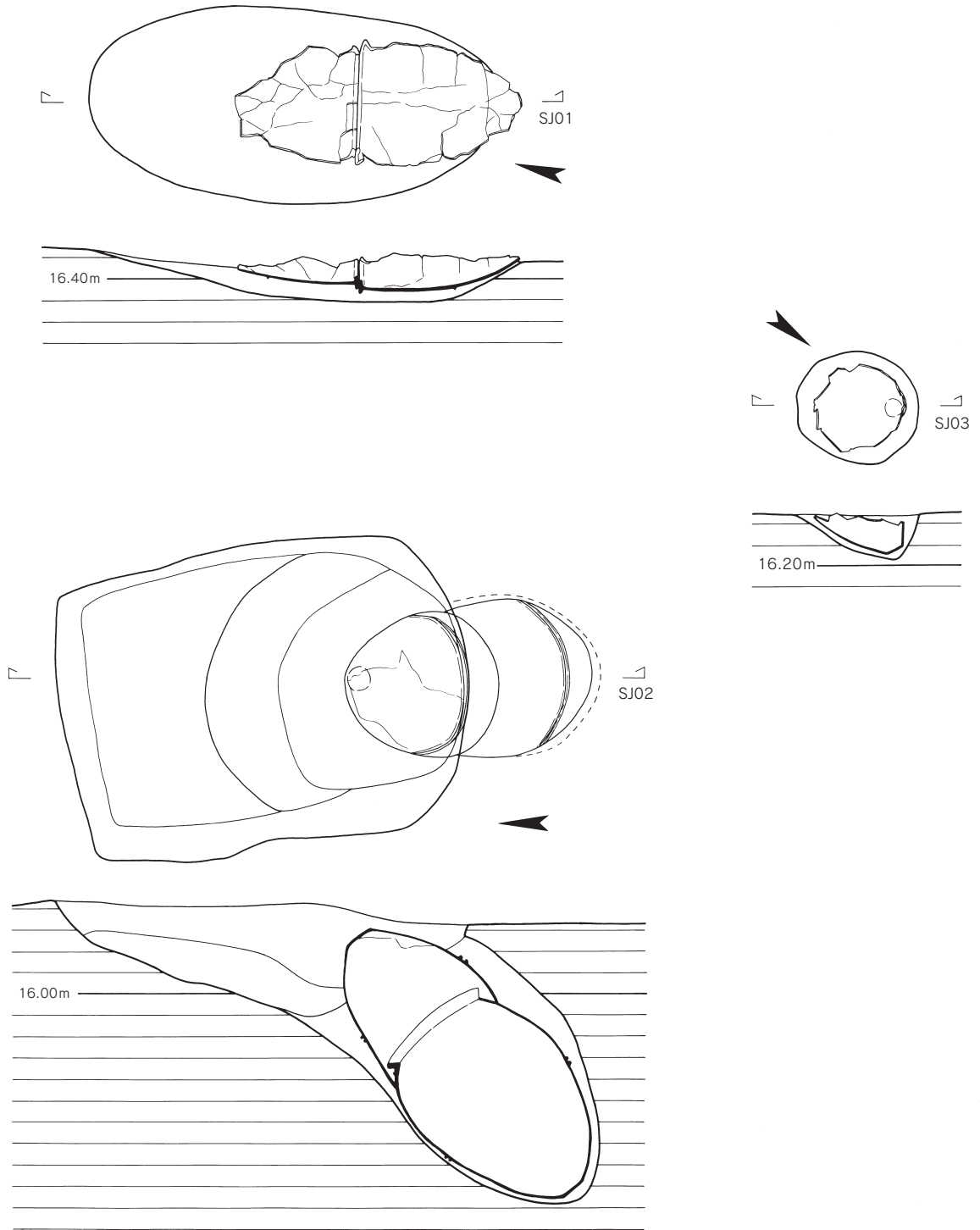


図6-2 内畑遺跡甕棺墓1 (1/30)

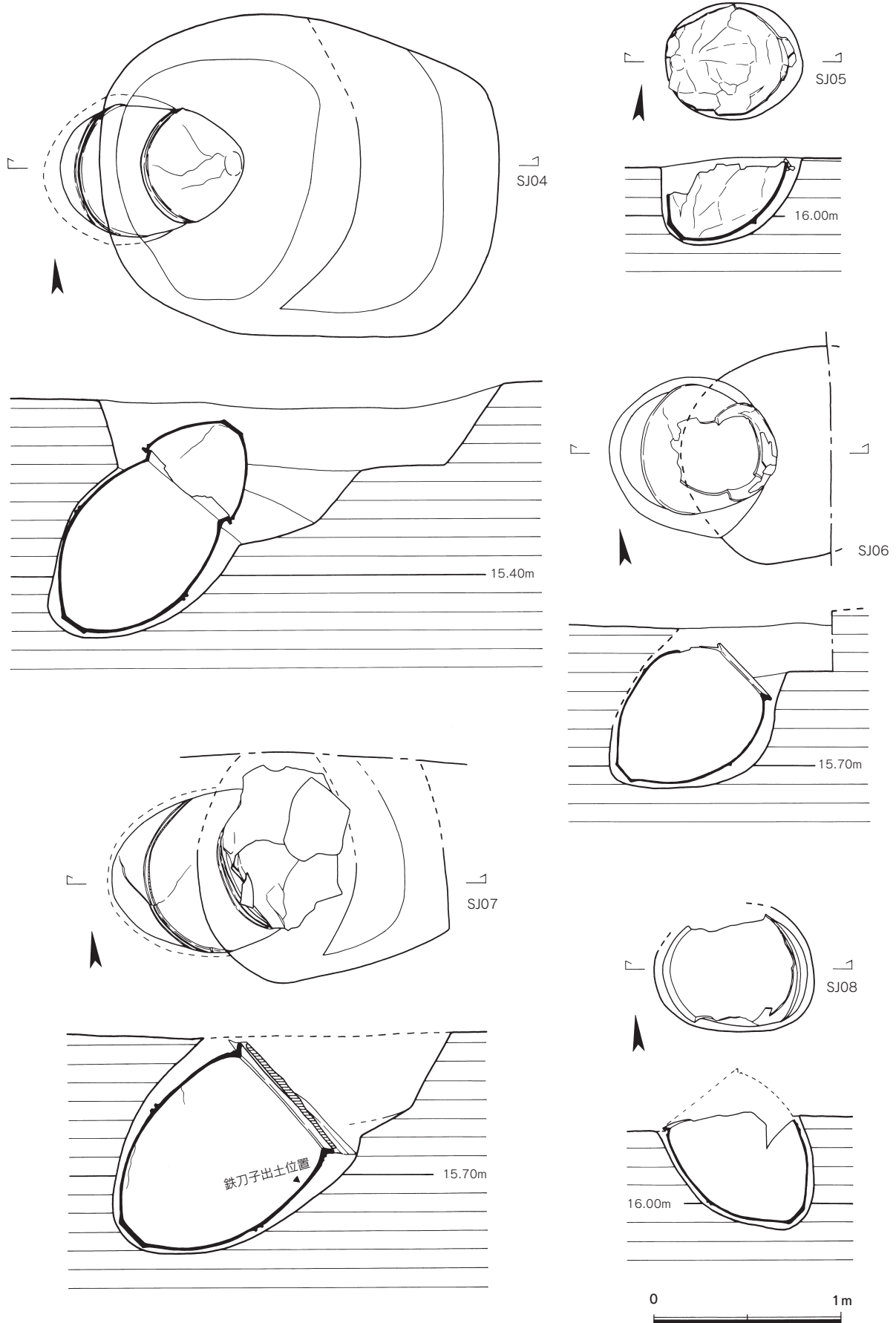


図6-3 内畑遺跡甕棺墓2 (1/30)

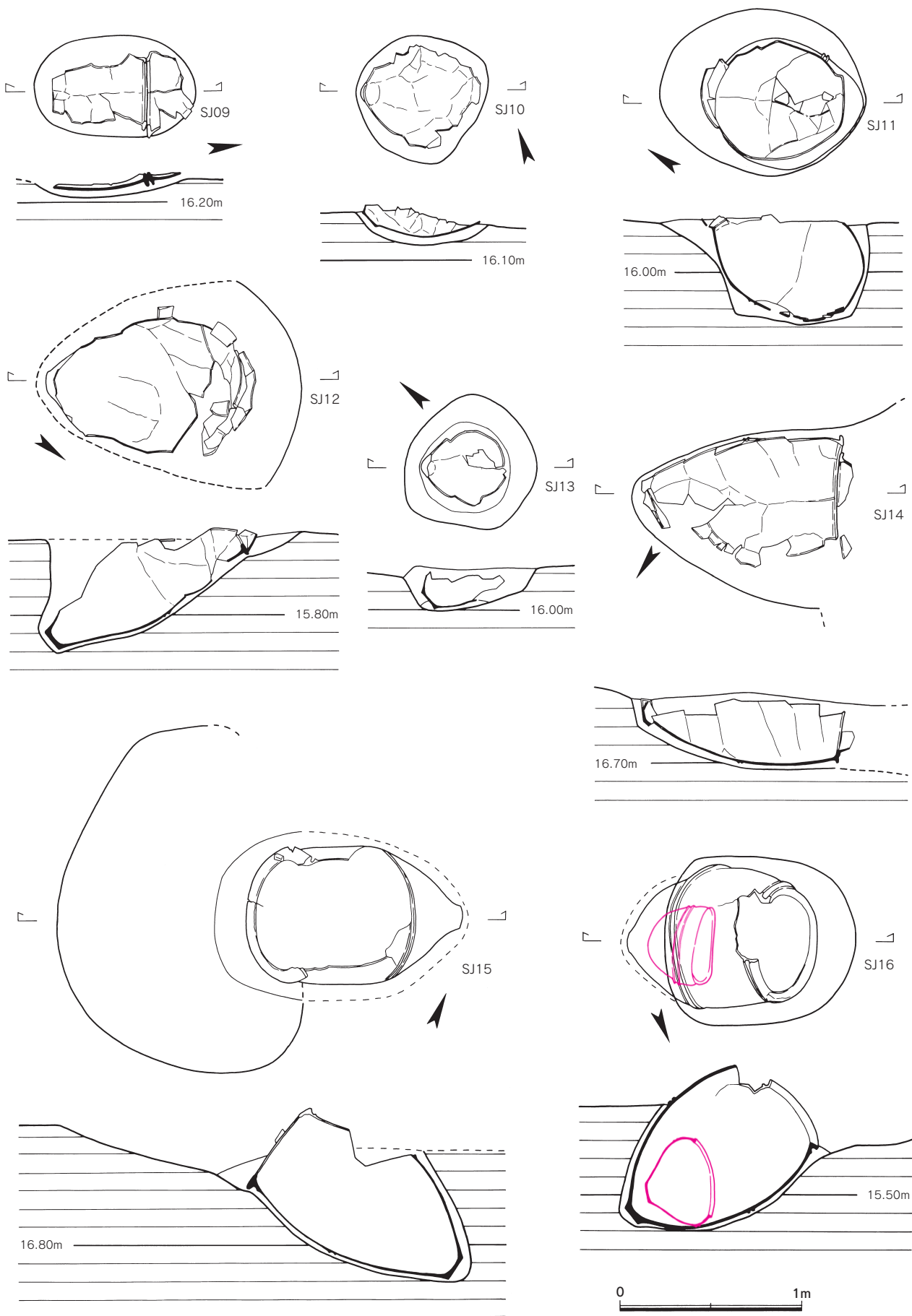


図6-4 内畑遺跡甕棺墓3 (1/30)

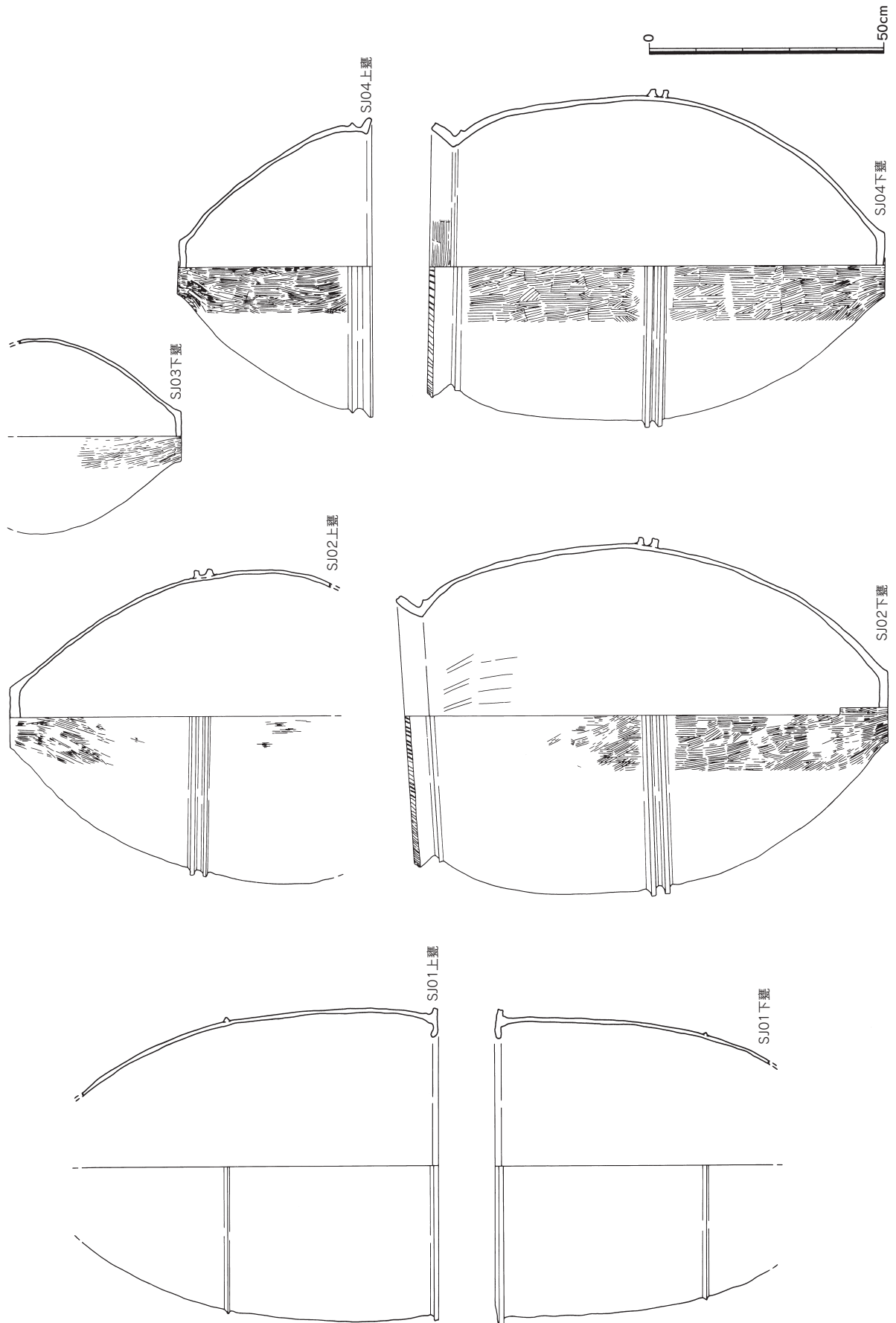


图6-5 内炷遺跡出土甕棺1 (1/12)

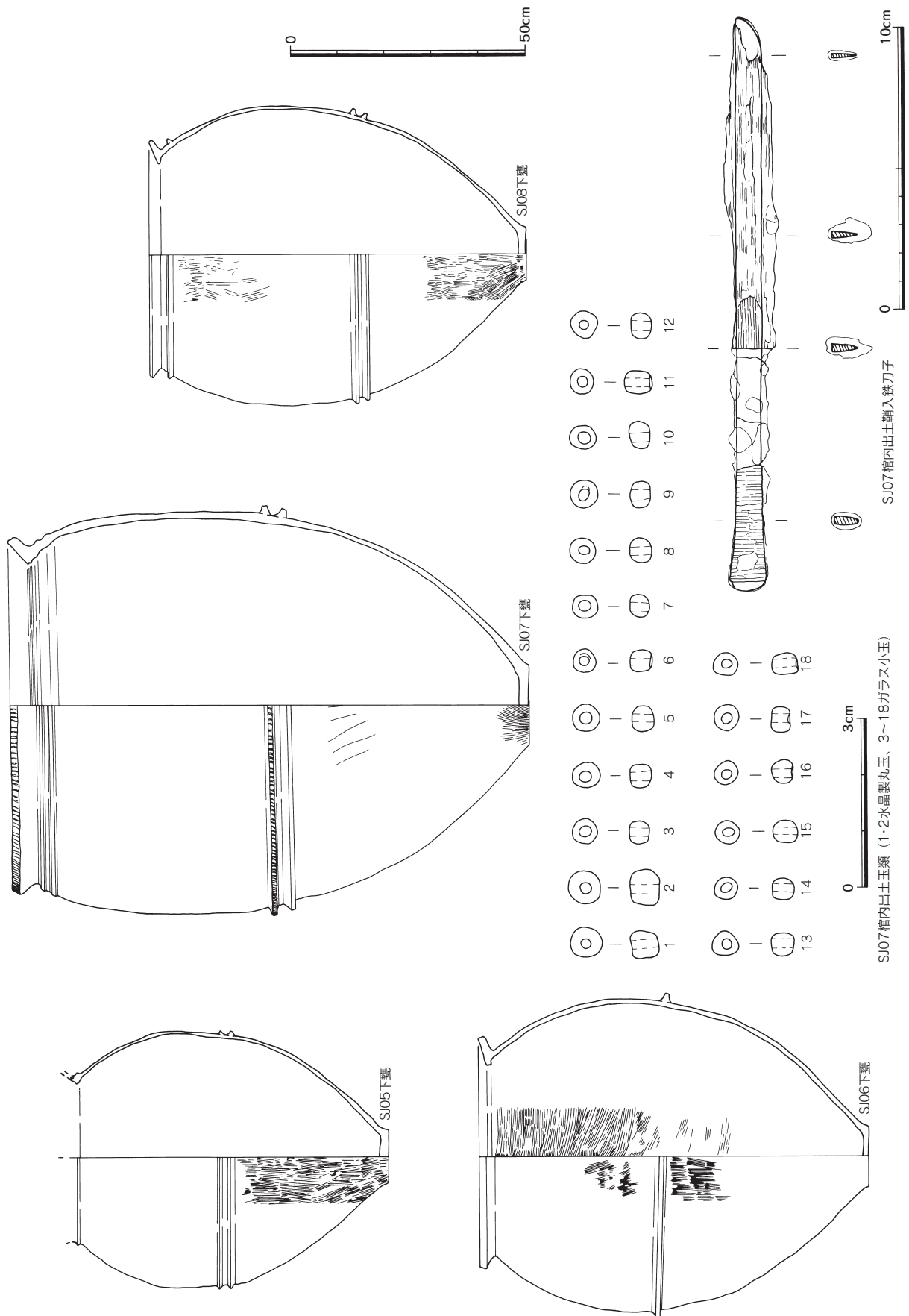


図6-6 内畑遺跡出土甕棺2 (1/12)・SJ07棺内副葬品 (玉類1/1、鞘入鉄刀子1/2)

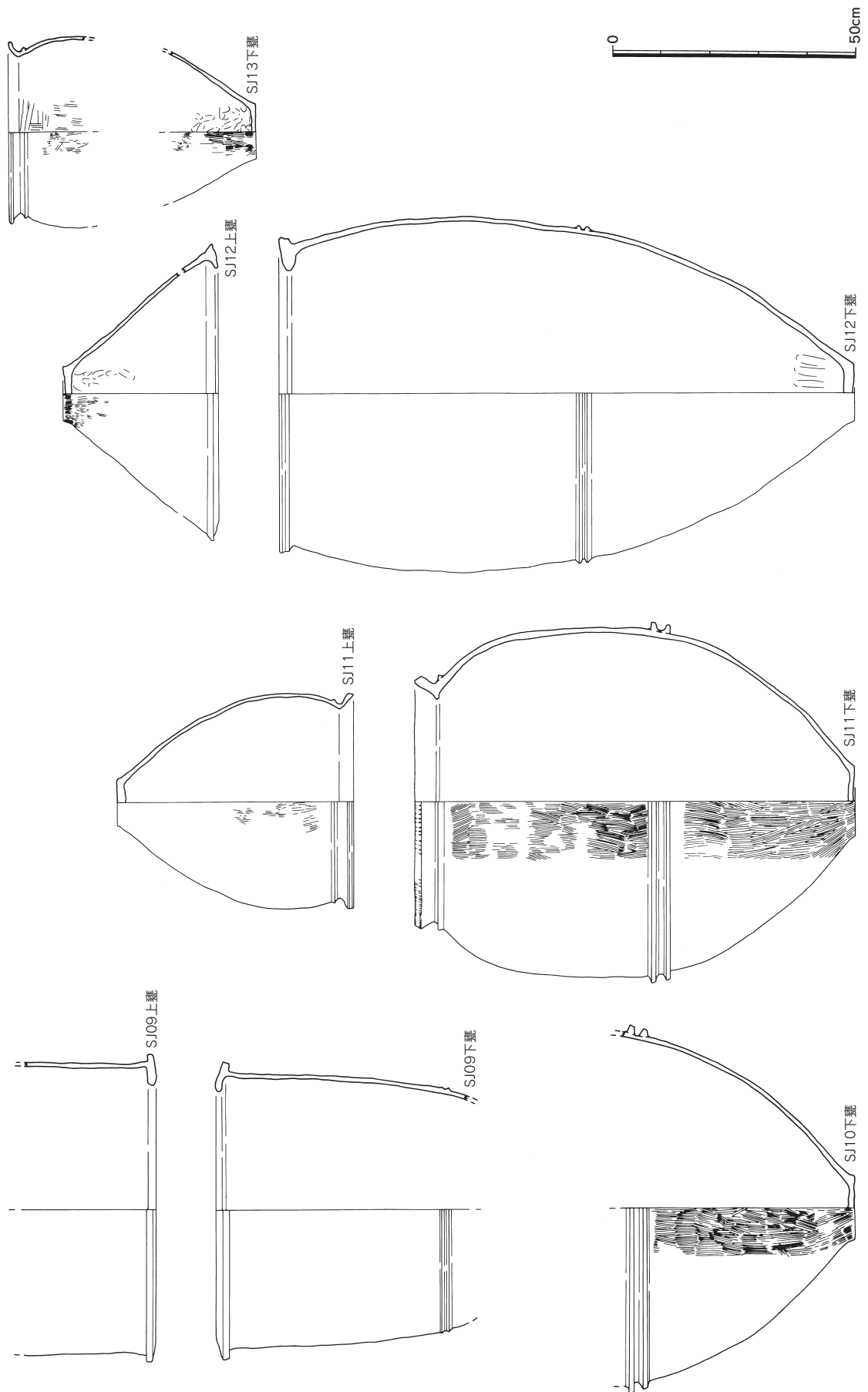


图6-7 内烟遺跡出土甕棺3 (1/12)

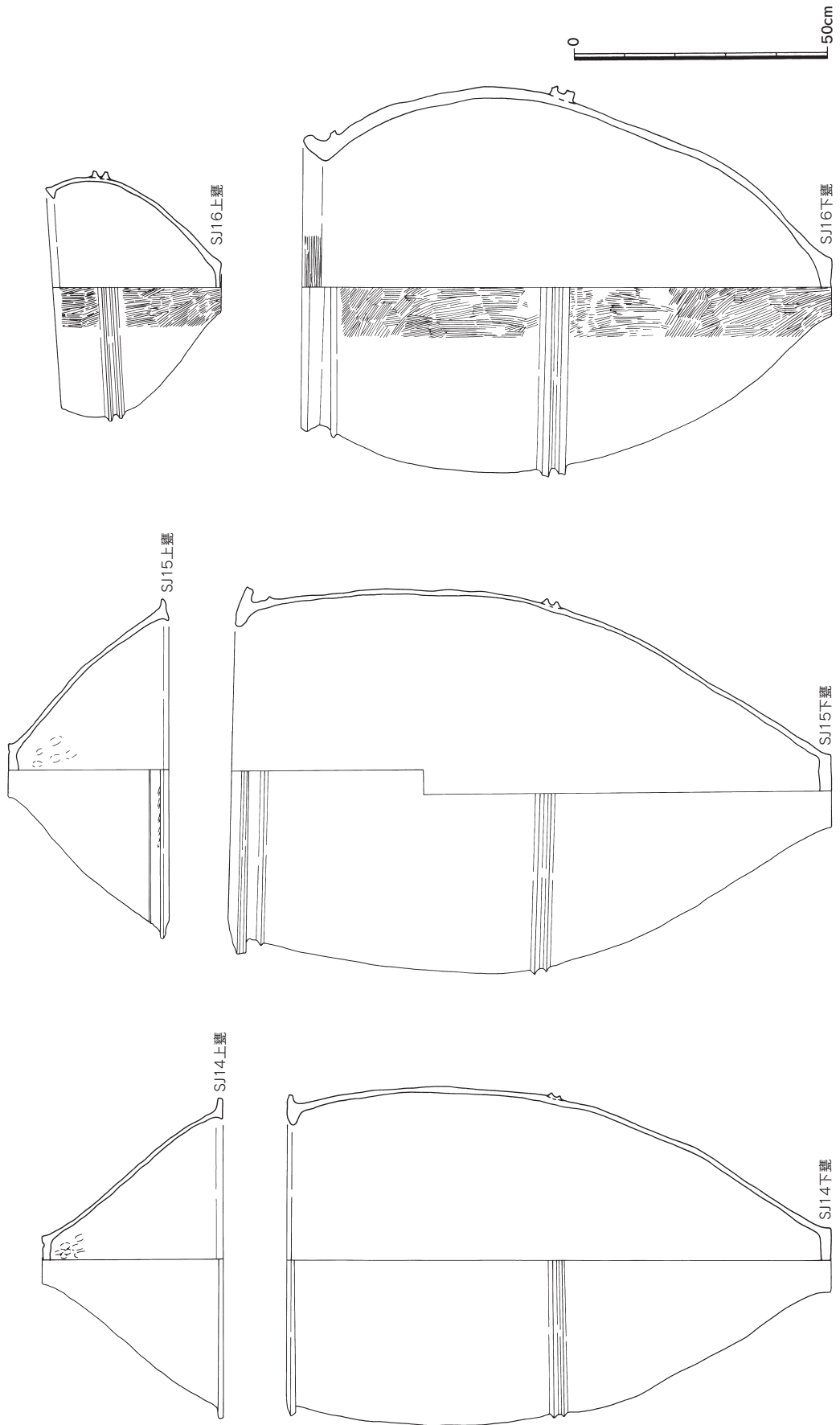


図6-8 内畑遺跡出土甕棺4 (1/12)

表6-2 内畑遺跡 甕棺観察表

遺構番号	器種	寸法		凸帯		胎土		備考	
		器高 胴最大径	口径 底径	口縁下	胴下	色調	砂粒		
SJ01	上	大甕	76.0 (67.5)	(67.2) -	-	1条	明黄褐	2mm以下	
	下	大甕	59.4 (64.6)	(68.0) -	-	1条	にぶい橙	7mm以下	
SJ02	上	大甕	68.6 67.6	- 13.2	-	2条 43.0	浅黄褐	5mm以下	
	下	大甕	102.3 77.4	58.5 15.6	1条 5.2	2条 53.4	橙	小砂粒	口縁刻み有
SJ03	下	小甕	25.1 41.8	- 10.8	-	-	にぶい褐	2mm以下	
SJ04	上	鉢	35.3 -	64.6 11.8	1条 3.6	-	明黄褐	小砂粒	
	下	大甕	96.6 72.8	59.0 14.0	1条 5.4	2条 50.6	浅黄橙	1~2mm	口縁刻み有
SJ05	下	大甕	67.8 (55.0)	- 11.6	1条	2条 36.6	橙	小砂粒	
SJ06	上	中甕	4.8 -	- 9.8	-	-	浅橙	小砂粒	
	下	中甕	82.6 67.3	49.8 13.0	-	1条 46.0	にぶい赤褐	小砂粒	
SJ07	下	大甕	109.0 85.2	75.2 16.4	2条 5.8	2条 54.8	浅黄橙	小砂粒	口縁・胴凸帯刻み有
SJ08	下	大甕	80.0 64.4	51.0 11.4	1条 4.8	2条 38.0	浅黄橙	5mm以下	
SJ09	上	大甕	27.7 -	(64.0) -	-	-	黄橙褐	3mm以下	
	下	大甕	51.9 -	(62.0) (13.4)	-	2条	明黄褐	1~4mm	
SJ10	下	大甕	48.4 -	- (13.4)	-	2条	浅黄褐	小砂粒	
SJ11	上	小甕	48.6 (44.4)	(45.0) 9.8	1条 3.5	-	浅黄	小砂粒	
	下	大甕	95.1 72.8	52.6 14.6	1条 4.6	2条 42.4	にぶい橙	1~2mm	口縁刻み有
SJ12	上	鉢	(32.0) -	(61.8) 11.6	-	-	淡橙	小砂粒	
	下	大甕	117.5 (74.2)	(65.7) (12.0)	-	2条 57.2	内：明褐灰 外：浅黄橙	1~2mm	
SJ13	上	小甕	16.2 -	(37.8) -	1条 2.7	-	橙褐	3mm以下	
	下	小甕	17.2 -	- 11.6	-	-	浅黄褐	小砂粒	
SJ14	上	鉢	35.6 -	(64.0) (9.4)	-	-	橙	小砂粒	
	下	大甕	106.8 67.8	64.0 13.0	-	2条 55.8	黄橙	1~2mm	
SJ15	上	鉢	31.6 -	(67.8) 10.6	-	-	黄褐	3mm以下	
	下	大甕	117.5 76.4	73.4 14.4	1条 4.0	2条 59.6	にぶい橙	1~4mm	
SJ16	上	鉢	33.1 48.0	44.4 10.1	-	2条 25.0	-	-	素口縁
	下	大甕	104.6 76.7	58.8 11.4	1条 5.8	2条 55.9	明黄橙	1~3mm	







1. SJ01甕棺墓（西から）



2. SJ02甕棺墓（北から）



3. SJ03甕棺墓（東から）



4. SJ04甕棺墓（南から、背後SJ07甕棺墓）



5. SJ05甕棺墓（南から）



6. SJ06甕棺墓（東から）



7. SJ07甕棺墓（南から）



8. SJ07甕棺墓出土鉄器（南から）



1. SJ08甕棺墓 (西から)



2. SJ09甕棺墓 (西から)



3. SJ11 (下)・SJ12 (上) 甕棺墓 (東から)



4. SJ13甕棺墓 (西から)



5. SJ14甕棺墓 (北から)



6. SJ15 (上)・SJ16 (下) 甕棺墓 (北から)



7. SJ16甕棺墓 (北から)



8. 作業風景 (南から)



1. SJ02甕棺下甕



2. SJ04甕棺上甕



3. SJ04甕棺下甕



4. SJ06甕棺下甕



5. SJ07甕棺下甕



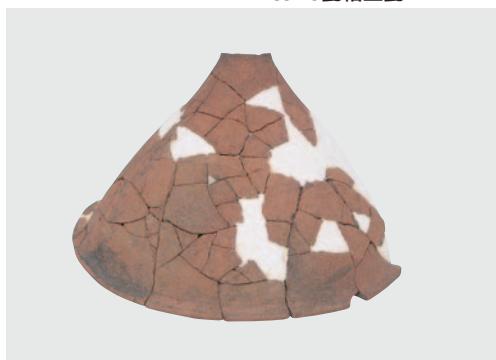
6. SJ08甕棺下甕



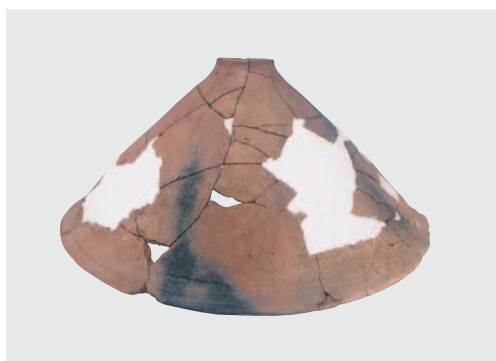
1. SJ16甕棺上甕



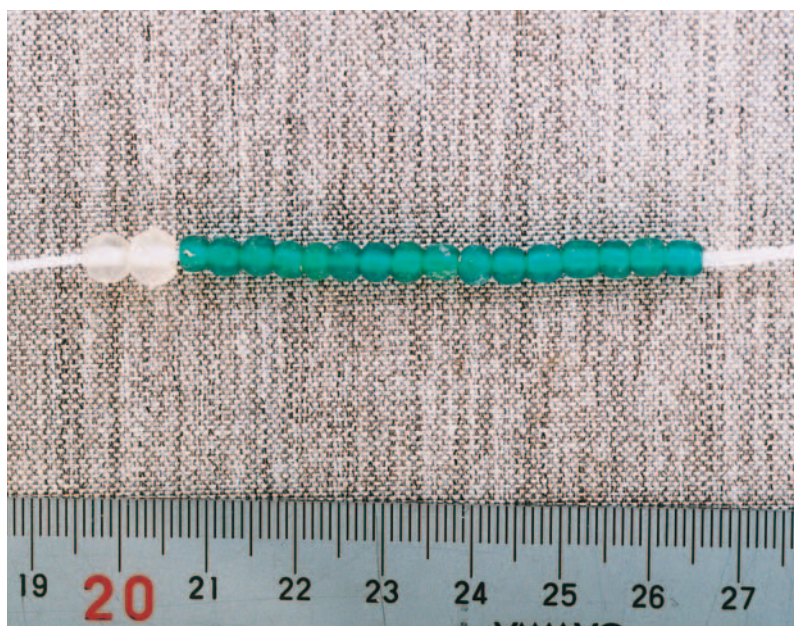
2. SJ16甕棺下甕



3. SJ14甕棺上甕



4. SJ15甕棺上甕



5. SJ07甕棺出土玉類



6. SJ07甕棺出土鞘入鉄刀子

## 第7章 鳥栖市域に所在する甕棺墓地及び出土遺物

### 甕棺墓地の立地状況

鳥栖市域では、様々な遺構・遺物が出土しているが、弥生時代の遺構・遺物が質量ともに大多数を占めている。安永田遺跡1・3次調査では、銅鐸・銅矛の鋳型、それに伴う鍛冶炉、本行遺跡1・2区からは銅鐸・銅矛の鋳型および青銅器（鋤先・小銅鐸）、柚比本村遺跡1区では甕棺墓に伴い赤漆玉鈿装鞘細形銅剣を初めとする青銅器、また大型建物跡の遺構等も出土している。これらの特出した遺構・遺物の他に集落跡も市内に数多く点在している。前期に位置する八ツ並金丸遺跡・今町岸田遺跡、中期の安永田遺跡・平原遺跡、後期の牛原原田遺跡・藤木遺跡・内精遺跡などがあげられる。前期・中期は主に高位段丘を中心とし、後期になると中・低段丘および扇状地に立地するようになる。それらに対応するように甕棺墓も多数確認されている。現在、鳥栖市域には、図7-1及び表7-1で示す地点で甕棺墓が出土している。

甕棺出土遺跡数は30遺跡を数え、墓群としては、小児棺のみの出土地点もあり一概には言えないが70墓群を超えるものと思われる。図7-1から見て取れるように、大きく3箇所に甕棺墓の分布が集中していることがわかる。

まず、鳥栖地域北東部に大きなグループがある。この地域は通称「柚比遺跡群」として周知されており、旧石器～中世にかけての大規模な複合遺跡である。近年の調査において、数多くの甕棺墓地が確認されている。なお甕棺の時期としては、前期～後期初頭（金海～桜馬場式）が出土しているが、多くは中期（汲田～立岩式）に属している。主要な墓地としては、前期に位置する八ツ並金丸遺跡8区・フケ遺跡、中期では柚比梅坂遺跡・柚比本村遺跡・安永田遺跡などが挙げられる。柚比本村遺跡1区では、大型建物跡を備えた大規模首長墓クラスの墓地（墳丘墓の可能性も指摘されている）も出土している。後期に入ると、周辺地区の集落の数が激減するとともに甕棺墓も終息を迎える。

次に鳥栖駅周辺に所在する甕棺墓地群である。基本的には大規模な甕棺墓地については確認できていないが、内畑遺跡・藤木遺跡・今泉遺跡等から断片的ではあるが、大規模な甕棺墓地の存在を伺える調査が近年増加している。この地域は標高20m程に立地する場所に所在し、鳥栖地域の支嶺九千部山から柚比遺跡群がのる高位段丘をへて、丘陵縁辺部の中低位段丘際に位置する遺跡群である。詳細についてはわからない点が多々あるが、中期から後期にかけての甕棺墓が中心と成している。集落同様に墓域についても南の現市街地の中低位段丘上に移動している様相である。内畑遺跡からは2,000個ものガラス玉を埋納していた甕棺墓も確認されており、首長クラスについても丘陵上から移動したものと推測される。

3地区目として、本行遺跡を中心とした甕棺墓地群があげられる。これらについては、調査された地点が極めて少なく、詳細については多くを述べることはできないが、以前から甕棺包蔵地として知られていた地区である。村田三本松遺跡からは縄文晩期から継続して営まれた墓地群があり、周辺地区からは甕棺片が多数散布している。本行遺跡は青銅器生産地点、また多数の集落跡が見られることからそれに伴う大規模な甕棺墓地の存在は高い。ただ、今後の調査によって大きくかわる可能性も有している地区である。

### 甕棺墓からの遺物出土状況

立地的にはこのような流れをもっているが、次に甕棺墓から出土した遺物は次のとおりである。

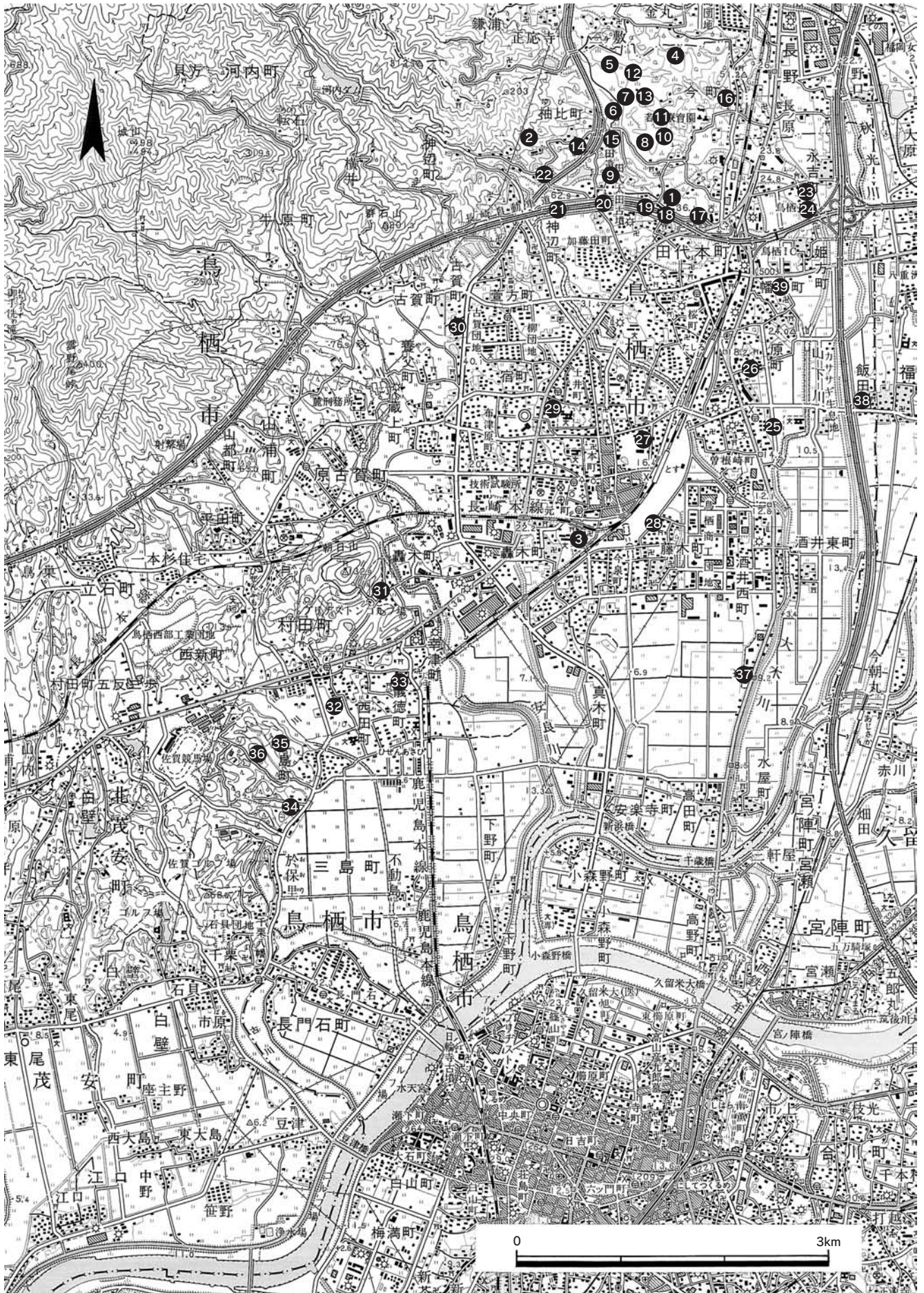


图7-1 鳥栖地域甕棺墓出土地点 (1/50,000)

表7-1 鳥栖市域における甕棺墓出土地点

	遺跡名称	甕棺墓数	大型棺	中型棺	小型棺	不明	時期	住所	参考文献等
1	フケ遺跡1区	43	8	2	4	29	前期末～中期後葉	田代本町字フケ・袖比町字平原	
	フケ遺跡2区	16	5	4	7	-	前期末～中期中葉	田代本町字フケ	
	フケ遺跡3区	17	6	2	-	9	前期末～中期前葉	田代本町字フケ1314-47	
2	神山遺跡	99	29	7	12	51	中期中葉～後葉	袖比町字神山・本陣	
	内畑遺跡	16	14	-	1	1	中期中葉～後期前葉	元町字内畑	
3	内畑遺跡	1	-	-	-	1	後期初頭～前葉	元町字内畑1160-1	1950頃 ③①
	八ッ並・金丸遺跡4区	2	-	-	-	2	-	今町字八ッ並	調査(1999)
4	八ッ並・金丸遺跡8区	31	-	-	-	31	前期末～	今町字八ッ並	②⑤
	八ッ並・金丸遺跡9区	212	-	-	-	212	-	今町字八ッ並	②⑤
	八ッ並・金丸遺跡10区	24	-	-	-	24	-	今町字八ッ並	②⑤
	袖比梅坂遺跡(確認調査)	80	-	-	-	80	中期前葉～中葉	袖比町字梅坂・永田	
5	袖比梅坂遺跡A区	34	19	1	3	11	中期中葉～後葉	袖比町字梅坂・永田	②⑦
	袖比梅坂遺跡B区	196	95	22	37	42	中期中葉～後期前葉	袖比町字梅坂・永田	②⑦
	袖比梅坂遺跡C区	157	71	17	33	36	中期中葉～後葉	袖比町字梅坂・永田	②⑦
	袖比梅坂遺跡(確認調査)	7	-	-	-	7	-	袖比町字梅坂・永田	確認調査(2001)
6	袖比本村遺跡1区	45	-	-	-	45	前期末～後期前葉	袖比町字梅坂・前田	③⑩
	袖比本村遺跡3区	1	-	-	1	-	-	袖比町字前田	調査(1996)
	袖比本村遺跡4区	200	-	-	-	200	-	袖比町字永田	調査(1998～1999)
	袖比本村遺跡5区	3	-	-	-	3	-	袖比町字前田・神山	②④
	うつろ坂遺跡1区	3	-	-	3	-	中期中葉	袖比町字梅坂・永田	②⑦
8	大久保遺跡(確認調査)	34	1	1	3	29	中期初頭～末	袖比町字大久保・平原	
	大久保遺跡1A区	4	-	-	2	2	中期中葉	袖比町字大久保・平原	②⑥
	大久保遺跡1区	4	-	-	-	4	中期中葉	袖比町字大久保・平原	②⑥
	大久保遺跡2区	11	-	1	5	5	中期中葉	袖比町字大久保・平原	②⑥
	大久保遺跡4区	1	-	-	1	-	中期前葉	袖比町字大久保・平原	②⑩
	大久保遺跡6区	324	108	33	79	104	前期末～後期初頭	袖比町字大久保・平原	②⑪ ②⑫
	大久保遺跡7区	3	2	-	-	1	中期中葉	袖比町字大久保・平原	②⑫
9	安永田遺跡1次	36	14	1	18	3	中期初頭～後葉	袖比町字安永田	
	安永田遺跡3次	8	3	1	2	2	中期前葉～中葉	袖比町字安永田	
	安永田遺跡5区(5次)	165	18	3	16	128	中期前葉～後葉	袖比町字安永田・平原	②⑦
	安永田遺跡7次	59	29	8	12	10	中期初頭～後期初頭	袖比町字荻野	
	安永田遺跡8次	352	206	29	72	45	前期末～中期末	神辺町字河原田288-1	
	安永田遺跡	2	-	-	-	2	-	袖比町字安永田	確認調査(1999)
	安永田遺跡(確認調査)	-	-	-	-	-	-	-	耕地整理(1912)
10	平原遺跡5区	8	-	-	8	-	中期前葉～中葉	袖比町字平原・大久保	②⑥
	平原遺跡7区	39	7	8	13	11	中期前葉～中葉	袖比町字平原・大久保	②⑥
	梅坂炭化米遺跡1区	3	2	-	-	1	中期初頭～前葉	今町字梅坂・袖比町字大久保	②⑥
11	梅坂炭化米遺跡(確認調査)	3	1	2	-	-	前期末～中期前葉	今町字梅坂591-17他	
	今町梅坂西遺跡	32	9	9	11	3	中期前葉～中葉	今町字梅坂	②⑥
12	今町梅坂西遺跡(確認調査)	4	3	1	-	-	中期前葉～中葉	今町字梅坂	
	大久保北遺跡1区	9	-	1	7	1	中期前葉～後期初頭	袖比町字梅坂・大久保・今町字梅坂	②⑥
13	大久保北遺跡2区	2	-	-	2	-	中期中葉	袖比町字梅坂・大久保・今町字梅坂	甕棺片多数出土 ②⑥
	田代公園遺跡	1	-	-	1	-	中期中葉	袖比町字荻野	②⑦
	田代公園遺跡	8	-	-	-	8	-	袖比町字荻野	調査(1972)
15	前田遺跡2区	7	-	-	5	2	中期中葉	袖比町字前田・荻野	②⑦
	前田遺跡4区	2	-	-	2	-	中期中葉	袖比町字前田・荻野	②⑦
	前田遺跡7区	2	-	-	2	-	中期中葉	袖比町字前田・荻野	②⑦
16	今町大地添遺跡	-	-	-	-	-	-	今町字大地添・八ッ並	旧今町甕棺遺跡
	田代天満宮東方遺跡	95	46	23	12	14	中期前葉～中葉	田代本町字中尾	
18	畑ヶ田遺跡	2	-	-	-	2	-	田代本町字フケ	
	東田遺跡	4	-	-	3	1	中期前葉	田代本町字太田	
19	荻野遺跡	4	2	1	1	-	中期初頭	袖比町字荻野	
	日岸田遺跡	7	3	-	4	-	中期中葉	神辺町字日岸田	
22	河原田北遺跡	-	-	-	-	-	-	神辺町字河原田	甕棺片を確認(1969)
	南西川遺跡	-	-	-	-	-	-	永吉町字南西川・幡崎町字葱の隈	②⑨
24	立田石遺跡	-	-	-	-	-	-	幡崎町字立田石・永吉・南西川	②⑧
	恒石遺跡	2	-	-	-	-	-	原町字恒石・牟田	②⑧
26	下原遺跡	2	2	-	-	-	中期前葉	原町字下原	
	京町遺跡2区	1	-	-	1	-	中期中葉	本鳥栖町字下鳥栖	
28	藤木遺跡3区	4	4	-	-	-	中期中葉	藤木町字切ノ口	
	原口遺跡	1	-	-	1	-	-	本町字原口1488-1	調査(1989)
30	花ノ木遺跡	-	-	-	-	-	-	古賀町字花の木	確認調査(1978)
	安良遺跡2区	6	6	-	-	-	後期初頭～前葉	幸津町字東馬場	
	安良遺跡3区	24	14	4	5	1	前期末～後期前葉	儀徳町字浦田	
	安良遺跡4区	4	3	-	1	-	中期中葉	幸津町字安良	
	安良遺跡5区	34	19	-	3	12	中期中葉～後葉	幸津町字安良	②②
32	三本松遺跡1区	24	16	1	5	2	前期後葉～中期中葉	村田町字三本松210他	
	三本松遺跡2区	4	-	-	-	4	中期中葉	村田町字三本松	
33	儀徳遺跡	2	-	-	-	2	-	儀徳町村内・本庄	
	本行遺跡2区	12	5	5	1	1	中期後葉～後期後葉	江島町字本行	
35	相模遺跡	-	-	-	-	-	-	江島町字相模・天神記・奈良の元	甕棺片分布
	天神記遺跡	-	-	-	-	-	-	江島町字天神記・相模・狂言谷	甕棺片分布
37	樋ノ口遺跡	4	-	-	-	4	-	酒井西町字樋ノ口692他	
	飯田遺跡	-	-	-	-	-	-	飯田町字前田	甕棺片を多数確認(2002)
39	姫方遺跡	-	-	-	-	-	-	姫方町字姫方・宮の前	甕棺片を確認(1997)
		2630	779	196	412	1243			

器高で分類  
大型棺 70cm以上

中型棺 50cm～69cm

小児棺 49cm以下

完形もしくは復元器高が導けるもののみ。他については不明に分類



1 柚比本村遺跡1・4区

1区からは、重要文化財に指定されている7本の銅剣・赤漆玉細装鞘銅剣・ガラス勾玉・鉄剣が出土する。また、周辺地区からは丹塗磨研土器を含む祭祀土坑、3回立て替えられた大型建物跡などが確認されている。同遺跡4区からは200基ほどの甕棺墓が検出され、首なし人骨・貝輪（5点）をみることができる。

2 柚比梅坂遺跡A・B・C群

柚比梅坂遺跡は、総計400基を超える大規模な甕棺墓地を形成している。A群からは磨製石剣3点、磨製石鏃2点、打製石鏃1点、B群からは貝製品（イモガイ）、C群は銅剣の切先が出土する。

3 安永田遺跡第7・8次

第7次調査では、石剣1点、銅剣1点、銅矛1点、石戈1点が出土している。なお同時期の土壌墓（中期中葉）からは鉄鏃5点が出土する。

第8次調査では352基の甕棺墓のほか、多数の土壌墓・古墳が確認されている。甕棺内部からは、磨製石鏃5点、打製石鏃2点、石剣（切先）2点、石製管玉2点、鉄剣1点（長さ34.6cm）が出土する。

4 大久保遺跡6区

鉄鏃出土。なお周辺地区からは、甕棺墓のほか、住居跡、甕棺焼成遺構などが確認されている。

5 内畑遺跡

標高26m付近の低中段丘上に位置する。他の遺物出土地点は鳥栖北部地区に集中しており、他の場所では初例である。鞘入鉄刀子・ガラス小玉・水晶製丸玉が出土。なお、鳥栖市文化財調査報告書第70集で報告した内畑遺跡より北東に位置する地点から1950年代にガラス小玉1969点が出土する。

6 安永田遺跡

大正2年(1912)の耕地整理の際、多くの甕棺墓が確認されており、銅戈1点、鉄剣2点が出土したことが、松尾禎作(1935)に記載されている。なお遺物は、東京国立博物館、甕棺は本山農業博物館を経て関西大学考古学研究室蔵となっている。

以上簡単に鳥栖地域で確認されている甕棺墓地及び出土遺物について紹介した。なお、末尾に甕棺墓出土地点に関する報告書・文献等の一覧について添付している。詳細についてはそれらを参照していただきたい。

## 参考文献

- ①鳥栖市教育委員会（1980）「大久保遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第6集
- ②鳥栖市教育委員会（1982）「梅坂炭化米遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第10集
- ③鳥栖市教育委員会（1983）「安永田遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第16集
- ④鳥栖市教育委員会（1983）「村田三本松遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第17集
- ⑤鳥栖市教育委員会（1984）「柚比遺跡群範囲確認調査第6年次概要報告書」鳥栖市文化財調査報告書第18集
- ⑥鳥栖市教育委員会（1984）「フケ遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第20集
- ⑦鳥栖市教育委員会（1985）「安永田遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第25集
- ⑧鳥栖市教育委員会（1986）「梅坂古墳群」鳥栖市文化財調査報告書第27集
- ⑨鳥栖市教育委員会（1989）「鳥栖市市内遺跡発掘調査文化財調査報告書」鳥栖市文化財調査報告書第37集
- ⑩鳥栖市教育委員会（1996）「市内遺跡群の調査」鳥栖市文化財調査報告書第50集
- ⑪鳥栖市教育委員会（1997）「京町遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第54集
- ⑫鳥栖市教育委員会（1997）「本行遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第51集
- ⑬鳥栖市教育委員会（2001）「安永田遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第62集
- ⑭鳥栖市教育委員会（2001）「安永田遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第67集
- ⑮鳥栖市教育委員会（2002）「藤木遺跡・今泉遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第68集
- ⑯鳥栖市教育委員会（2003）「フケ遺跡・神山遺跡・内畑遺跡」鳥栖市文化財調査報告書第70集（本稿）
- ⑰佐賀県教育委員会（1973）「田代天満宮東方遺跡」佐賀県文化財調査報告書第26集
- ⑱佐賀県教育委員会（1991）「都谷遺跡」佐賀県文化財調査報告書第102集
- ⑲佐賀県教育委員会（1996）「佐賀県文化財年報1」
- ⑳佐賀県教育委員会（1997）「大久保遺跡」佐賀県文化財調査報告書第131集
- ㉑佐賀県教育委員会（1998）「大久保遺跡」佐賀県文化財調査報告書第137集
- ㉒佐賀県教育委員会（1997）「佐賀県文化財年報2」
- ㉓佐賀県教育委員会（1998）「佐賀県文化財年報3」
- ㉔佐賀県教育委員会（2000）「佐賀県文化財年報5」
- ㉕佐賀県教育委員会（2001）「佐賀県文化財年報6」
- ㉖佐賀県教育委員会（2001）「柚比遺跡群1」佐賀県文化財調査報告書第148集
- ㉗佐賀県教育委員会（2002）「柚比遺跡群2」佐賀県文化財調査報告書第150集
- ㉘松尾禎作（1935）「東肥前の先史遺跡」
- ㉙小田富士雄（1959）「佐賀県田代発見の石剣と土器」『九州考古学第7・8号』九州考古学会
- ㉚渋谷格（1994）「鳥栖市柚比本村遺跡の調査」『九州考古学第69号』九州考古学会
- ㉛久山高史（1994）「鳥栖市内畑遺跡甕棺墓出土のガラス製頸飾」『佐賀考古1』佐賀考古談話会



鳥栖市文化財調査報告書第70集  
フケ遺跡 神山遺跡 内畑遺跡  
- 市内遺跡関係埋蔵文化財調査報告書 -

平成15年 3月31日 発行

編集 鳥栖市教育委員会  
発行 佐賀県鳥栖市宿町1118番地

印刷 株式会社 三光  
佐賀県伊万里市大坪町乙4161 - 1

